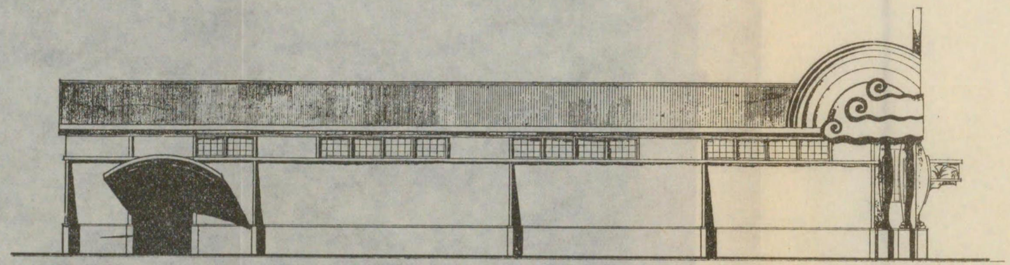
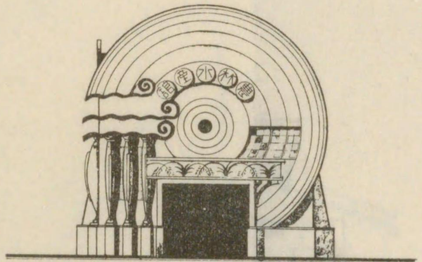
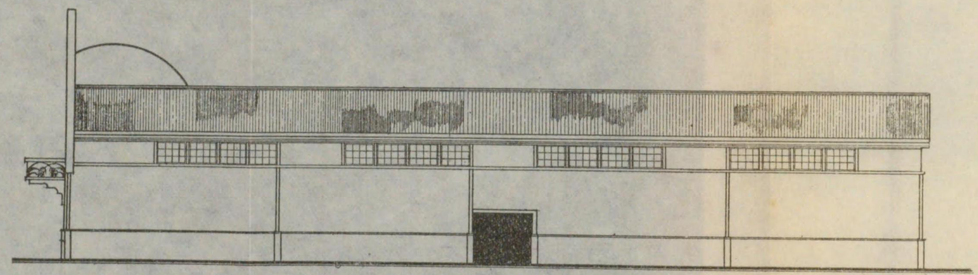
農林水産館設計圖



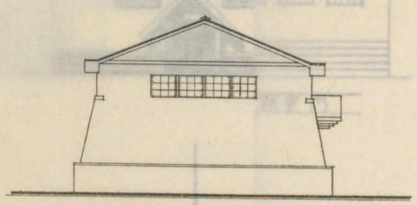
左側面図



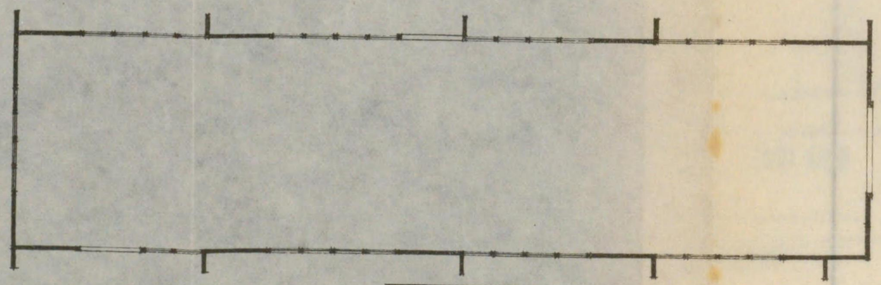
正面図



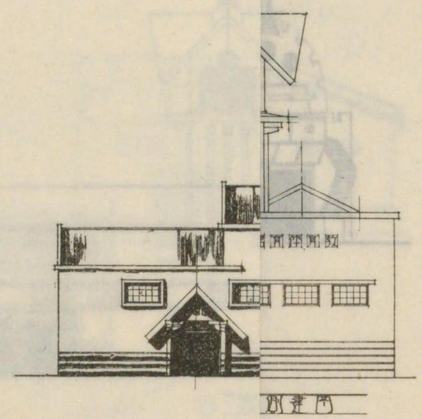
右側面図

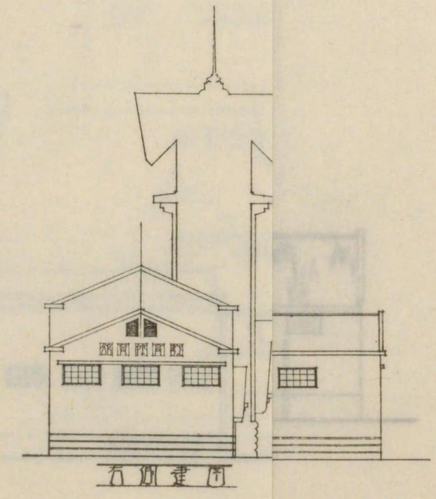


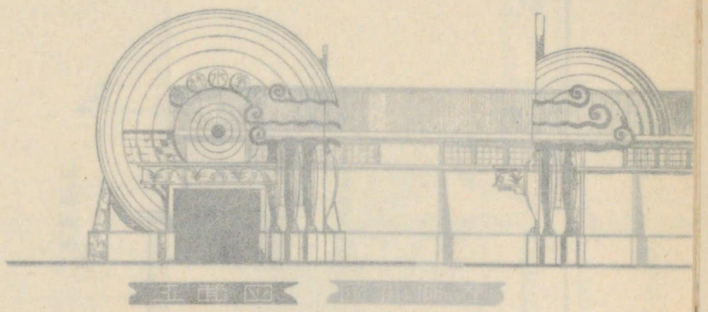
背面図

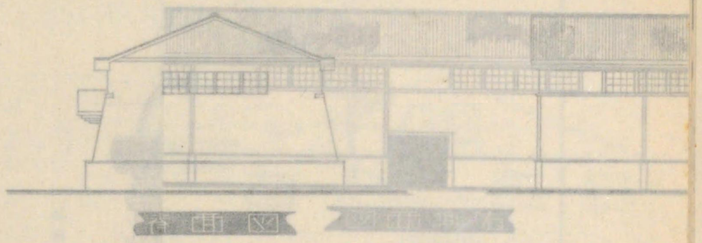


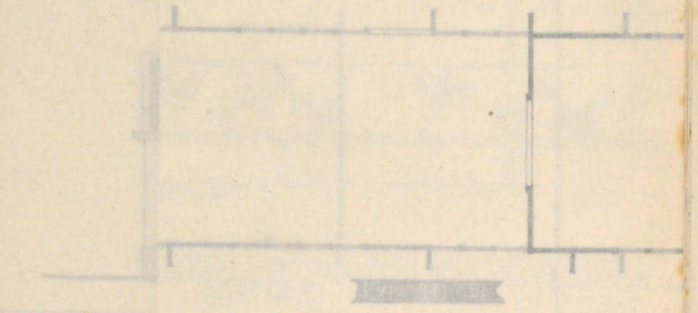
平面図



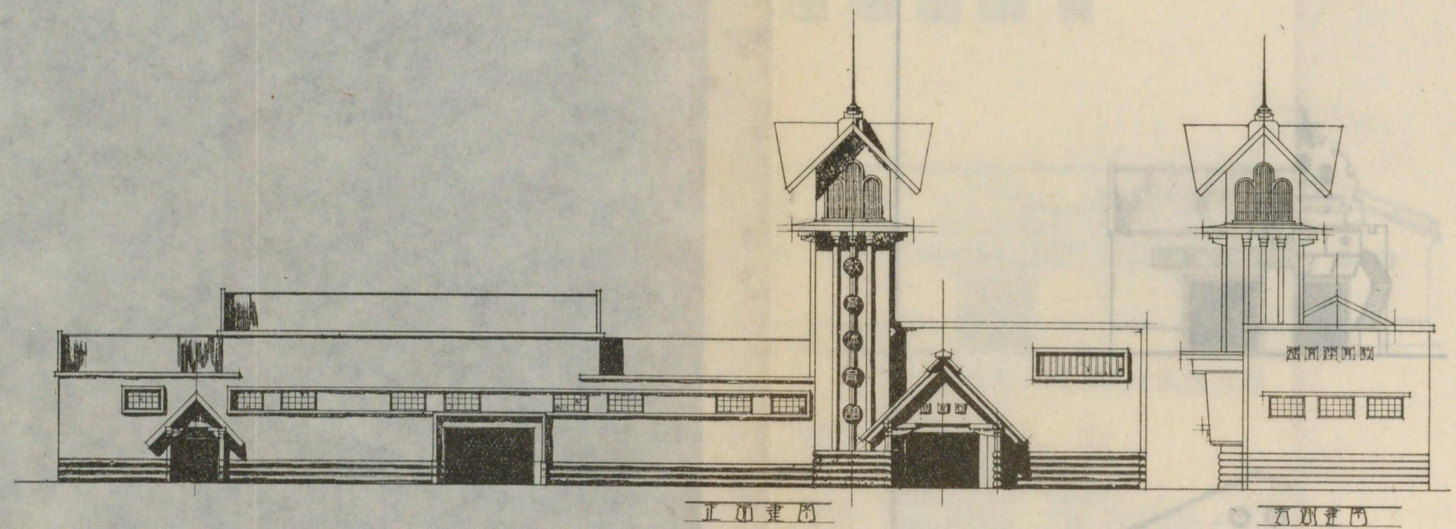


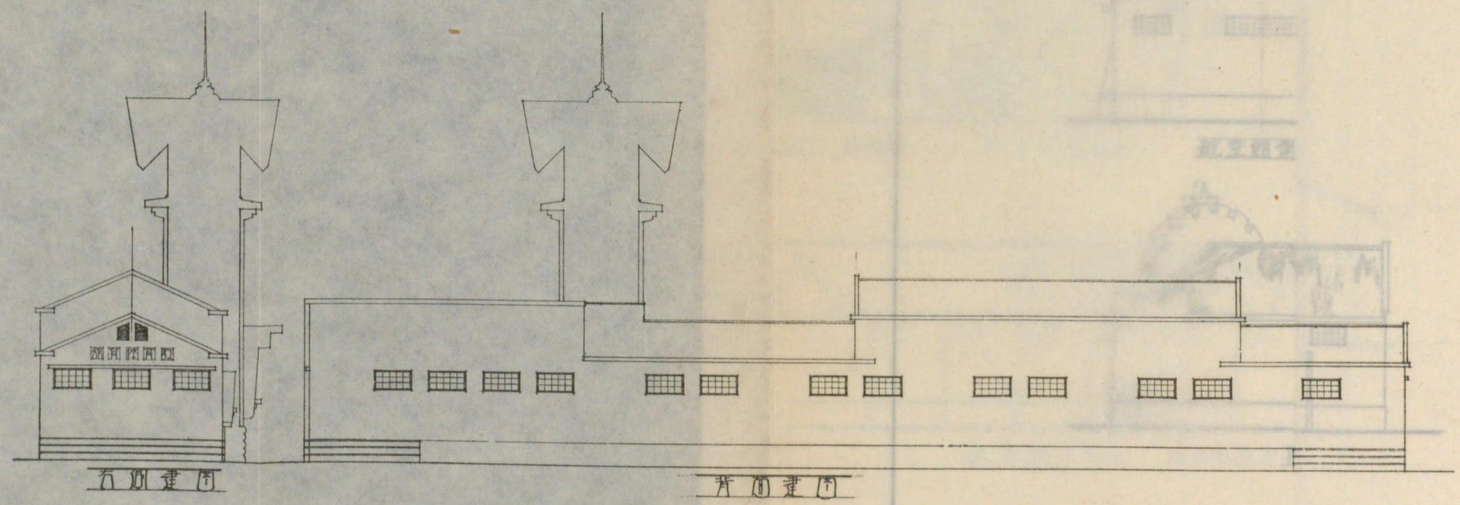


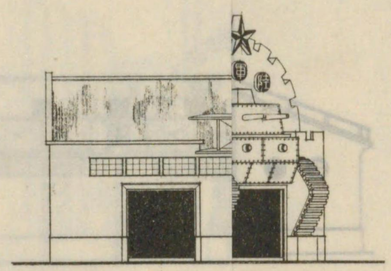


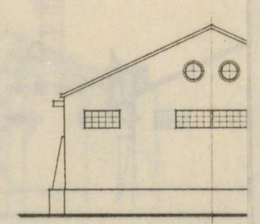


教育体育館設計圖

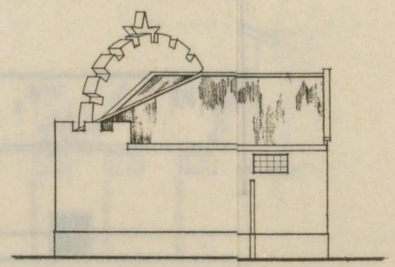




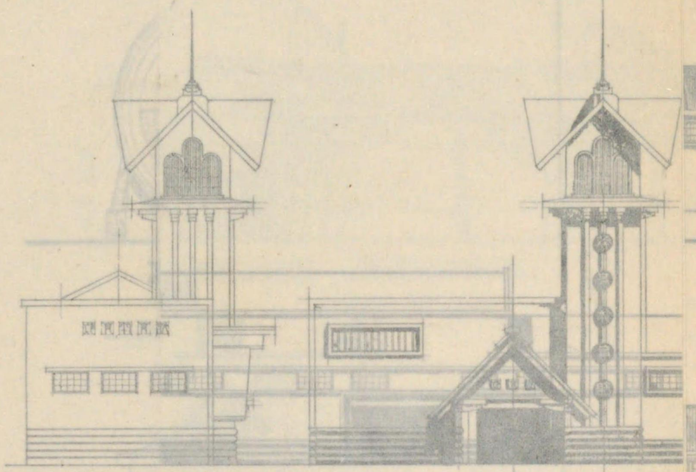


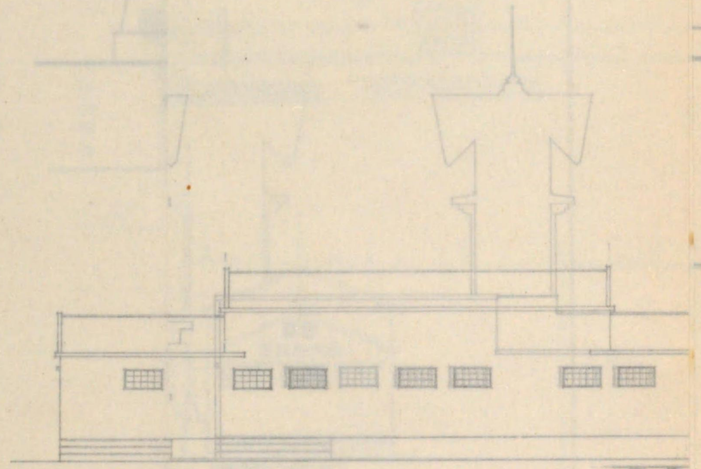


航空館側

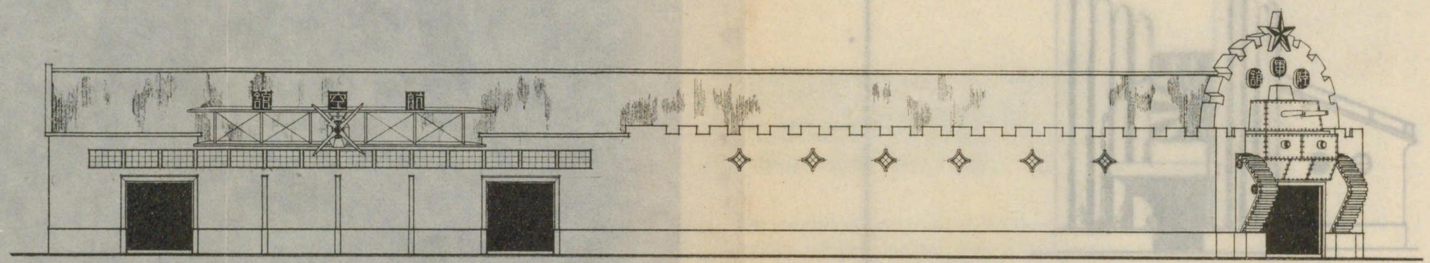


正

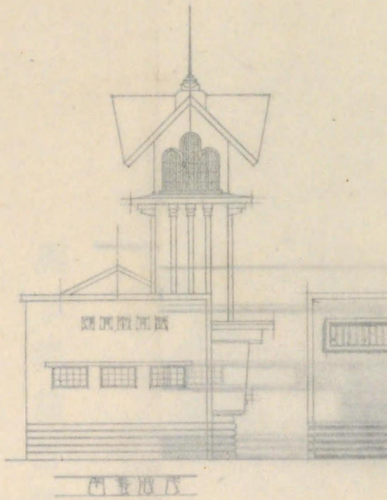




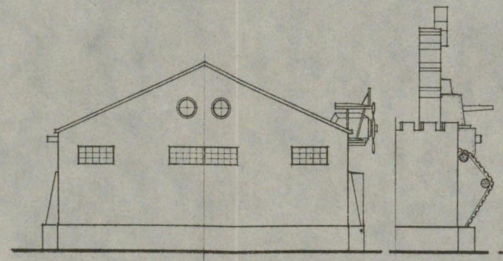
陸軍館航空館設計圖



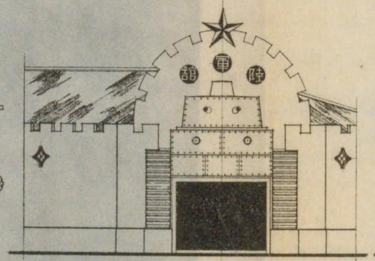
航空館正面畫



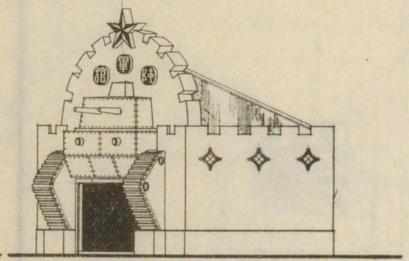
陸軍館正面畫



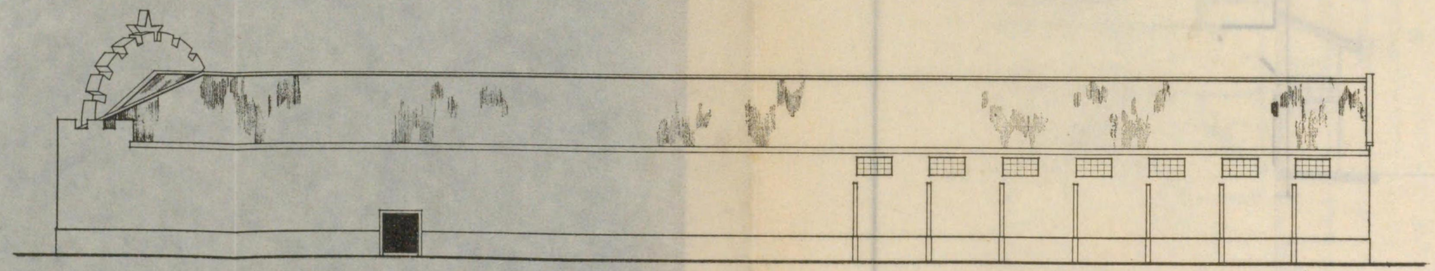
航空館側面畫



陸軍館入口正面畫



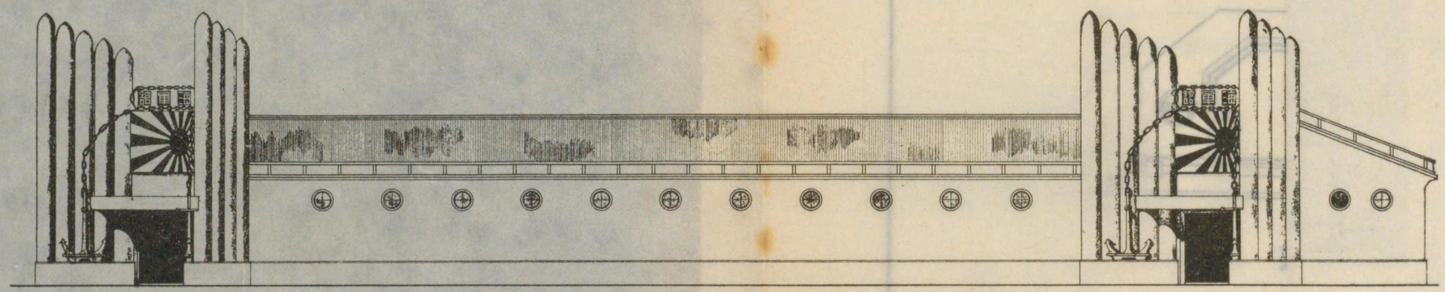
陸軍館側面畫

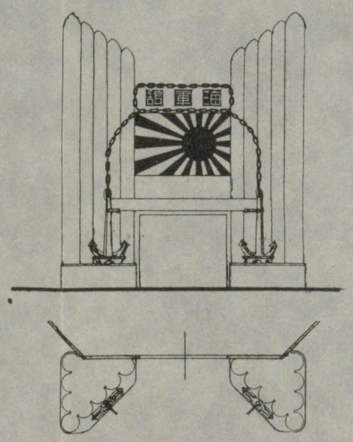


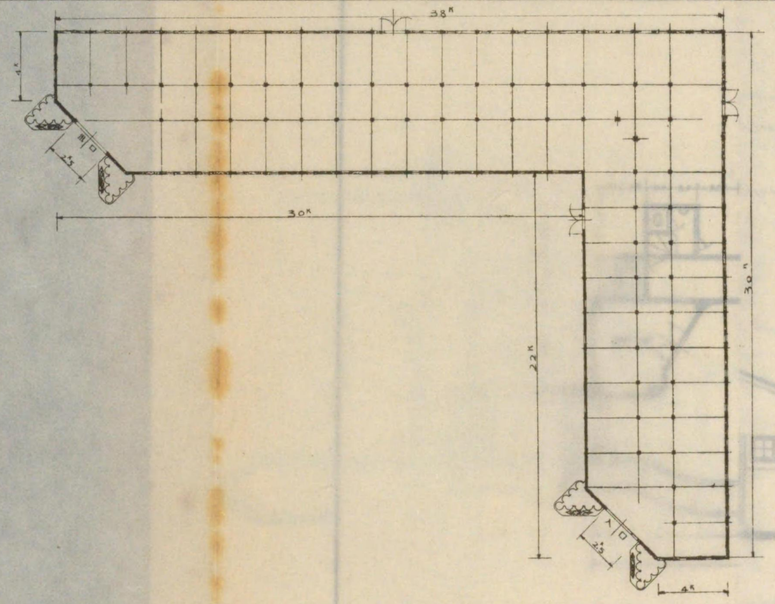
陸軍館背面畫

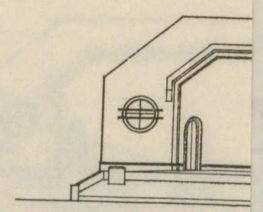
航空館背面畫

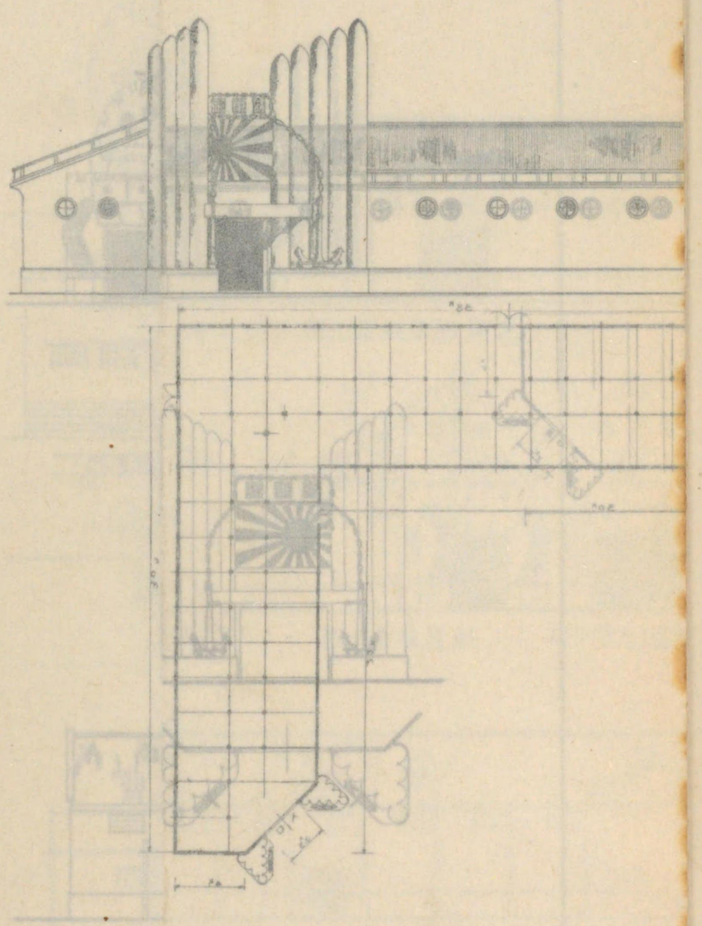
海軍館設計圖



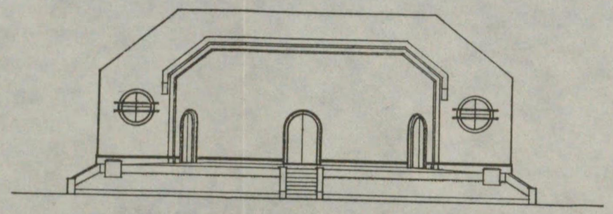




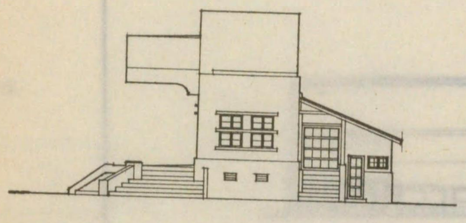




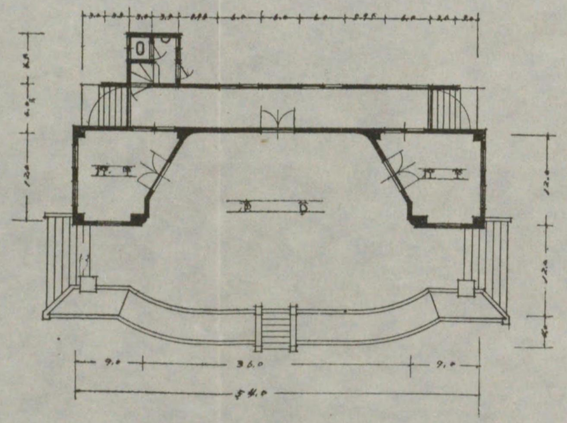
音樂堂設計圖



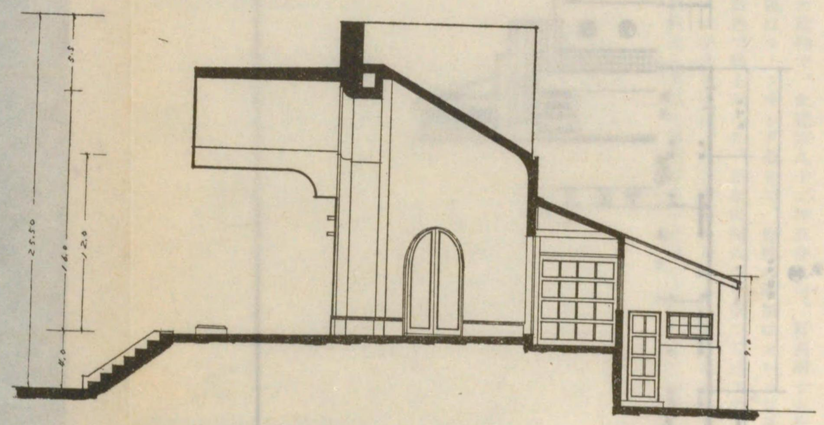
正面圖



側面圖



平面圖

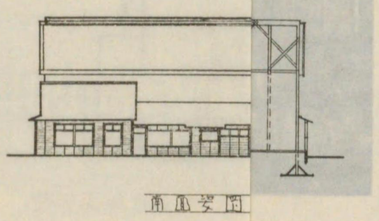


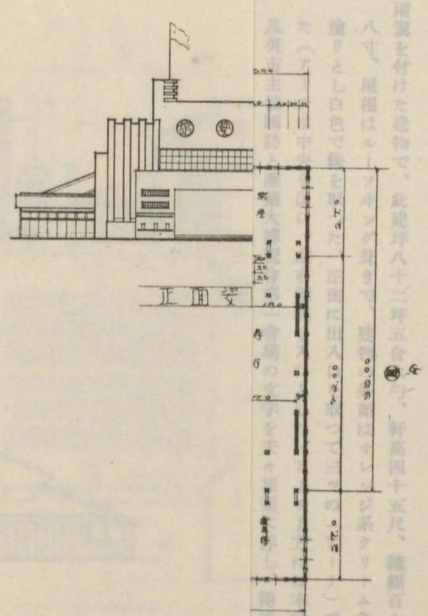
斷面圖

本會建造物（第一會場）

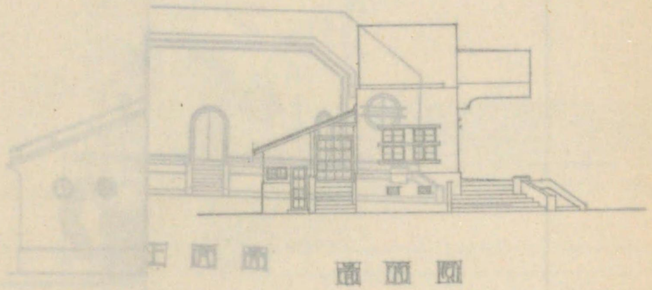
【第一會場正門】

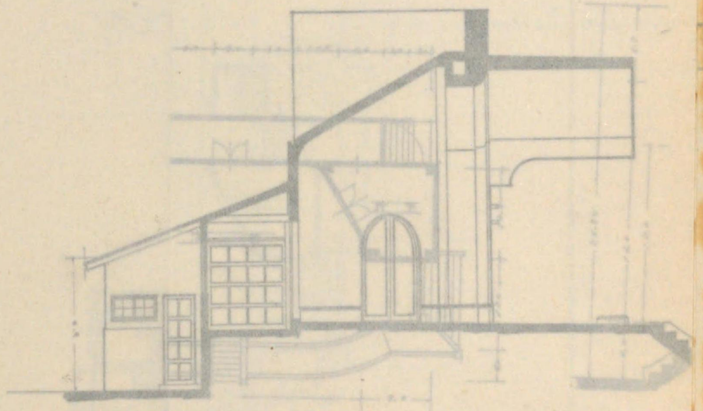
公園通りに正面を向け、東西に擴り八字型に兩翼を付けた建物で、此建坪八十二坪五合[illegible]、軒高四十五尺、總幅百七十四尺八寸、屋根はルーフィング葺きで建物の[illegible]面はオレンジ系クリーム色の漆喰塗りとし白色で縁を取った正面に出入[illegible]で仕切つた（[illegible]）



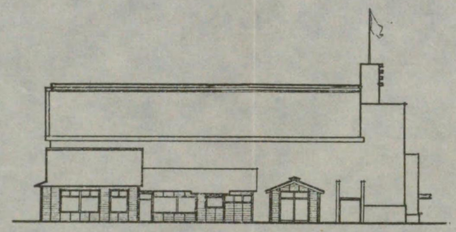


堂設樂計音圖

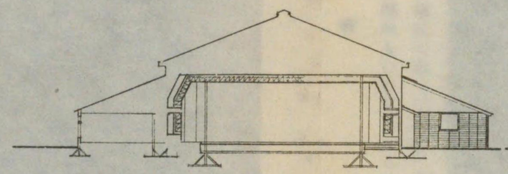




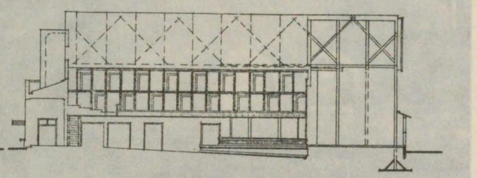
演藝館設計圖



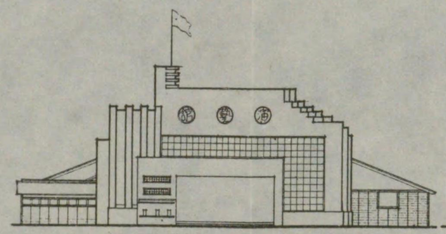
南面姿圖



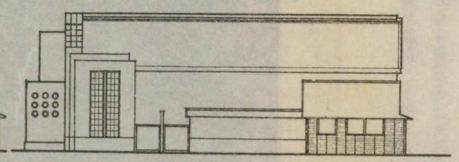
梁間B-B斷面圖



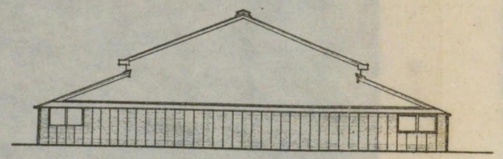
桁行G-G斷面圖



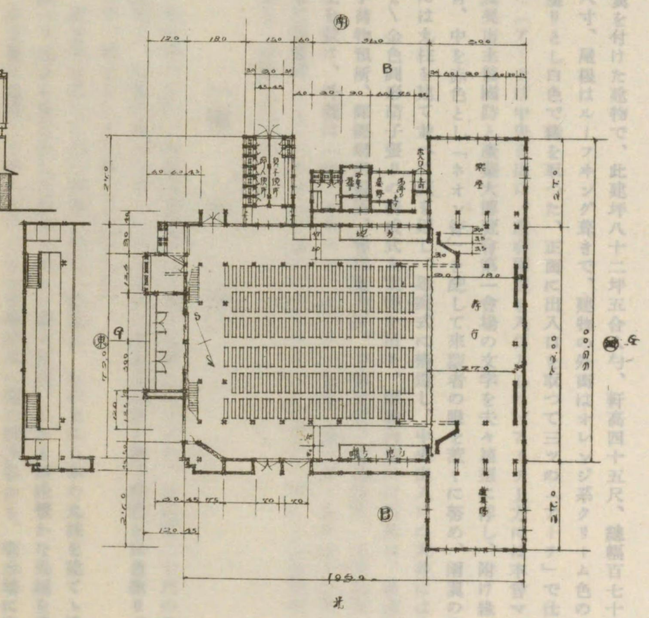
正面姿圖



正面姿圖



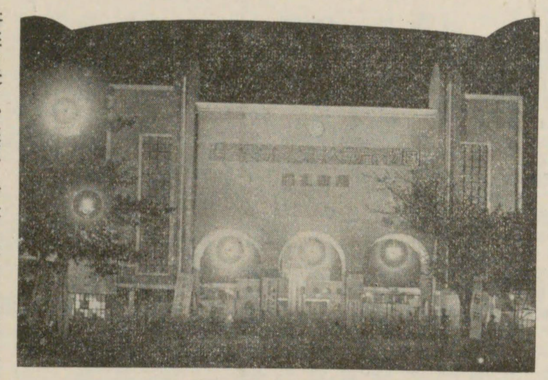
西面姿圖



本會建造物（第一會場）

【第一會場正門】

公園通りに正面を向け、東西に擴り八字型に兩翼を付けた建物で、此建坪八十二坪五合八勺、軒高四十五尺、總幅百七十四尺八寸、屋根はルーフキング葺きで、建物の外面はオレンジ系クリーム色の漆喰塗りとし白色で緣を取つた、正面に出入口を取つて三ツの「アーチ」で仕切つた（アーチは中央を出口、左右兩翼を入口とした）アーチ上方には本會マーク及吳市主催國防と產業大博覽會第一會場の文字を夫々箱型に浮し、附け緣は群青、中を赤色とし「ネオン管」を配して來觀者の眼を惹くに努め、兩翼の脚部には丸柱を建て並べて庇を廻し、廻廊式に構造し、中央出入口の天井にはそれ〴〵金色圓形硝子張りの構成式大電燈を吊り、兩袖内部には出札口、救護所、手荷物預所、郵便局出張所、會場案内所、守衞詰所、憲兵控室、消防屯所の各室を設け、外觀は「ローマネスク」にヒントを得て雄大なうちに氣品を表はし更に新樣式として「ネオン」及プロヂエクターを採用して光による建築美を遺憾なく發揮した。

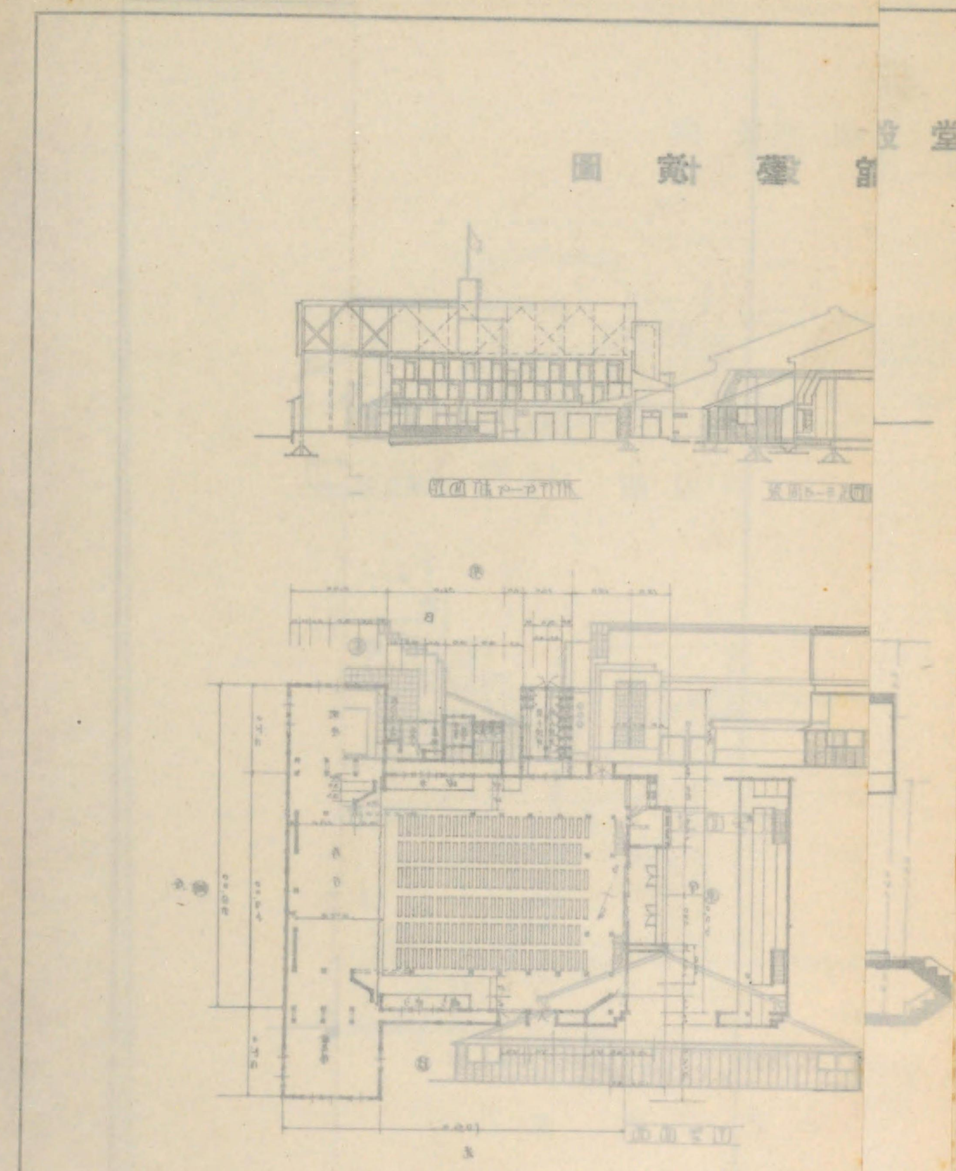


雄大壯美を誇る第一會場正門

【噴　水　塔】

噴水塔は正門と產業本館の中央に高さ地面より三十尺、直徑百二十尺の池を建設し、地緣は座席を設けた外八ケ所の柱型及電柱を建て總體を白色塗りで仕上げ、電力ポンプで絕えず送水した。

噴水塔は池の中央に圓型の座を三段重ね、その上に八本の丸柱を建てゝ噴水塔座を受け、座頭は輪狀に造つて三段に分け、各段の下端から數百條の白銀水を垂れて雄大壯嚴、しかも凉味豐かな雅趣を遺憾なく表はし、觀客の興味をいやが上にそゝつたが、夜は更に池邊八ケ所に設けられた電燈柱及八箇の投光器から、噴水塔に向け



て色とりどりな光りを放てば、三十尺塔上から垂れた白糸すだれに反射して、時ならぬ虹を、或は寶玉を浮かせ、會場夜景に一段の精彩を加へた、尚送水の諸設備は一切水利式ポンプ商會で寄贈され感謝に堪へないものがある。

【東　門】

會場の背後片山町寄りの道路に面して建設、建物は總幅二十七尺、高さ十四尺木造掘立で、屋根はルーフキング葺き、外壁は「クリーム」漆喰塗に仕上げ、中央に出入口を設け左右兩袖には出札口を設けた。

【産　業　本　館】

正門を潜ると噴水塔を隔てゝ凹字型に正面を向け、木造平屋掘建とし一、〇〇八坪を建設した、本館正面に聳ゆる塔屋は最高部八十尺梁間八間とし、建物正面の總幅員は三百尺で軒高はパラペット天端まで二十二尺、出入口及非常口共に十二箇所を設け、屋根は波型亞鉛引鐵板を葺き、外部は「クリーム」漆喰塗り、腰は「セピヤ」の「モルタル」塗り胴縁打とした、内部土間は三洲叩き腰は羽目板張とし上部及天井は布張りを採用した。

正面中央の塔屋は縦長く中天に聳え、盲窓を付け、窓の兩側の竪額縁は更に天空高く延びて旗竿をうけ、塔面には産業を象徴した金色マーク及産業館の文字を浮かせた、塔屋脚部から左右に延びた兩翼には丸窓を飾り付けて總體を引締め、入口には力強い輪廓を持たせる等、從來の型を破つて、この種建造物の新機軸を開いた。

夢の水晶宮を現出したる大噴水塔

【軍　需　工　業　館】

産業本館北側に、南北に向つて建設、建坪三百三十坪二合五勺、軒高二十一尺、塔屋高さ六十尺、屋根亞鉛引鐵板葺で、外部は軍需工業館に相應しい「スポイド」漆喰塗を施し、腰廻りはセピヤ色塗板張りを用ひた、本館は館の性質上外觀は何處迄も澁味を表はすべく、齒車の庇を付けた入口は白漆喰塗りとしその片脇に煙突を型造つた塔屋をつけ之が頂部には旗竿を樹てた、

更に側面及正面には軍需工業館の白色の五字を浮かせた。

【軍需工業館別館】

軍需工業館に軒を並べ外壁は淡綠色で掃いて清新な姿を表はし、正面の塔屋と入口には特に裝飾を豐に取付け、更に入口の兩脇には綠樹を植込んで一層調和を圖つた、建築面積は六十坪で軒高十七尺、塔屋は軒端迄四十三尺とし屋根は波型亞鉛引鐵板葺きで、外壁は漆喰塗り腰廻りは「モルタル」塗りで仕上げた。

【郷　土　産　業　館】

産業本館の東側に南北に並んで建設した、建坪四百二十九坪、梁間八間、桁行五十三間、軒高パラペット天端まで十九尺二寸塔屋四十六尺屋根波型亞鉛引鐵板葺き、の豫定であつたが、出品の關係から工事中更に梁間八間、桁行四間（三十二坪）を增築し合計四百六十一坪とした、外壁はピンク漆喰塗で、春の氣分を表はし腰廻りはセピヤ系モルタル塗を用ひた。

本館の建設に當つては、郷土の意味を表はすために種々考究したが結局、吳軍港を描寫することになり、四十六尺に及ぶ塔屋上より錨鎖を下して下方の浮標に結びつけ、巧みに浮かせた波間に「かもめ」を飛ばした入口を取付け近代色豐かな建築で觀覽者を驚嘆させた。

【本願寺寶物館及パノラマ館】

パノラマ館は會場東南隅の衞生參考館（木造平屋建七十五坪）を正面一間通り十五坪、軒高パラペット迄十七尺を增築した九十坪を宛て外觀は東洋古典建築美に近代趣味を加味した建物に改裝し、外壁はモルタル塗、一部スクラッチ張りとし、內部床及天井は板張として、內壁はペンキを塗り替へ、其他要所を修繕して用ひ、本願寺寶物館はパノラマ館と並立する鐵筋コンクリート三階建（建坪四十六坪）の擇善館を利用し、正面玄關ポーチを巧に利用し經堂となし一切經藏の字を浮し更にその上に塔屋を設けて本願寺寶物館の文字を表はし、屋上露臺のパラペットの一部を撤去して裏山に陸橋を架け、散步道を兼ねた本願寺寶物館出口とした。

【觀　光　館】

拓殖館に南隣して郷土産業館に正面を向け、ピンク漆喰塗りに、セピヤ系モルタル塗り腰廻りを配した觀光館は、外觀は恰も

全國觀光案内所の優雅な建物を想はすモダン色を見せ、入口には雄大なる庇を付けて金ペン型の柱で支へ其脇には優雅な塔屋を設けて庇との配合を圖り、正面壁下は植込鉢を設けて新綠樹を植ゑ或は入口脇に大丸窓を設ける等、總ゆる新技巧を加へて全體的調和を圖つた。

【拓　殖　館】

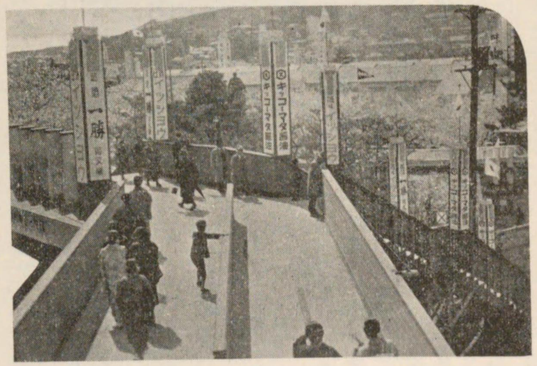
觀光館と湍洲館の中間へ、鄉土産業館に向つて建設した拓殖館は埃及の建築物にヒントを得て設計したゞけに古典味を遺憾なく表はし、入口兩面の柱には南洋の昔を偲ぶ、翼を持つ土人の胸像を据える等、特色ある建築物とした。尙拓殖館の建坪は四十八坪、軒高はパラペット天まで二十一尺とし、外壁は淡青色漆喰塗りとした。

【音樂堂（野外劇場）】

博覽會記念建設物として會場東方の廣場に正面を向け、吳工廠職工殉職碑に並んで建設された音樂堂は、博覽會期中は野外劇場を兼ねて使用したもので、外觀は雄壯なる構造美を表現する近世式で、野外ステージを造成すると共に近代建築用材を驅使構成した大庇を付け、外壁のクリーム系モルタル塗りの明朗色と共に、内壁は純白に塗られて巧な諧調を示し觀客者をして明調ならしめた、之が構造は永久記念建築物とするので、頑丈な鐵筋コンクリート造で、建坪はステージ三十五坪、左右兩翼の控室各四坪、附屬家（ステージ裏側）九坪二合合計五十二坪二合とした。

【陸　橋】

會場東方の道路上に、幅員三間、延長十八間、面積五十八坪の陸橋を架し、公園東隅丘上に建つ教育體育館、農林水産館への歩道を設け、更に教育體育館下方の中島に下るため陸橋東端から幅員一間の階段を設け、觀客の池畔遊歩の便に供した。陸橋の構造は片山町よりの入口を正面とし、兩袖の柱型には漆喰塗で表現模様を附け、或は國防と産業大博覽會の文字を藝術的に浮ばす等優雅なうちにも建築物としての構成美の表現に成功した。



陸橋へ添へた興

【教　育　體　育　館】

會場東隅の丘上に建設した總建坪百五十二坪五合（内百三十坪教育館、二十二坪五合體育館）軒高パラペット迄二十五尺乃至十八尺三寸の體育館は外壁を淡青色に表はし、大玄關脇には高さ六十尺の高樓を設け、出入口は三ケ所に設けた、本館は館の性質上日本古代趣味を表はすことに腐心し、殊に塔屋と大玄關の調和には特に苦心を拂つたゝめ總體的には壯嚴な氣分を濃厚にし、卓拔なる構成と相俟つ觀客に眼を見張らせるに充分であつた。

【農　林　水　産　館】

教育體育館に隣りした十數段の石の階段を上つた處に建坪百坪の農林水産館を設けた、軒高はパラペット迄十八尺とし、外壁は「エロオーカー」漆喰塗、腰廻りは「チヨコレート」系モルタル塗りとし、正面には年輪を强く表はした大木の切斷面を中心に、圖案化された魚、或は波浪を立體的に造り出して角二方に廻し、下方入口庇には豐穰なる稻穗を取付ける等農林水産館としての全體的構成に腐心して、更に尖細秀拔な色彩を加へた處などは、一入設計者の苦心の存するところが窺はれた。

【リンゲンス大演技場】

本會直營の大演藝場として、會場の北方忠魂碑前に敷地七百六十八坪を定めた、建物としてはいづれも木造で出札室及便所十二坪、觀覽席三十六坪、ステージ十八坪、樂屋及附屬屋十九坪五合を建設、周圍には高さ二間の板塀を張り廻らせ、屋根は全部波型亞鉛引鐵板張りとした、然して出札室及便所ステージは外部を亞鉛引鐵板で張り内部は板で床を敷き壁は布張りとした、樂屋及附屬屋は外部を板張りペンキ塗仕上とし、内壁は布壁を用ひ床は板張りとした、觀覽席は背後を周圍開放の高座とした外平場は觀覽者の便を圖つて椅子を打付け、暖爐室はボール張りとして保温に努める等、觀客は勿論演技者の滿足を得た。

【演　藝　館】

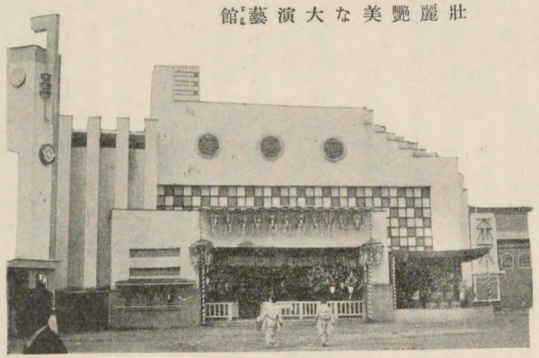
本館は正門の西側に本會で建設し、協賛會に專用させたが壯麗雄大な本建物は從來の博覽會に設けられた演藝館に比べて優るとも決して劣らない大建築物であつた構造は木造平屋建（一部中二階付き）の建坪三百三十六坪四合九勺一才で屋根切妻造り勾

配四寸（波型亞鉛引鐵板葺き）柱掘建、外壁葦簀張漆喰塗り（腰部セメントモルタル塗り）、木、鐵部の見掛りカセイン塗り、内部床三洲叩き及床組板張り、同壁上部布張り、腰部羽目板張り（一部漆喰塗り）、天井布張格緣打（ベンキ塗仕上）、軒高地盤より軒桁峠まで本家二十四尺、附屬家十一尺四寸乃至十尺五寸とし、外觀は構成派のスタイルを基調に、正面に大玄關を設け、出入口左右を出札室、事務室に取り、非常口は側面に三ヶ所設けた。

觀覽席は收容人員を一千名として、四人掛け長椅子を配置した。

舞臺は幅員十二間のものを設け、左右に花道及一段高く囃、地方席を設け、舞臺緣にはフットライト及ボーダライトを設備した、舞臺裏側には樂屋、道具場を、花道裏には浴室、湯沸場其他小室を設け、假設劇場ながら劇場としての設備を完備した外、演藝館の生命とも云ふべき音響設備については、畢生の努力を拂つた結果頗る好結果を得たので、觀客は舞臺の壯麗艷美とその微妙な音律に蕩醉するに充分であつた。

壯麗艷美な大演藝館



【會設無料休憩所】　會場内音樂堂前に百坪の天幕を張り、食卓及腰掛を配置し、湯沸場は木造平屋建二坪五合を建設、之が内外は板張ペンキ塗に仕上げた。

【巡査派出所】　商談所と朝鮮館の間に建設した、建築面積十二坪の木造平屋建で事務室、當直室、便所其他を取り屋根は亞鉛引鐵板葺き、外壁は漆喰塗で内部天井及壁は板張りを用ひ床は三洲叩きとした。

【鐵道案内所】　正門の東側に列んで建設した、六坪の木造平屋建で外壁は漆喰で塗り、屋根はルーフキング葺きを用ひ、内部の天井、壁、床は板張りとした。

【衞生館】　吳市立圖書館の一部（九十六坪二合五勺）を仕切つて利用、場外（正門東側）に入口を取付けた。

【本會建設賣店】　正門前（公園通）路上に木造平屋建百七十七坪二合五勺三十才を、左右兩面に設けた屋根は亞鉛引鐵板を葺き、外壁は漆喰塗り、床組は板張りとした、尙場外興行地帶に面した海光館陳列場の一部を利用して、賣店十五小間を設置した。

【便　所】　從來からある便所五ヶ所では尙不足を感ずるので、更に木造掘建三坪、内外壁總板張り板床の便所四ヶ所を新設した。

【事　務　局】

場外南方の舊裁判所（木造二階建——一部煉瓦造二階——總建坪二百五十七坪、二階五十九坪合計三百十六坪）を利用し、階上は改裝を加へて迎賓館に當てた。

【協贊會事務所】

協贊會事務所は吳商工會議所から提示された案に基いて設計し、演藝館と正門の間に建設した、構造は平屋建四十坪、軒高パラペット天まで十五尺五寸及二十五尺、屋根は波型鐵板葺きで、外壁は白漆喰塗り、腰廻りは板張りセピヤ塗りとした、室内は壁並腰を羽目板張りにし上部及天井は布張り、土間は叩きを用ひ、部屋割は事務室、理事室、案内部、役員控室、會議室、湯沸場等とした。外觀は構成派式を取入れた正面の片隅に高さ四十尺の高塔を設け、國防と産業大博覽會協贊會事務所の黑文字を金緣取りに浮かせ、其中央には吳商工會議所マークを取付け、塔上には協贊會旗を飜した。

【商　談　所】　第一會場正門の東側に構成派式を加味し、すつきりした自由型を表はした商談所は、三十四坪三合の木造平屋建てゞ軒高パラペット天端まで三十五尺及十五尺五寸、屋根は波型鐵板葺き、外部は全部亞鉛引平鐵板張りとして之を淡青色に化粧し、内部土間は叩きとし腰は板張りとし、上部及天井は布張りとし、屋内は商談室、應接室、來賓室、休憩室、湯沸室及便所を設けたが、本館は吳商工會議所の希望を基礎に本會で設計並工事監督をしたもので、外部正面には直線式な塔屋を建て、頂上及兩側に黃、紅の旗を下げ、腰の兩翼を入口としたが、更に左面外部にバルコンを造り其の奥に食卓及椅子を設け休憩所とした。

【協贊會大食堂】

木造平屋建百七十三坪、外にベランダ三十六坪（ベランダは防水層を施工）、階段九坪に及ぶ協贊會大食堂は協贊會の施設で、設計及工事監督を本會に委托されたものである、位置は會場西方二河川に臨む堤防上から野球スタンド（丁字型に架け出し、軍需工業館及演藝館の中間に朱塗の階段を設けた。

外觀は宮殿造りにヒントを得、ベランダには防水層を施工して朱塗の欄干を設け、屋内は開放して板張り床を用ひ各柱頭には平安の昔を偲ぶ朱塗で華奢な丹木を取付けたが更に調理場其他の一部は板張及漆喰塗で隔離し、屋根は綠色ペンキを塗つて清新な氣を漲ぎらせ食堂大廣間には燎爛と咲き誇る堤防上の櫻樹を其儘取り入れ、以つて會食者に優雅な雰圍氣を滿喫せしめるべく設備した。

特設建造物

【臺　灣　館】

本館は臺灣總督府の直接建設に成る、會場の南方巡査派出所に隣して蘚鐵の小山に正面を向けて造られた。

建坪六十九坪七合五勺、屋根は波型亞鉛引鐵板で葺き、外壁はクリーム色漆喰で塗り、內部床はコンクリート打セメントモルタル塗りで、天井は布張り、、周圍の壁は裝飾用薄色紙張りで明るくした。

本館の特色とする處は地方色を濃厚にするため外部正面入口を臺灣風のポーチに設備し、屋上には之また臺灣獨特の六角形塔屋を付けて異國情緒を表はし、出入口は出品部と喫茶部に分け、內部裝飾もまた地方色豐かなものを用ひたので、內外觀共臺灣氣分を如實に示すことが出來た。

【朝　鮮　館】

臺灣館の東南に並んで建設、木造平屋建四十四坪で、朝鮮總督府直接建造になる、構造は朝鮮風宮殿を摸し、屋根は入り母屋造り亞鉛引鐵板を葺き暗綠色ペンキで塗り、柱は全部朱塗りとした、外部周圍には地上約三尺位の座高廻廊を付け、正面、左右に階段を設けて昇降口とし、床は全部分厚板張りとした。

裝飾は頗る凝つたもので、外內部全體を濃い原色で極彩色したが殊に內部天井は極彩色格子天井で、八辨梨花を中心とした朝鮮模樣で目を欺くばかりの濃艷色を出し、軒の垂木の如きも五本に一本位は木材を用ひたが、其他は悉くボール紙を丸く卷いた物に繪紙を張つて美を競ふ等、萬事がこの調子で造られてゐる點は、博覽會建築構造の特長を遺憾なく發揮したもので、專門家の注目の的となると共に、一般入場者も興味深く見物した。

【滿　洲　館】

本館は滿洲國政府、關東局および滿鐵の共同設營で、會場東方池を背に拓殖館に隣して建設、木造平屋建て百五十七坪七合五勺で、屋根は寄棟造り鐵板葺きで、栗色のペンキを塗り、外壁は上部を白漆喰で塗り、腰はセメントモルタル塗りとした、內部は、出品室、事務室、喫茶室、賄室等を取り、床は土間、床組、ウスベリ敷を採用、側壁および天井は總體を壁紙で張り、外部正面は、滿洲風の石獸の護る碑樓（パイル）を摸した高樓を全部平鐵板張りで造り、滿洲氣分たつぷりな朱塗極彩色を施し、出入口は左右に設け中央には涼味豐かな「ニッチ」を設けた。

【三吳線開通記念館】

本館は中國日報社の設營で、會場東方陸橋に面した池の中に平屋建五十二坪を建設、屋根は亞鉛引鐵板葺きで、外壁全部を白漆喰で塗り、內部は床は總板張り、天井及び周壁は布張りとした、入口は正面左右兩端に設け、正面壁上に中國日報社主催三吳線開通記念館の文字を浮かせ、更に右方入口上部に高さ三十尺の高塔を設け、館名及主催者名を二面に記した。

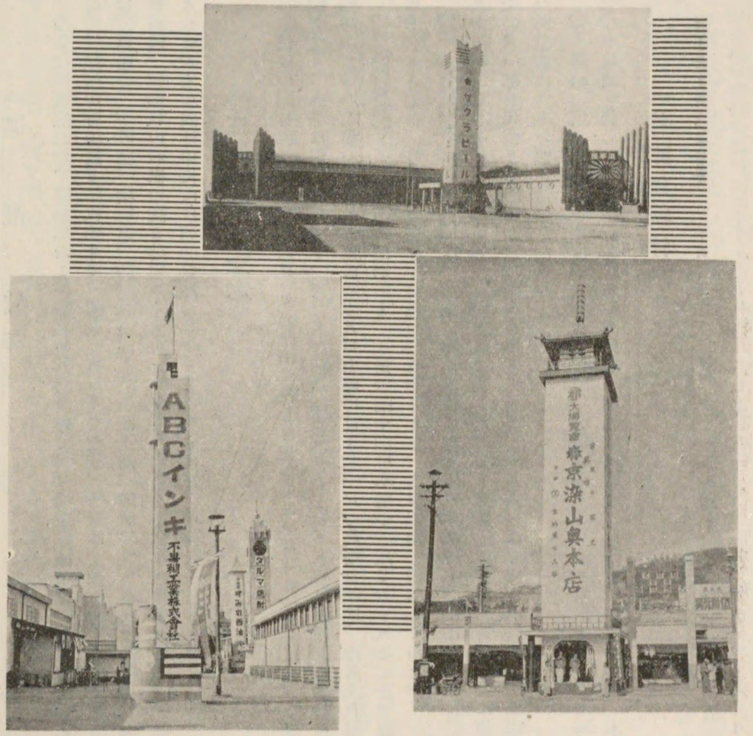
【國產即賣館】　軍需工業館別館と、子供の國中間に木造平屋建て五十五坪二合を建設した、床は叩きとし、天井および內壁は布張りとした、外壁は總體を小豆色の漆喰塗りとし、入口周圍を裝飾してゐた。

【海　女　館】　子供の國に面し產業本館北方に隣して九十坪の木造平屋建とした、屋根は波型鐵板葺き、外壁は下方足場は丸太組みとし、それより藁むしろを最窟風に張り廻らして黑漆喰塗りに、青色（苔に摸し）ペンキを點々散らせ、內部は一部を土間、一部を板張り床組とし、周圍は布張りとした、正面入口は巖窟の中央に支那趣味を取入れた朱塗の樓門を附け、恰もお伽の國龍宮に向ふの感を起さした。

【子供の國】　子供の國は協贊會の設營で、會場北隅リンゲンス大演技場と國產即賣館の間、二河川堤防を取入れた六百三十坪の地域を劃し、中には鐵骨造りの飛行塔、電氣應用戰車、自動車、木造滑り臺、木馬等を設備した。

【特設無料休憩所】

別府溫泉無料休憩所　鄕土產業館の北方、建坪二十六坪木造平屋建を別府市溫泉課で設營、屋上には圓筒型大塔を設け、「別府溫泉無料休憩所」の文字を附し外部は青色漆喰塗り、內部は床を叩きとなし壁及天井は布張り、壁に添つて木製固定腰掛け



を造つた。

愛媛新報社無料休憩所　産業本館中庭――櫻林の中に木造平屋建十五坪を造り、杉丸太を主幹材に屋根は波型鐵板を葺き、外部は解放とした。

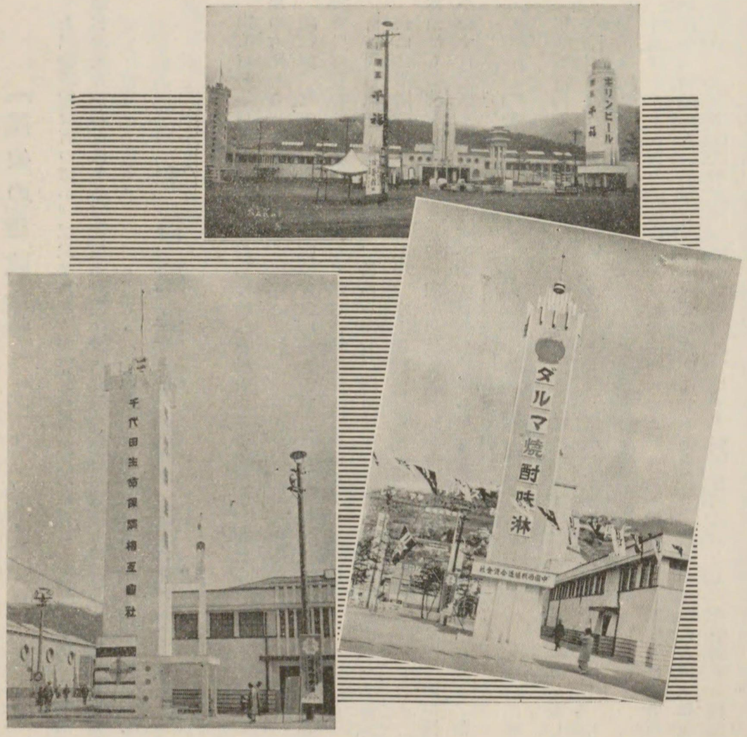
中國新聞社無料休憩所　會場南方本願寺館唐門を潜り、御典橋の前に建設、建坪三十坪の波型鐵板屋根を葺き外部は解放とした。

有隣生命保險會社無料休憩所　會場東方丘上梅林に設けられ農林水産館に隣して、木造平屋建十坪を建設、屋根は波型鐵板葺き、内外は板張りペンキ塗りとした。

【廣　告　塔】

キリンビール及千福廣告塔　産業本館前大噴水塔の兩翼に相對して建設高さ六十尺、外部は白漆喰塗り、脚部に庇を廻して下方を休憩所に設備、キリンビール、千福の廣告文字を塔壁に浮かせた。

千代田生命保險廣告塔　産業本館西方角を選び、高さ六十尺とし、外部



は白漆喰塗り脚部に休憩所を設け、塔には廣告文字を浮かせた。

ミヨシ正宗廣告塔　演藝館と軍需工業館の中間に高さ六十尺、布張りペンキ塗りのものを設け、脚部には陳列窓を設けてた。

スミレ香油廣告塔　産業本館と臺灣館の中間に高さ六十尺外部布張りペンキ塗りの高塔を設け、脚廻りは鐵板を張りペンキ仕上げとした。

ダルマ燒酎廣告塔　産業本館の南角、外部は布張りペンキ塗り腰部に陳列窓を設けた六十尺の高塔を建設。

ABCインキ廣告塔　産業本館と鄕土産業館の間に高さ約四十尺のものを建設。

味日本廣告塔　音樂堂の西南角に高さ六十尺のものを建設、外部は布を張りペンキ塗りとし、塔の中央では金時人形が動力で廻轉する設備をした。

熊平金庫廣告塔　鄕土産業館の東側、觀光館との中間にあり、熊平金庫、同ポンプ、タイプライターを塔下に陳列した。

【其他の建設物】

上記特設館賣店のほか、運送案内所、船客案内所は正門附近に、記念品賣店、煙草店、繪葉書賣店、菓子飲料水賣店、飲食店は會場東方池畔をはぢめ、産業本館裏等場内好適の位置を指定して許可、各自に於て風致、衞生を害せぬ樣建設を行はしめた。

本會建造物（第二會場）

川原石海軍用地一萬坪を利用した第二會場の主なる建物は、先づ豪壯なマーチンスアンカーを象つた正門に始まり、正門前廣場の右側から

陸軍館、航空館、海軍館、彈除け大師堂あり右方には日本製鐵館、水族館、水産食品品評即賣館、國防食堂が相對峙してゐる。次で吳商業聯盟賣店街を通過して第二廣場に出れば右から

ラヂオ電氣館、日の丸食堂、世界一週館、國防戰史パノラマ館、更に右に廻つて日の丸喫茶室、發明品實演館が並び、廣場中央には米國艦隊輪型陣大模型場、水上偵察機、大浮標陳列場等を設け、

其他にも事務所、貴賓室、無料休憩所、救護所、憲兵、巡査派出所、拜艦軍艦連絡用棧橋、潜水艦拜觀用棧橋、廣告塔等あり大小合すれば數十棟が林立し、平素廣漠とした海軍用地も全く所狹い感を抱かしめる、各建設場の概要は次の通り。

【第二會場正門】

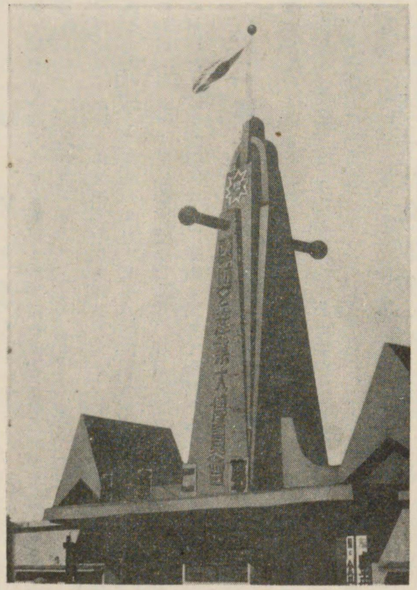
川原石市内電車終點から約一丁、南方の海軍用地に出れば、南北へ一字型に翼を延して正門を建設した、構造は木造平家建八十九坪で、軒高パラペット天まで十四尺三寸、および十尺七寸とし、中央塔屋は六十八尺とした。

屋根は波型亞鉛引鐵板を葺き及びルーフキング葺とした。

外壁はクリーム色の漆喰塗りと平鐵板張りスポイドペンキ塗りとし、腰廻りは淡青色モルタル塗りに仕上げた。

正面は「國防」といふ本會々名に冠した文字にヒントを得て、圖案化された大錨主軸を中天高く聳へさせ、脚部は兩錨爪を大庇で連絡し、庇下には半圓形の格子窓を取り、塔下を觀覽券出札口とし、その兩脇を出入口と定め、屋舍兩翼内部は使丁室、憲兵控室、守衞控室、救護所、消防屯所、荷物預所、團體係受付、事務局、貴品室

を取り、いづれも床は叩き、一部床組板張り或は疊敷とし、天井および壁は板張りとしたが、外觀は一見して雄大、單純なうちに犯し難い氣品と清楚な美感を備へ、國防色を充分に象徴した。尚本會場夜間開場は行はなかつたが吳線列車から俯瞰する場所になるのでネオン、プロジェクター等を設へ、夜觀も亦見逃し難いものとした。



國防を表象したる第二會場正門

【裏　門】

海軍館と航空館の中間に、第二會場外北側道路に通ずる裏門を設け、川原石波止場方面からの來觀者の便に供した。設計は第一會場東門と全く同一設計であるから構造概況を省略する。

【陸軍館・航空館】

正門の北側柵に副ひ東西に延ぶ、木造平屋建總面積二百八十坪——内陸軍館百五十四坪、航空館百二十八坪——軒高はパラペット天まで二十一尺および十九尺七寸、屋根は波型鐵板葺きで、外壁はカーキ色漆喰塗り腰廻りは國防色モルタル塗りとした。内部床は叩きとし、壁は上部及天井を青色布で張り、腰は羽目板張りとした。

陸軍館正面最上部には睥睨型を附した半圓型を附して、大金星を中央に浮かせ、庇から入口兩側にはカモフラージした戰車を造り、陸軍色を濃厚とし、パラペットは銃眼をつけた城壁を象どり、外壁高部には菱型裝飾窓を取付けた。

航空館はパラペットに銀色大翼をつけた飛行機を乘せて航空館の文字を附し、外壁高所には採光用窓を開いて館内の採光に充てた。

【海　軍　館】

海軍館は陸航空館に並んで東西に延ぶ。更に中央に於て南方に曲折して建設、總面積四百六十九坪一合二勺で軒高はパラペット天まで二十一尺、屋根は波型鐵板葺き、外部はスポイド漆喰塗りで腰廻りはモルタル塗とした。内部床は叩きとなし、壁は上部および天井を淡青色布で張り、縫廻りは板張りとした。出入口は兩脇に徑三尺、高さ四十七尺の彈丸を塔屋式に各五本を配し前面には高座を設けて錨を置き、鎖を左右から上部に廻して連結し、入口庇の上部には極彩紅白に染別けた軍艦旗を揭げ、更にその上部には海軍館の三字を錨鎖で取卷いた大額面を表はし、どこまでも清楚な感のうちに國防色を横溢させた。

【軍事記念館】

第一廣場の西面、日本製鐵館と水族館の中間に百八坪の木造平屋建を建設した。館の性質上建物は清楚で氣品のある日本趣味を基調とした近世自由型を選び、

屋根は入母屋造りに波型亞鉛引き鐵板を葺き、軒高はパラペットまで十九尺及び十七尺にとり、外壁の澁味の強い淡黃と淡青色の漆喰で塗り、腰廻りはセピヤ系モルタル塗を用ひた。

更に正面パラペットには飾り棟を乘せて、日本趣味を濃厚にし、入口の庇は古典味たつぷりの飾りをつけて下方を桂型で受け、其の兩脇および正面壁に並んで綠樹を配して全體からうける調和を圖つた。

【彈丸除け大師堂】

海軍館西方に隣して建設、面積二坪五合で、外觀は純日本風大師堂で、軒高十尺五分、屋根は六寸五分の急勾配、亞鈑引平鐵板で葺きペンキ塗で仕上げ、壁は內外共に眞壁黑土漆喰塗りにし、土間は叩きおよび床組板張りとし、天井、竿緣も亦板張りとした。

【ラヂオ電氣館】

第二廣場川原石港に臨み東方に正面を向けて平屋建百三十四坪を建設した、外觀は構成派の樣式を採り、線と圓の藝術化に心血をそゝぎ、外壁は白漆喰塗りとしてどこまでも單純のうちに美を求め、腰部には綠樹を植ゑて色彩の調和を圖つた、軒高はパラペット天まで二十尺又は十八尺にした。

【憲兵見張所】　第二廣場南方の海岸に三方解放の木造平屋建を設けた、內外は板張りとして、派遣憲兵の便に供した。

【軍事作業號令臺】　第二廣場海岸西突端に高さ八尺、木造手摺付きの高座を設け、座の下部は小室として電話を設備した。

【會設無料休憩所】　第一廣場の中央に天幕張り五十坪を、第二廣場にも亦天幕張り十五坪を設け、食卓及腰掛けを配置した。

【巡査派出所】　正門右方、陸軍館と救護所の中間に第一會場と同一設計のもとに設置した。

【便　所】　場內に四ヶ所、第一會場と同一設計により建設、在來の便所一ヶ所を加へ合計五ヶ所を設備した。

【米國艦隊輪型陣模型】　軍事作業場を控へた第二廣場中央に、直徑六十尺の弧圓を造り、表面は淡青色モルタル塗りとして、周圍に高さ二尺五寸の板圍を作つた、圓型內には米國軍艦模型、飛行機等實數を適當に配した。

特設建物

【日本製鐵館】

本館は日本製鐵株式會社の設營で、正門と列んで西方に木造平屋建五十一坪二合を建設外部は木摺打漆喰塗りとし、庇には日本製鐵株式會社の八字を浮かし付けた、モダーンな入口の片側にはコーサイ練瓦を積立てゝ鎔鑛爐を乘せ、その脇に熱風爐を塔狀に並べ建てゝ製鐵所館としての特長を遺憾なく發揮した。

【水　族　館】

本館は廣島縣水產會の經營で、直接設計建設された、建坪は木造平屋百九十八坪五合で、屋根は亞鉛引鐵板を張り、綠色ペンキを塗り外壁は白色漆喰を塗つた、正面中央入口には朱柱を持つ龍宮樓門を作り、玄關には巖壁懸崖を築いて周圍を植込みとなし、瀧口を正面に向けて直下に池を設けた、又內部は天井周圍壁共に布張りで、中央奥に鵜飼用大池を、出入口兩面に海獸用池および海の魔物池を設備、正面左隅約三坪は事務室に宛てた。

【水產食品評卽賣館】　海軍館出口と水族館に隣して建坪四十三坪の平屋建を吳市水產會の手で建設した、屋根は鐵板葺とし外壁は板張りに網漁の狀景を描き、內部は天井及壁を布張りとし、床は土間とした、內部の一部(三坪)は板壁で區劃して出品物保管用食庫にあてた。

【國防戰史パノラマ館】

帝國在鄉軍人會吳第四分會の特設營造物で、會場の西端海岸に面して百四坪の平面矩形の平屋建で、正面は城壁を模してパラペットに垛孔を造り、北滿の城門を取入れた出入口兩翼には武裝した勇ましい軍人を配し、外壁には戰鬪繪畫を描いて何處までも軍國氣分を横溢させてゐた。

【軍艦拜觀者渡船用棧橋】　ラヂオ電氣館の前方川原石港に面して木造平屋建十坪を建て——屋根は鐵板葺き周圍板張り——渡船者携帶品預り所、渡船券發賣所、同事務所にあて、建物前海面には大浮標を繫留した。

【發明品實演館】　ラヂオ電氣館と相對し平屋建八十四坪を建設した、入口正面には齒車とベルトで繼がれたモダーン高塔を設け發明實演館の文字を取付け、大きな庇を出して入口とした、外壁は總體に漆喰を塗り、内部は壁を板張り天井を布張りとし床は叩きとした。

【日の丸食堂】　ラヂオ電氣館に西隣した本食堂は日の丸百貨店食堂の經營で、木造平屋建五十六坪のモダーン建物とし外壁は白漆喰塗とした。

【日の丸喫茶室】　潛水艦拜觀棧橋と輪型陣模型に面した木造平屋三十八坪五合で、外部は漆喰で塗り、パラペットには日の丸喫茶室の文字を大書した。

【世界一周館】　本館は吳公論社の特設で日の丸食堂と國防戰史パノラマ館の中間に四十八坪の木造平屋建とした、屋根は鐵板葺きで外壁は布張りペンキ塗り内部の床は土間とし、壁及天井は布張りとした。

【國防食堂】　本食堂は糧友會廣島支部の設營で、海軍館出口に直面して十六坪五合の平屋建を建設、屋根は亞鉛引鐵板張りとし、内外壁は板張りペンキ仕上げとした。内部土間は叩きとし、一部を調理室にあてた。

【其他賣店】

上記特設營造物の外、吳商業聯盟賣店、愛國婦人會賣店、國防玩具賣店、煙草、菓子飲料水賣店等適當な箇所に配置第一會場の例により許可した。

【廣告塔】

先づ壯麗を想はせた大歡迎門

サクラビール廣告塔　會場第一廣場中央に建設木造漆喰塗り高さ六十尺の高塔で、腰部に庇を付け、下方は椅子を配置して休憩所とした。

ラブミー化粧品廣告塔　吳商業聯盟賣店街に建設、高さ二十尺の亞鉛引平鐵板張りでペンキ仕上とした。

歡迎門

【吳驛前歡迎門】

吳驛前歡迎門は本會と協贊會共同設營で、本會に於て設計並に直接監督をした、位置は驛前廣場と道路の境界に臨み、東西一文字に二百八十六尺に延び建設したが、構造概要を示すと左の通り

見付總巾——二百八十六尺、軒高——中央二十尺、兩翼二十五尺八寸、塔高——六十三尺

高さ六十三尺の高塔は、歡迎門兩側に聳え、各片面にはシンクパープル塗りの投下用爆彈を模した裝飾を付け、下方には朱塗の大機雷を、アーチ上に置いて國防氣分を濃厚にし、塔正面には協贊會のネオンマーク及び歡迎、國防と産業大博覽會の文字を浮かせ、腰部には植込みを設けて絲樹を植ゑ白色塔屋との色彩の調和を圖り、兩高塔の中間は角柱三本で梁型アーチを造りアーチ上部には九箇丸形を置き「國防と産業大博覽會」の文字をネオンで描いた。

高塔の左右兩翼は、中央アーチ軒高よりも約六尺高に之亦梁型アーチを附して全體的の調和を圖り、外壁は全部ラフな漆喰塗として仕上げた。夜は前記ネオンサインの光彩の外に間接に照明燈を配置して雄大なる高塔を照射し、先づ外來者に對する第一印象を良くすることに努めた。

【吉浦棧橋歡迎門】

吉浦町棧橋に建設、總幅十八尺で高さ二十七尺、外部は漆喰塗りであ

るが華麗を旨として色彩も凝り、「歡迎」國防と產業大博覽會、同協賛會等の文字を圖案化して浮出さした。

【警固屋棧橋歡迎門】

警固屋棧橋に面しても、吉浦棧橋と同一設計の歡迎門を設置した。

排水施設　各館の周圍に排水溝を約十ケ所宛築造して雨天の泥濘を防ぐことに努めた、第一會場の如きは公園内であり既設のものもあつたので此の點は遺憾なく「雨天でも草履ばきで」といふ感じを與へた。

專用電話架設

第一會場

博覽會事務の進捗につれ外部との折衝も愈々繁忙となつたため從來の市役所常設電話だけでは非常な不便を感じるので、昭和九年六月特急架設の認可を得て先づ二箇の臨時電話を勸業課内博覽會事務局に架設、更に昭和十年二月博覽會事務局の獨立移轉と共に共電式卓上電話二箇を增設、事務の繁忙に備へ、續いて、開會を控えた三月中旬には會場内建設物も略々完成したので第一會場事務局の一室を私設電話交換室に宛て磁石式單式交換機を設置加入電話四箇を夫々交換機に收容、磁石式甲號卓上電話三十五箇を第一會場事務局内各部事務室、會場造營物及び門鐵事務所、特設館等に設備し事務の簡捷を圖つたがこれに使用した機械器具、配線諸材料等は總て損料借りとした。第一會場關係電話機配置は左の通り、

加入電話　第一會場は事務局を舊裁判所廳舍に移轉すると共に、事務局内總務部、出品部、工營部及び宿直室に加入電話四箇を設置し第二會場は國防部事務所の新設と同時に同事務所に一箇、新設魚雷發射命令臺に一箇を設備した。

第二會場

第二會場に於ては、場外通話は臨時架設電話二箇を宛て、場内には更に私設專用電話を設備する方針であつた事務局内に設置加入電話四箇を夫々一號A轉換器により私設交換機に收容した。

私設電話　第一會場事務局設置と共に私設電話機接續認可を得て前記の如く磁石式交換機一座席一臺を

會場内特設交換電話機配置表

設置箇所	個數	設置箇所	個數	設置箇所	個數
迎賓室	一	總務部	一	接待部團體係	一
會長室	一	出品部	一	宣傳部	一
特營部	一	工營部	一	新聞記者室	一
經理部	一	警備部	一	救護所	一
會場案內所	一	演藝館	一	門鐵案內所	一
產業本館	四	鄉土產業館	一	拓殖館	二
リンゲンス演技場	一	軍需工業館	一	臺灣館	一
觀光館	一	朝鮮館	一	農林水產館	一
滿洲館	一	教育體育館	一	守衞詰所	一
消防屯所	一	憲兵詰所	一		
本願寺館	一	接待餘興部	一	計	三五

が、種々なる關係から私設電話設備は中止せられ、第二會場事務局に臨時架設電話だけを設置した。

警察電話　第一、第二會場に於ける警察官詰所には、臨時警察直通電話を架設することになり、兩會場最寄の派出所から磁石式甲號卓上電話機を夫々一箇宛施設し、不時の用意を整へた。

公衆電話　吳郵便局に於ては一般來觀者其他大衆の便宜を圖つて第一會場は產業本館前廣場及び音樂堂附近の二箇所、第二會場はラヂオ電氣館前に一箇所設けたが、利用者頗る多く殆んど終日通話を絶たない狀況を示した。

一般電話　其他協贊會事務所、商談所、郵便局出張所其他場內食堂、賣店ではそれ〳〵當事者に於て加入電話を設備した。

水道臨時布設と給水

第一、二會場共に從來から配水設備が無い地域のため、開會に先ち市費負擔を以て鐵管（一五〇粍以下）三百五十米、代用鉛管（主として二十五粍）延長三百十六米を一時在庫品を使用、假布設施行の上、更に防火用大口消火栓六ケ所、共用栓十六臺、一般水呑臺五臺を設置した、尙各戶給水工事に就ては左記臨時給水規程に基いて取扱つたが、其取扱工事は二十八件であつた。

博覽會臨時給水規程

第一　本規程ハ博覽會場內外ノ臨時的給水ニ適用ス　其期間ハ博覽會開會十日前ヨリ閉會後十日間トス

第二　本規程ニヨル給水ハ博覽會自體ノ外特設館ノ建設、經營者若クハ賣店ノ使用許可ヲ受ケタルモノニ限ル

第三　給水栓ヲ分ケテ左ノ四種トス

特別栓　營利ヲ目的トセザルモノ、又ハ特ニ一般公衆ノタメニ設備シタルモノ

甲種專用栓　一戶ノ專用ニ供シ、主トシテ營業用ニ使用スルモノ

乙種專用栓　一戶ノ專用ニ供シ、營業用ニ非ザルモノ

共用栓　一栓ニ依リ數戶共同ニ使用スルモノ

各項栓種ニ該當スル細目ハ別ニ之ヲ定ム

第四　水道使用料ハ消費水量ニ從ヒ左ノ給水種別ニ依リ徵收ス

特別栓　消費水量ニ制限ナク無料トス

甲種專用栓　消費水量　一四、六立方米マデ　一戶一ケ月一圓二十八錢

乙種專用栓　消費水量　九、一立方米マデ　一戶一ケ月八十錢

共用栓　消費水量　五立方米マデ　一戶一ケ月　四十四錢

消費水量ノ定限ヲ超過シタルトキハ各栓種共一立方米ニ付キ八錢八厘ノ割合ニ依リ追徵ス

第五　共用栓ノ使用者ハ市ノ指定シタル共用栓ヲ使用スルモノトス

第六　給水裝置ハ市ニ於テ之レヲ施行シ給水裝置使用料ヲ徵收ス　但シ特別栓ノ使用料ハ之レヲ免除スルモノトス

第七　給水期間中ニ於テ給水ヲ廢止シタル場合ト雖モ給水裝置使用料ハ一切之ヲ還付セズ

第八　給水期間中ニ於ケル給水裝置使用料ハ左ノ如シ

特別栓　給水裝置使用料ハ之ヲ徵收セズ　但シ給水裝置ニ要スル材料器具ニシテ消耗ノ虞レアルモノ、各特別購入スベキ材料器具並ニ給水裝置取付ニ要スル工費ハ給水請求者ノ負擔トス

甲種專用栓及乙種專用栓　給水裝置ニ要スル總工費ノ三割トス

共用栓　一戶ニ付キ三十錢トス

第九　給水請求者ハ給水開始前市ノ指定スル給水裝置使用料並給水期間中ノ水道見積使用料ヲ前納スルモノトス

見積使用料ニ不足ヲ生ズル虞アル場合ハ即時追徵ス

第十　水道見積使用料ハ給水廢止ノ時精算シテ過不足アル場合ハ追徵又ハ還付ス

第十一　共用栓ノ使用料ハ各戶平均ニ使用シタルモノト見做ス

第十二　同一共用栓ヲ使用スルモノハ給水裝置及附屬器具ノ管理並水道使用料ノ納附ニ關シ連帶ノ責ニ任ズルモノトス

第十三　給水裝置並ニ附屬器具ヲ毀損又ハ亡失シタル時ハ何人ノ所爲ニ拘ラズ使用者其責ニ任ズルモノトス

第十四　給水裝置ノ修繕ニ要スル費用ハ市ノ負擔トス　但シ使用者ノ故意過失又ハ怠慢ニ起因スル場合ノ修繕ハ其實費ヲ徵收スルモノトス

第十五　本規程ニ定ムルモノノ外本市水道條令及全施行細則ヲ準用スルモノトス

吸水塔

大阪毎日新聞吳販賣所よりの寄贈で第一會場へ三ヶ所、第二會場へ二ヶ所の吸水塔が特設され會期中たえず噴水して入場者の湯を醫やした、まことに適切なもので感謝にたへない。

喜ばれた吸水塔

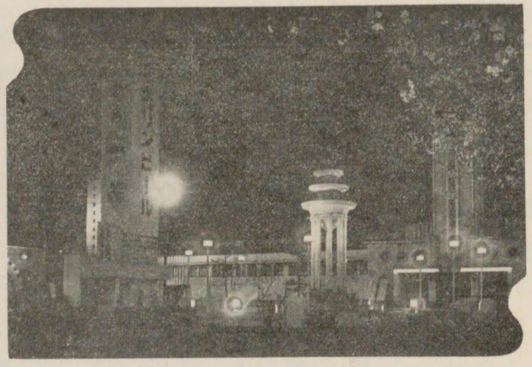
電氣供給と照明施設

博覽會場に於ける電氣設備に關しては、第一會場は晝夜開場、第二會場は晝間だけ開場する方針に基き、先づ各部主任者會議を開いて各部の意嚮を取纏めたが、第一會場は演藝館、觀光館、本願寺館等の特殊照明は勿論正門、大噴水塔、産業本館を始め各館は、各々その建築様式を充分發揮し得るやう照明配置に意を注ぎ、動力配線も亦遺憾なきを期し、第二會場は館外照明は正門其他要所々々に配り場外からの夜景眺望に備へたが、最も力を注いだのは陸海軍館其他に對する動力及び館内照明であつた。

設備概要　本會は建造物の設計完了と同時に、廣島電氣株式會社と電力受給契約を結び、更に本會造營物及經營物内の照明、會場内照明、警備燈についても本會の計畫設計に基いて工事請負を締結し、使用器具材料及び工費も定め、一切の電氣工作物は本會の自家用となし竟の儘に施工した。

受電設備
一、受電地點　第一會場及第二會場
　供給者　廣島電氣株式會社
二、受電地點の出力　二〇〇キロワット
　内譯　第一會場　一二〇キロワット
　　第二會場　八〇キロワット
三、電氣方式　六〇サイクル交流三相三線式、交流單相三線式及交流單相二線式
四、送電上の責任分界點　會場外近くの電柱に開閉器を置き、受電電力を遮斷し得る開閉器と兼用せしめた。

配電設備
一、電氣方式　交流三相三線式、交流單相三線式及交流單相二線式とし、配電線路の最大電壓は左の通りである。
　高壓　一、五〇〇「ボルト」又は　三、三〇〇「ボルト」
　低壓　一〇五「ボルト」又は　二一〇「ボルト」
二、使用場所の端子電壓
　一〇〇「ボルト」又は　二〇〇「ボルト」



春の不夜城を描いた第一會場

電氣工事

使用場所に於ける電壓別による電氣工事概要は左の通り

一、引込線工事　二・〇粍乃至二・六粍七本撚第一種及第二種絶緣電線を使用し、取付點は二・五メートル以上とした。

二、送電線工事　二・〇粍七本撚乃至二・〇粍一九本撚第四種軟銅線を使用し、配電盤と各分電盤とを連絡せしめる工事にして造營材とは三糎以上、電線相互間は六糎以上離隔し、電線亘長一メートル乃至四メートル毎に大四號碍子を以て支持した。

三、室内燈工事　一・六粍乃至三・二粍第二種線又は第四種軟銅線を使用、人の觸る虞のある箇所には第四種電線を使用し、全金屬管工事又は木製線樋工事をなして他動的損傷なきを期した。

四、ネオン管燈工事　一次側は一・六粍乃至三・二粍第二種線乃至第四種軟銅線を使用した碍子引工事で、二次側は一五、〇〇〇「ボルト」以下で、變壓器には專用の開閉器を裝置し、變壓器箱は第三種地線工事を施した。

五、動力工事　三・二粍乃至二・〇粍一九本撚第四種軟銅線を使用した碍子引工事で、電動機函には第三種地線工事を施した

六、開閉器工事　各分電盤に白熱電燈用の時は一キロワット以下毎に各極に開閉器及自動遮斷器を使用し分岐した、しかし承口一五個以内の場合は前記一キロワットの制限を三キロワットとした。又電燈と小型電動機及豆電壓器を併用供給するときは三キロワット以下毎に各極に開閉器及自動遮斷器を使用して分岐し、分電盤に開閉器を取付けた、但し一回路の承口の總數一五個を超過する場合は白熱電燈の總ワット數を一キロワット以下とした。

架空電線路の構造

一、電　線　高壓電線として五・〇粍以上の第一種硬銅線、低壓線として二・六粍乃至二・六粍七本撚第一種硬銅線を使用した。

二、支持物　木柱――檜の分注入柱を主として使用したが一部分は松のクレオソート注入柱を使用したが、大きさは末口一六・五糎、長さ八・五米乃至末口二二糎長さ一三米である。

腕木には二線用としては七五糎角、長さ〇・七五米の物を用ひ、三線用としては七五糎角、長さ一・六五米物を用ひた。

三、其他の構造大要　電線路中適當の箇所に遮斷すべき開閉器を取付けた。

高壓と低壓の混觸を豫防するため、變壓器の二次側に第二種地線工事を施した。

照　明

屋内燈、場内照明燈及警備燈の取付數は一、二一〇燈で、其他にネオン管燈二、〇〇〇尺を設備した。

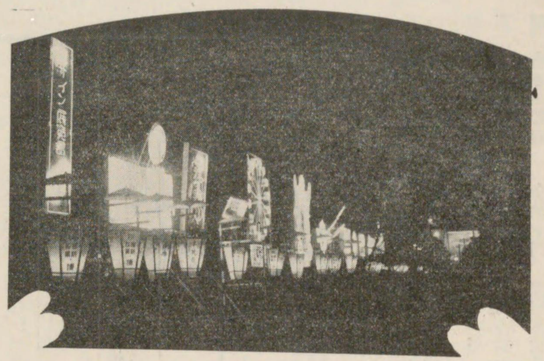
種別	第一會場	第二會場	計
屋内電燈數	六一五	四〇七	一、〇二二
外燈柱數	三〇 三三 一六 五	五〇〇W　一九 一〇〇W　二	一〇五
投光器	五〇〇W　六八	五〇〇W　一五	八三
全キロワット數	一一五	六五	一八〇
十燭光換算燈數	一五、三一九	七、六五八	二二、九七七

一、屋内燈　盲忘によつて暗黒とした館内は屋内燈照明で陳列された出品物を生かし、觀光館のモデオラマや本願寺館のパノラマは特殊な電燈照明裝置で其の觀賞効果を擧げ、演藝館の觀覽席天井には「トロヂヤリヤ」を取付け、ステーヂには「フツトライト」、「ボーダーライト」及白、赤、青等色さまざまな點滅自在の無照明裝置を施し、演出の効果を倍加せしめた。

二、場内照明燈　近代的構成美の極致を表はした場内各種建築物の特長を、充分發揮すると共に、場内を一大不夜城とするため、高燭光電燈及高燭光投光器八十餘臺を設備し折柄咲き揃つた櫻花と共に、絢爛美を誇つたが殊に第一會場産業本館前の大噴水塔は、其の池邊を隱蔽工事で施設した金屬管柱上の高燭光電燈八箇及白、赤、青、黄等の高燭光投光器八個で包んで粧麗なる水晶宮を想はせた。

三、警備燈　會場内の要所及各館内通路に設備し、夜間守衞の警備の便に供した。

四、ネオン管燈　會場正門、産業本館及歡迎門に、文字、マーク及び赤い灯、青い灯の電飾を施し、一大偉彩を放つた。



春の夜空を彩るネオンサインン展覽會

又、協賛會主催でネオンサイン展覽會を第一會場正門前に開催、呉地方の電氣サインに一新生面を拓いた。

電動力

各種出品物、機械の運轉操作實演及び電氣應用諸設備の原動力として二〇キロワットの電力を受電したが、殊に海軍館、航空館、陸軍館等の出品物は殆んど電動力に依る動的出品物であつたので、それだけ觀覽興味も深く、國防智識の普及に素晴らしい效果を齎らした。

電氣時計

十個を第一、二會場の要所に設備し入場者に便宜を與へた。

出品者使用電氣

「國防と産業大博覽會電氣供給案内」の如く、各種條件を決定し、需要者に對しては本會の承認を經て廣島電氣株式會社に於て工事を施行したが、之がため料金は低廉となり使用せられた電燈は約一四二〇燈、電動機約八〇臺に達した。

「國防ト産業」大博覽會電氣供給案内

本會ハ廣島電氣株式會社ヲシテ左記特定要項ニ依リ會場内ノ御需要ニ對シ供給致シマスカラ本會ノ承認ヲ經テ御申込ヲ願ヒマス

記

一、申込幅輳ノ爲メ工事遲延ノ虞レガアリマスカラ至急御申込ヲ願ヒマス

一、設置場所並ニ家屋等ハ一切博覽會又ハ協賛會ノ御承認濟ノ上御申込ヲ願ヒマス

一、給電時間

午前八時ヨリ午後拾貳時迄ヲ原則ト致シマス

必要ニ應ジテ伸縮スルコトガアリマス

一、電氣料金

料金ハ會期中ノ特定料金デアリマシテ左記ノ通リ總テ定額料金デ前金ニテ申受ケマス

會期内ノ日割計算ハ致シマセヌ

晝夜間御使用ノ料金ハ左記五割增デアリマス

◎電燈

燭光又ハワット別	夜間 會期中一灯ニ付	夜間 會期外一灯一日ニ付
十燭光		
二十ワット	一・〇〇	・〇三
三十ワット	一・二〇	・〇四
四十ワット	一・七〇	・〇五
六十ワット	一・九〇	・〇六
百ワット	二・五〇	・〇七
	四・〇〇	・一二
百五十ワット		・一七
二百ワット		・二一
三百ワット		・三〇
五百ワット		・四八
七百五十ワット		・六五
千ワット		・八五

千「ワット」超過百「ワット」迄毎ニ金貳圓八拾錢增デアリマス

特殊電燈使用ノ場合ハ別途御協定致シマス

拾燭光未滿ノ電飾燈ニ對シテハ其取付燈數ニ依ラズ二十「ワット」一燈ト見做シ料金ヲ申受ケマス

點滅裝置ニ依ル電飾燈御使用ノ向ハ御使用ノ實況ニ從ヒ御協定申上ゲマス

炭素繊條電球ノ御使用ノ場合ハ同燭光「タングステン」電球ノ三倍ノ料金ヲ申受ケマス

同一御使用者ガ同一建物内ニテ多數ノ電燈ヲ御使用ノ場合ハ別ニ御相談致シマス

◎電動力

馬力數	書間會期中料金	馬力數	書間會期中料金
八分ノ一馬力	二・五〇	三馬力	三四・〇〇
四分ノ一馬力	四・〇〇	五馬力	五七・〇〇
二分ノ一馬力	六・五〇	七、五馬力	八二・〇〇
一馬力	一二・〇〇	十馬力	一一〇・〇〇
二馬力	二三・〇〇	十五馬力	一六〇・〇〇

十五馬力超過一馬力迄毎ニ金拾圓增デアリマス

期間外御使用ノ場合ノ料金ハ前記ノ日割ヲ一日分ト致シマス

設備機械ニ直結セラレタル電動機ニシテ其實負荷ガ記錄容量ノ二分ノ一以内ナルモノノ料金ハ前記ノ三割引デアリマス

◎電　熱

容量	書間會期中料金	容量	書間會期中料金
五〇〇「ワット」	六・五〇	一、五「キロワット」	一八・〇〇
一「キロワット」	一二・〇〇	二「キロワット」	二三・〇〇

二「キロワット」超過壹「キロワット」迄毎ニ金拾壹圓增デアリマス

期間外御使用ノ場合ノ料金ハ前記ノ日割ヲ一日分ト致シマス

一、器　具

電球ハ無料デ御貸付致シマス

左表ニヨリ電球代ヲ豫メ御預リシ御使用終了後現品ト引換ニ御返シ致シマス

破損又ハ紛失セラレタルトキハ御辨償ヲ願ヒマス

◎電燈球代價

燭光別	種別	代價一個ニ付	燭光別	種別	代價一個ニ付
十燭光	タングステン茄子型電球	三五	三十ワット	瓦斯入電球	三五
	タングステン洋梨型電球	四五	四十ワット	同	四五
二十ワット		六五	六十ワット	同	四〇

百ワット	瓦斯入電球	同	五〇
百五十ワット	同	同	七五
二百ワット	同	同	一〇〇
三百ワット	同	同	一四〇
		同	二一〇
		五百ワット	三五〇
		七百五十ワット	五〇〇
		千ワット	六二〇

特殊電燈球、電動機、電熱器、配電盤及ソレ等ノ附屬品ハ御使用者ノ御負擔デアリマシテ御使用前當社試驗ノ上合格セルモノニ限リ御使用願ヒマス

一、工　事

配線工事ハ一切當方ニテ施工致シ左記費用ヲ前金ニテ御負擔ヲ願ヒマス

但シ特殊器具ヲ要スルモノ及特殊工事ハ見積ノ上申受マス

◎電　燈

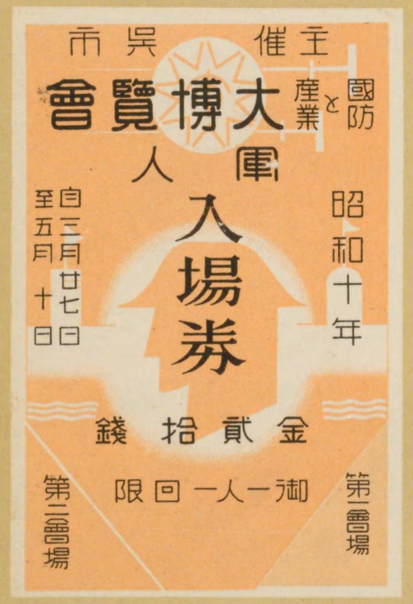
種別		代價
特設館賣店其他	一燈ニ付	二二〇
電飾燈ニシテ同一箇所ニ拾燈以上取付ノモノ	五十燈マデ	二〇〇
但シ燈間距離三尺以內ノモノ	五十一燈ヨリ百燈迄	一八〇
投光器取付及取除	同	七〇
投光器損料	一臺ニ付	三〇〇
	期間內一臺ニ付	一一〇〇

◎電動力

馬力別	工事一臺ニ付	馬力別	工事一臺ニ付
單相一馬力以下	五・〇〇	三相十馬力以下	二三・〇〇
三相三馬力以下	一三・〇〇	同十五馬力以下	二七・〇〇
同五馬力以下	一六・〇〇	十五馬力超過ノモノハ實費ノ徵收ス	見積ノ上

基礎工事ハ御使用者ニ於テ御準備願ヒマス

◎電　熱



工營

容量	單位	工費
一「キロワット」以下	一臺ニ付	五・〇〇
二「キロワット」以下 同	一「キロワット」迄毎ニ	一〇・〇〇
二「キロワット」超過		三・五〇

已ムヲ得サル事情ニ依リ御使用者ニ於テ配線工事ヲナサル場合ハ豫メ工作物設計仕樣書ヲ御提出願ヒマス
此ノ場合ニハ其御使用前工作物ノ檢査ヲナシ引込工事ヲ致シマスガ其檢査料ト引込工事費トハ左記ノ通リ頂キマス

◎檢査料

取付燈數	檢査手數料
十燈以下 一燈ニ付	•四〇
十一燈以上一燈ヲ增ス毎ニ	•二五
五十一燈以上一燈ヲ增ス毎ニ	•一五
百一燈以上一燈ヲ增ス毎ニ	•〇七
電力裝置 三馬力迄	一•七〇
同 三馬力超過十五馬力迄	三•〇〇
同 十五馬力超過五十馬力迄	四•二〇
同 五十馬力超過三十馬力毎ニ	•八〇

◎引込工事費

種別	館內	館外
百「ヴオルト」千「ワット」以下二線式	二•五〇	三•五〇
同 千「ワット」以上超過千「ワット」毎ニ	•八〇	一•三〇
二百「ヴオルト」五馬力以下三線式	三•五〇	四•三〇
同 五馬力以上超過五馬力毎ニ	二•五〇	三•五〇

特殊ノ工事又ハ多額ノ工費ヲ要スルトキハ前記工費ニ依ラズ其實費ヲ申受ケマス

一、雜　件

會期中使用者ノ都合ニテ電氣ノ御使用ヲ休止又ハ廢止セラルヽモ既納ノ料金及工事費ハ御戻シ致シマセヌ
本案內ニ記載ナキ事項ニツキマシテハ總テ當社ノ一般供給規程ニヨリ御取扱ヒ致シマス

以上

2 市呉催主 1

國防と産業大博覽會

優待券

御一人一回限

昭和十年自三月廿七日至五月十日

市呉催主

國防と産業大博覽會

優待券

第　號

昭和十年　月

有効期間

昭和十年　自三月廿七日

至五月十日

殿

日發行

觀覽施設と誘致

觀覽規程

第一條　本會ノ觀覽時間ハ毎日午前八時ヨリ午後五時迄トシ夜間開場ノ場合ハ午後六時ヨリ午後十時迄トス但シ時宜ニヨリ時間ヲ伸縮シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトアルヘシ

第二條　本會ノ入場料ハ左ノ如シ

晝間	大人	金四拾錢
	現役下士官兵	金貳拾錢
	小人	金貳拾錢
夜間	大人	金貳拾錢
	現役下士官兵	金拾錢
	小人	金拾錢

前項ノ規定ニ依リ小人ト稱スルハ年齡六歲以上十二歲未滿ノ者ヲ謂ヒ六歲未滿ノ者ハ料金ヲ徵セス

吳海軍工廠從業員又ハ三十人以上ノ團體及教員引率ノ學生生徒、兒童ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ入場料ヲ割引ス

第三條　本會ヲ觀覽セムトスル者ハ入場ノ際入場券ニ係員ノ改鋏ヲ受クヘシ

第四條　觀覽人ハ畜類ヲ率キ又ハ自轉車若ハ荷物ヲ携帶シテ入場スルコトヲ得ス但シ小形ノ手提及風呂敷包類ハ此ノ限リニ在ラス

第五條　觀覽人ハ左ノ所爲ヲ爲スコトヲ得ス

一、看守人又ハ係員ノ承諾ヲ得スシテ陳列品ニ手ヲ觸ルルコト

一、陳列館内ニ於テ喫煙スルコト

一、風紀秩序ヲ紊シ又ハ他人ニ迷惑ヲ及ホス行爲ヲ爲スコト

第六條　醉狂、瘋癲、惡疫又ハ嫌忌ノ感ヲ生セシムル者ニ對シテハ入場ヲ差止メ又ハ退場セシムルコトアルヘシ

本會の觀覽はすべて此の觀覽規程に基いて秩序統制ある觀覽の利便が計られ、正規の時間に開館、閉館時刻に到れば振鈴を合圖に閉館、隨時入場者の退出を求めることとし、一般來觀者の日程を正確に導いた。尚會場内に於ける有料館は、折角入場した觀覽者に惡感を抱かしめ、延いては博覽會の人氣にも影響するので、本會では特にこの方面に意を留め、場内は全部開放を主眼としたが、第一會場内の教育館、リンゲンス大演技場、演藝館、海女館、

第二會場に於ける水族館、國防戰史パノラマ館、世界一周館等は、その經營者關係と館内人員整理の必要上已むなく有料を認め、その特長を發揮して入場者に心ゆくまでの滿足を與へることに努めた結果、本會で最初抱いた杞憂もいつの間にか解消せられたのみならず、教育館其他リンゲンス大演技等却つて一般の人氣を集中する結果となつた等、何處までも惠まれた本會であつた。

觀覽時間の延長

本會觀覽規程による觀覽時間は「毎日午前八時ヨリ午後五時マデトス」であつたが晝間觀覽時間の午後五時限りでは、内容豐富な第一、二會場の觀覽は相當急いでも見盡されない、尠くとも一時間位延長し、觀覽に餘裕を與へられたいといふ一般の聲に應じ、觀覽規程第一條但書の「但シ時宜ニヨリ時間ヲ伸縮シ……略……」を適用し、博覽會人氣の高潮した四月十三日から晝間閉場午後六時と改め、外來者の好評を博した。

徽章及通門券發行規程

第一條　本會ニ於テ左記ノ徽章及通門券ヲ發行ス

一、徽　章　本會會長、副會長、參與、事務總長、理事、幹事、事務員、囑託ニ對シ交付スルモノ

二、觀覽券　正規ノ入場料ヲ支拂タルモノニ對シ交付スルモノ

三、優待券　本會ニ於テ特ニ必要アリト認メタルモノニ對シ交付スルモノ

四、門　鑑　會場内ノ營業又ハ工事ニ從事スルモノニ對シ會期中使用セシムル爲ニ交付スルモノ但シ寫眞添付ノコト

五、通　券　本會ニ關スル臨時ノ用辨ヲ爲ス者其他本會ニ於テ特ニ必要ト認メタル者ニ對シ交付スルモノ

第二條　前條第四號第五號ノ交付ヲ受ケントスル者ハ本會事務局ニ請求スヘシ

會場内ノ營業ニ從事スル者ハ門鑑一個ニ付金二圓ノ料金ヲ納付スヘシ

第三條　徽章記名優待券門鑑及通券ハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ貸與スルコトヲ得ス若シ其ノ事實ヲ發見シタルトキハ之ヲ沒收シ再交付セス

第四條　門鑑ヲ亡失シタルトキハ再ヒ交付セス但シ特別ノ事由アリト認メタルトキハ金二圓以上五圓以内ノ料金ヲ納付セシメタル上再交付スルモノトス

第五條　通門券ハ會場出入ノ際之ヲ係員ニ提示シ本會ニ於テ隨時徽章及通門券ノ點檢ヲ行フトキハ之ヲ提示又提供スルノ義務アルモノトス

第六條　徽章記名優待券門鑑及通券ヲ亡失シタルトキハ直ニ本會事務局ニ届出スヘシ

本會に於て發行した各種入場券や、徽章はいづれも徽章及び通門券發行規程に準據して發行交付した、その種類を摘記すれば左の通りである。

一、徽　章　本會の各職員（會長、副會長、參與、事務總長、理事、幹事、事務員、囑託）および吳市内日刊新聞社長、記者に交附した。

二、觀覽券　（晝間――大人入場券、現役下士官兵入場券、小人入場券――同夜間入場券、普通團體入場券、學生々徒團體入場券、小學兒童團體入場券、景品付割引前賣入場券）は本會觀覽規程第二條による正規の入場料を支拂ひた る者に對し交付した。

三、優待券　會期中有効の記名式優待券と、當日一回限り有効の無記名式優待券で、前者は特に本會で必要と認めた者、後者は主として來賓用に供した。

四、門　鑑　會場内の營業又は工事のため會期中使用せしめるため所持者の寫眞を添付して交付した。

五、通　券　本會に關する臨時用辨のため、本會で特に必要と認めた者に交付した。

以上本會で發行した徽章や各種入場券は次の通門券取扱内規により取扱つたが、徽章甲種優待券（記名式會期中有効）門鑑、通券は之を他人に讓渡或は貸與することを禁じ、其の事實を發見した時は沒收して再交付せぬことに

した、殊に門鑑は紛失した場合に於ても特別の事由のない限り再交付は拒絶した。

入場と觀覽　本會の觀覽其他の目的による入場は、左記の如く「徽章及通門券發行規程」により行つた。即ち徽章以外の觀覽のためにする入場は、觀覽規程による。

觀覽券

晝間入場料	大人	金四拾錢	
	現役下士官兵	金貳拾錢	
	小人	金貳拾錢	
夜間入場料	大人	金貳拾錢	
	現役下士官兵	金拾錢	
	小人	金拾錢	

の購入者および團體入場料割引規程並に入場券前賣規程による正規の入場料を支拂つたものと、左記による甲、乙兩種優待券所持者である。

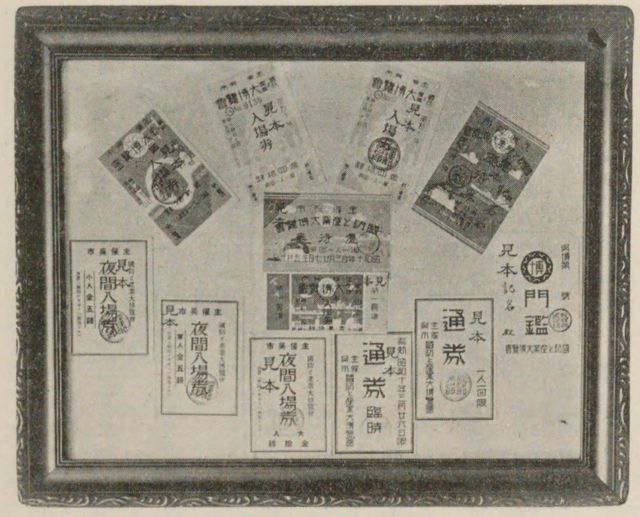
優待券

一、**甲種優待券**（會期中有效記名式）海陸軍部内、廣島縣廳、本市内に於て特に本會と關係を有する者に交付した。

二、**乙種優待券**（通用一回限り無記名式）本會視察のため來會された來賓に交付した。

門鑑および通券

また會場内の營業或は工事等により入場する者に對しては上記規程による「門鑑」を交付し、本會に關する場内陳列、裝飾其他催物等のため一時入場を必要とする者に對しては「通券」を交付し、それ〴〵の用務を辨ぜしめた。



本會の發行した觀覽券その他

尙門鑑に關しては最初第一、二會場を共通となし、請求者に對しては門鑑一個に付二圓の料金を徵し門鑑には使用者の寫眞を添付して使用せしめたが、門鑑發行の目的がその殆んどは第一、二會場を共通とするの必要なきことが判つたので、途中に於て規程の一部を改正し、第一、二會場を各個に分離し、料金も各一圓に低減した。

徽章優待券その他發行數量

種別	數量	摘要
役員徽章	三四九	會期中
出品人徽章	二〇〇	〃
優待券(甲種)	七六七	〃
〃 (乙種)	一八、〇二八	一回限
門鑑(有料)	一、二五三	會期中
〃 (無料)	五一二	〃
通券	一五、六二五	一回限又ハ期限付

通門券取扱内規

一、通門券及徽章ヲ別ケテ有料通門券ト無料通門券ノ二種トス

イ、晝間、夜間各入場券及門鑑ヲ有料通門券トス

ロ、各種徽章並優待券、通券ヲ無料通門券トス

二、徽章及ビ通門券ハ原稿ヲ添付シ所要數ヲ總務部ヨリ經理部ニ要求スルモノトス

三、經理部ニ於テ前項ノ要求ヲ受ケタル場合ハ夫々規程ニ依リ購入ノ手續ヲ了シ注文先ヨリ納入シタル場合ハ要求様式ニ適合スルヤ否ヤヲ檢收スルモノトス

四、經理部ハ檢收シタル通門券及ビ徽章ハ要求先ニ引渡スモノトス

五、總務部ハ引渡ヲ受ケタル有料通門券ハ更ニ經理部ニ引渡シ賣却ノ手續ヲ行フモノトス

六、無料通門券ハ總務部ニ於テ受拂ノ手續ヲナスモノトス

七、無料通門券中演藝人徽章ハ接待餘興部ニ於テ受拂ノ手續ヲナスモノトス

八、經理部ハ有料通門券賣却其他必要ニヨリ處理セントスルトキハ經理部長、總務部長、事務總長ノ認印ヲ受クベシ但シ急ヲ要スル場合ハ口頭ニテ報告シ一日分ヲ取纏メ認印ヲ受クルコトヲ得

九、經理部ハ有料通門券賣却ノ日報ヲ總務部ニ回付スルモノトス

十、博覽會終了後有料通門券ノ精算報告書ヲ總務部ニ回付スベシ

十一、總務部ハ無料通門券、徽章ノ受拂簿ヲ備ヘ月日、受付事由、數量ヲ記入シ差引ヲナシ總務部長、事務總長ノ認印ヲ受ケタル後交付スルモノトス
但シ急ヲ要スル場合ハ口頭ニテ報告シ假リニ處理シ一日分ヲ取纏メ認印ヲ受クル事ヲ得

十二、接待餘興部取扱ニ係ル徽章モ前項ノ例ニ依リ取扱フモノトス

十三、徽章及通門券ハ所管ノ經理部タルト總務部其他ノ部タルトヲ問ハズ金庫又ハ堅牢ナル錠前付容器ニ格納スルモノトス

團體入場者の優待

團體の入場は、團體入場料割引規程により之を普通團體、小學兒童團體、學生々徒團體（補習學校、青年學校も含む）に大別した他、特に海陸軍々人の團體に對しては、學生々徒同樣に取扱つた。

團體入場料割引規程

第一條　團體入場料ハ左ノ場合ニ限リ割引發賣スルモノトス

(1) **普通團體**

一、三十名以上ノ團體　一割引

一、百　名以上ノ團體　一割五歩引

一、五百名以上ノ團體　二割引

(2) **小學兒童團體**

一、教員ノ引率セル小學兒童ニシテ三十名以上ノ團體入場料ハ一人ニ付十五錢

(3) **學生、生徒、團體**

一、教員ノ引率セル學生々徒（補習學校、青年訓練所ノ三十名以上五百名未滿ノ團體入場料ハ一人ニ付三十錢
五百名以上ノ團體入場料ハ一人ニ二十五錢

第二條　各種團體觀覽者ハ入場前引率者ニ於テ事務局ヨリ團體割引證ヲ受ケタル後入場スルモノトス
此ノ場合團體員三十名ニ對シテ引率者一名五十名ヲ增ス毎ニ一名ノ割合ヲ以テ無料トス

前賣券福引景品場

懸賞附入場券前賣

博覽會入場券の前賣成績は卽ち市民の博覽會に對する關心の如何を知るによき、バロメーターとなる一方に於ては、間接的宣傳となり、博覽會景氣煽揚に頗る効果があるので、年末年始の一般贈答品用に、或は歲の市大賣出し景品に利用を慫慂して昭和九年十二月一日から翌年一月末日までの期間を期し、左記入場券前賣規定によつて

一等　總桐箪笥、錦紗訪問着のうち一品　十八本
二等　特製トランク、座布團、蚊帳のうち一品　四十五本
三等　洋傘、宣德火鉢のうち一品　百二十本
四等　盆、博覽會入場券のうち一品　二百四十本
五等　石　巖　三百六十本
六等　マッチ一袋、化粧品のうち一品　八萬本

まで空籤なしの景品をつけ、一口五十枚以上を單位として本市會計課で發賣したが諸官公衙、會社、工場、學校父兄會、町總代等から忽ち團體で申込があり、發賣早々から羽根が生えて飛ぶ好景氣を見せたが、更に市金庫として平素から納稅事務を取扱ひ、吳市のため

に盡力されてゐる呉銀行及三和銀行では、今回も率先して前賣入場券の發賣を引受け、

呉　銀　行――本通六丁目本店、川原石、三津田、東本通、今西通、警固屋、阿賀、矢野町各支店

三和銀行――本通八丁目總支店、南、荘山田、宮原各支店、東本通出張所、阿賀、吉浦、廣各支店

呉市信用組合――藏本通三丁目本店、海岸通、松本町各派出所

で、夫々好意的に發賣せられ、更につちや足袋、千福其他大商店では顧客優待用として大口の申込がある等成績は日々鰻のぼりに上つて前景氣は頗るよく、發賣期間は僅か二ケ月の期日ではあつたが、期間中九萬七千四百餘の賣出しができ、本會の豫想は完全に裏書きされ、開會前既に本會の破天荒の成功が期待できた。尙前賣入場券の發賣範圍は、事務取扱等の關係から最初は呉市内のみに制限してゐたが、音戸町昭和村等をはじめ近接町村からも、本件に關する紹介が頻々として來り、購入希望の向も相當あるので、さらに

音戸、昭和、大屋、坂、熊野、鄕原、仁方、江田島、海田市、船越、中黒瀬

の各町村役場に發賣を依託したが、本市とは平素から商取引も頻繁な近接町村であるので、購入者も非常に多く、市内に劣らぬ好成績で終始することができた。この成績は本會の經營上大なる利益を與へると共に、これによつて經營企劃にあたるもの丶力強い自信と成功の豫見を與へた。

入場券前賣規程

第一條　本會ハ一定ノ期間ヲ限リ晝間大人用入場券ノ割引前賣ヲナス

第二條　前賣入場券ハ五十枚一口トシ呉市役所會計課ニ於テ現金引換ニ之ヲ交付ス

第三條　前賣入場券ハ左ノ割引ヲナス

一、五十枚以上　一割引

但シ取扱人ニ對シテハ本會ヨリ五分ノ手數料ヲ交付ス

第四條　海軍工廠從業員ニシテ工廠ノ取纏メタル入場券一口貳千枚以上ノ申込ニ對シテハ開會前適當期間中別ニ定ムル率ヲ以テ割引前賣ヲナス

第五條　前賣入場券ノ販賣ヲ爲サントスル者ハ其ノ旨書面ヲ以テ博覽會事務局ニ申請シ承認ヲ受クヘシ

第六條　前賣入場券ハ如何ナル場合ト雖モ本會ハ買戻ヲ行ハス

第七條　前賣入場券販賣者ニ於テ如何ナル事故ヲ起スコトアルモ本會ハ其ノ責ニ任セサルモノトス

前賣券福運者

景品付前賣入場券の抽籤は會期中第一會場博覽會事務局内に抽籤場を設け、隨時入場者に抽籤せしめたが、幸運の一等を引き當てた人々は左の通りであつた。

一等總桐箪笥

一等	呉市本通四丁目	野村房子
同	賀茂郡廣村古新開	藤本豐松
同	安藝郡瀬野村	佐々木八郎
同	呉市本通七丁目	松尾三郎
同	呉市西本通八丁目	尾山光登
同	呉市松本町	進藤忠孝
同	賀茂郡廣村向新開	三宅初一
同	呉市西本通四丁目	小枝ヒサコ
同	呉市今西通三丁目	藤田キミコ
同	岡山縣笠岡町	小林ヨシノ
同	賀茂郡廣村	神垣信子
同	呉市八幡通三丁目	村上松太郎
同	呉市内神町	上内アサコ
同	呉市曙町二丁目	西本武一郎

軍港見學と軍艦拜觀

非常時局に直面する我國防と產業の全貌を展示し、國民の國防と產業に對する再認識を强化する本會の趣旨は、全日本國民に多大な感動を與へ開會近づくにつれ豫約來觀の申込陸續として殺倒、殊に國防に關する總ゆる資料を網羅した第二會場は本博の呼物となり、非常時の折柄國民の國防に對する關心が如何に深刻であるかを如實に示すものがあつた、更に是等の人々は殆んど海軍部内の諸施設、軍艦等の見學希望をスケジュールに組んでゐるのに鑑み、本會では豫め海軍當局に請願を行ひ、海軍見學希望者にはそれ〴〵見學手續き、或は船舶による入港團體に對する軍港入港許可等海軍に對する諸願屆を斡旋することとし、海軍當局の破格の好意により軍艦矢矧及び呂號第五十三潜水艦を會期中開放して一般入場者の觀覽に資するといふ前例のない便宜を圖られたのを始め、海軍部内諸施設も訓練その他諸作業に支障を來さぬ限り左記軍港觀覽實施要項に基いて

鎭守府、海兵團、海軍病院、軍需部、吳工廠、廣工廠、航空隊、潜水學校、下士官兵集會所

を開放、見學者には一々案内係を派遣して詳細說明されることとなり、來會者は齊しく我海軍の偉容に驚愕すると共に感謝の意を表し、國防と產業博の意圖も亦充分達成することができた。また江田島に於ける海軍兵學校に於ても、生徒の教育訓練に支障を來さぬ程度に於て來會者の希望を滿たされることとなつたので、この博覽會を好機とする來吳者はわが非常時海軍のすばらしい現勢に接することが許された。

博覽會々期中軍港觀覽實施要項

一、觀覽中ハ各部ノ規則ヲ嚴守シ係員ノ指示ニ從フベシ
二、觀覽者ハ服裝ヲ正シクシ携帶品ハナルベク少クシ履物ハ艦船内ニアリテハ靴又ハ草履ニ限ル
三、各廳構内及艦船ニ於テハ定所以外ニ於テ喫煙スベカラズ

四、觀覽中諸機械器具ニ近接シ若クハ之ニ觸ルヽベカラズ
五、觀覽中案内者以外ノ係員、職工其他ニ對シ說明ヲ求メルコトヲ得ズ
六、許可ナクシテ撮影、摸寫、筆記ヲ禁ズ
七、作業廳ニ在リテハ特ニ汽車、自動車、電動車、起動機、自轉車等ノ通行ニ注意シ交通ニ關スル事故防止ニ充分ナル注意ヲ拂フコト
八、左側通行ヲ勵行シ紙屑其他ノ塵芥ヲ捨テザルコト
九、吳海軍工廠、吳海兵團、吳軍需部、吳海軍病院、軍艦加古等ノ觀覽ヲ許可セラレタルモノハ直接出頭指示ヲ受ク入ル）ニ出頭指示ヲ受クベシ
海軍潜水學校、廣海軍工廠、吳航空隊ノ觀覽ヲ許可セラレタルモノハ直接出頭指示ヲ受ク
一〇、吳海軍工廠ニ關スル事項
一、觀覽者ハ表門ヨリ入廠シ東門ヨリ退廠セシム
二、案内ハ人事部案内係及工廠守衞ニテ行フ
三、觀覽者入廠許可時刻
自午前八時三十分　至午前十時
自午後一時　至午後二時半
四、觀覽許可人員ハ一日概ネ一千名トス
五、觀覽時間ハ五十分以内トス、案内巡路ハ指標ニテ示ス
一一、廣海軍工廠ニ關スル事項
一、觀覽者ハ第一門ヨリ入廠第四門ヨリ退廠セシム
二、案内ハ左記時刻ニ取纏メ守衞ヲシテ行ハシム
午前九時三十分　午前十時三十分
午後一時三十分　午後二時三十分
三、觀覽時間ハ四十五分以内トス
一二、軍艦矢矧ニ關スル事項（略）

武勳輝く軍艦「矢矧」

軍艦の特別觀覽施設については本會がその擧催の趣意を非常時博におくところから最も意を用ひ主として本會主事國防部主任守武海軍中佐によつて吳鎭守府はじめ軍事普及部主任班目大佐の斡旋盡力によつて交涉をすゝめられ先づ左の如く特別拜觀の請願を提出した。

昭和十年二月九日

國防と產業大博覽會長
吳市長　渡邊伍

吳鎭守府司令長官　藤田尙德殿

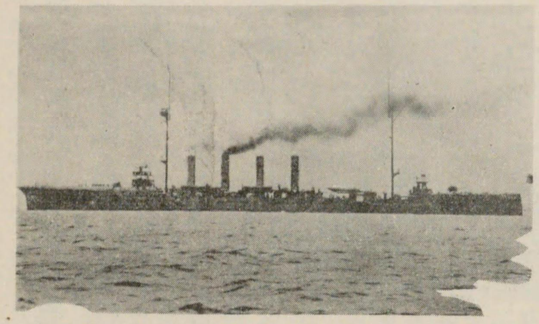
拜觀軍艦ニ關スル件請願

當博覽會ニ就キテハ每々ノ御懇情深謝罷在候陳者本會開會中全國各地ヨリ參集シ來ル觀覽者達ニ對シ軍事知識普及ノ御目的ノ下ニ當日ノ出願ニ因ル軍艦拜觀方即座御差許シ被下度切望ニ堪ヘズ候、仄聞スル處ニ因レバ其時期ニ於テ吳軍港內ニハ折リ惡シク適當ナル軍艦ノ御在泊ナキ趣キノ由誠ニ遺憾至極ニ御座候、就テハ甚ダ勝手ケ間敷ク候ヘ共何等カノ御方法ニ因リ見學艦ノ御指定仰ギ得ル樣御許容ヲ得度

右及出願候

恰も吳軍港は非常時の折柄、優秀な軍艦はすべて現役艦船として就役中であるため、本會が希望した最新鋭艦をといふことは到底時節柄許されないので海軍側としても大いに考慮を重ねられた結果已むなく軍艦矢矧を特に指定されることとなり、同艦は旣に廢艦期に近く艦內もすべて消燃の狀態にあつたにも不拘絕大な犧牲を拂はれ一部の改裝とエンヂンの裝置等を加へられ多大の經費をこれに費して、特に第二會場外へ繫留替の上、會場內から直接市の通船にて拜觀を差許されることとなつた、同艦はその艦齡に於て新式にあらざる憾みはあるも、幸ひ今次對支事變の第一武勳艦として感激あらたな軍艦であり海軍に於ては特に當時の武勳をしのぶ兵裝そのまゝに復元し、以て

精神的な感動を與へ艦內隈なくその面影を偲ぶこととなつた。このことは非常時として、まことに海軍側最大限の敬意を寄せられたもので實に軍港だからこそ許された破格の恩典であつた。



武勳輝く軍艦「矢矧」

軍艦矢矧觀覽實施ニ關スル件

一、觀覽ハ海軍觀覽規程並ニ吳軍港觀覽規定ニ據ルノ外左記ニ依ル

二、期間自三月二十七日至五月十日間每日午前九時ヨリ午後三時半マデトシ午後二時半陸發ヲ以テ每日ノ最終トス

但シ天候其他ニ依リ中止スルコトアルベシ

三、吳市指定ノ船舟ニ依リ輸送セラレタルモノハ觀覽ヲ許可ス

四、觀覽場所ヲ中甲板以上トス觀覽順路ハ之ヲ標示シ混雜ヲ防止ス

五、舷梯使用區分

左舷梯乘艦者用

右舷梯退艦者用

六、案內者ハ矢矧乘員トシ案內者ナクシテ艦內ヲ徘徊セザルコト

七、吳市所定ノ海上輸送船ノ舷梯達着其他保安整理ハ吳市ニ於テ行フコト

八、吳市所定ノ海上輸送船ハ乘退艦者ノ輸送ヲ圓滿ニ實施シ、一時ニ多數觀覽者ヲ艦內ニ殘留セシメザルコト、且ツ觀覽者終止時刻迄ニハ全部退艦者ノ輸送ヲ完了スル如クスルコト

九、海上輸送船ハ出入港艦船ノ航路ヲ防害セザルコト

十、艦內ニ於テ所定以外禁煙ノコト

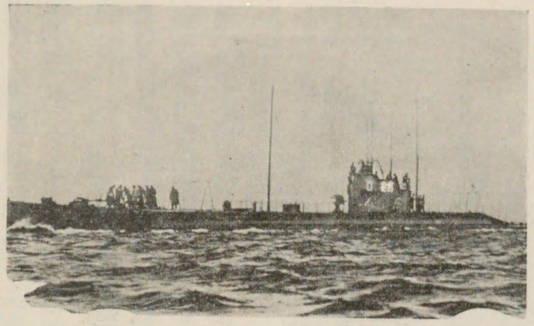
十一、用便ハ陸上便所ヲ利用スルコト

十二、艦內ハ靴、草履トシ下駄ヲ用ヒザルコト

十三、携帶物件ハ陸上ニテ「一時預リ」所ニテ預ケ危險混雜ヲ防止スルコト

奇襲潜艦「呂號第五十三號」

また更に見學潜水艦として呂號第五十三潜水艦を第二會場岸壁に繫留、特に入場者は自由に棧橋を利用して艦内を巡覽せしめられることになつた。これは實に本會のみに許された空前絶後のもので潜艦の開放觀覽の如きは、かつて前例のないことであり、まことに本會の光榮であつた。



呂號第五十三潜水艦

同艦は我奇襲戰術に最適の精鋭で、大正九年七月三菱神戸造船所で進水、同十年三月竣工と共に我艦籍に入り、呂五一——呂五六潜水艦の姉妹艦として長サ七〇米五九、幅七米一六、吃水三・九六、排水量八九三噸、速力一七ノット兵裝——八糎砲一、發射管四

を有し、かつては列强の脅威の的となつたものである。特に本會の乞ひを容れられ第二會場軍事作業實演場附近岸壁に繫留されると同時に、頑强なる棧橋を後部甲板に架し、見學者は自由に出入、後部機關室から、中央司令室、前部水雷室まで拜觀し、前部ハッチを登れば防潜網破壞用鋏、或は水中聽音器、八糎砲あり、甲板中央部には司令塔、潜望鏡があり、更に上甲板及び水に接する鋼板の各種潜水用設備等實に學ぶべき數々があり、同艦だけでも非常時國防讀本の數十頁を飾るに充分である、隨つて拜艦者は開場の午前八時から午後四時まで、全開期を通じ隨時許されることとなつた。尙同潜水艦の構造、性能等については、陸岸に同艦横斷面(各室說明)要目表を揭載した大額を設け、拜觀者に容易に同艦の構造、性能が判るやうにしたが、更に同艦各部說明は左記の如く說明札を作製し、各必要箇所に揭揚して、實物による知識を擴めた。

上甲板……水中聽音器、救命浮標、司令塔、ピープホール、潜望鏡、無線電信線、高角砲

下甲板……各室名稱(無線電信室、二次電池室、水雷室等々)

兵器機械名稱(發射管、水中信號器、潜望鏡、影罅針儀、ヂヤイロコンパス、酸素製造機、深度計、上昇、下降舵等)

團體觀覽の誘致とその優遇

本博覽會は他都市の博覽會とは全く趣きを異にし、その開催趣旨の一大眼目が、一九三五・六年の國際的危險線突破にあり、軍部はもとより一般からも「軍港都市吳」に相應しい、時機を得た催であると絶大な賞讃を博し官私鐵道諸驛をはじめ海、陸運輸業者を通じての團體觀覽申込は、開會前既に十數萬名に達する盛況を示した。本會では幸先よいこれが申込みに係員一同ます〳〵緊張して協贊會接待部と共に緊密なる連絡を保ち萬端の準備を進めたが、特に接待餘興部内に團體係を設置し、係主任水野主事のもとに

庶務係(二名)　關係各部との接渉、一般事務管理、團體申込受付、照會に關する注意參考書類發送、交通關係
海軍係(二名)　軍港入港、觀覽許可手續並交涉海軍見學を含む案内路の作成
連絡係(二名)　案内所其他必要ヶ所との連絡
旅館係(一名)　旅客の宿泊斡旋、其他旅館に關する一切の事務
案内係(五名)　團體受付、案内

の各分掌を決定し、更に左記の如く見學團體取扱内規を設定して之により萬遺憾なきを期したゝめ、別項の如く一日數十團體の殺到に對しても一糸亂れぬ統制のもとに觀覽客を案内することができ、來觀者には豫想以上の好感を與へることができた。

博覽會見學團體取扱内規

一、本會總務部ニ見學團體係ヲ置キ當該關係事項ノ統制ヲ圖リ遺憾ナキヲ期セントス
二、團體係ハ凡ソ左記事務ヲ執リ之ガ實施ハ各係部係ニ委讓スルモノトス
イ、團體見學ニ關スル事務ノ統制
申込或ハ照會ニ對スル關係事務ノ統一並ニ處理ヲナス
ロ、團體見學實施計畫ノ立案並ニ決定
當該團體ノ發着時間並ニ希望ヲ斟酌シ適切ナル計畫ヲ樹立シ海軍ニ關スル接涉手續ヲ行フ
但シ宿泊ソノ他一切ニ關シテノ準備交涉ノ實施決定ハ當該關係接待部ノ任トス
ハ、團體入場券ノ交付
來着時ニ入場券ノ交付事項ニ關スル接待ヲ行フ
三、本係ノ任務ハ主トシテ事務的ノモノニシテ團體來着後ニ於ケル接待案内等ノ實行ハ當然關係接待部ノ受持ツベキモノトス
四、以上ノ如ク本務ハ本會並ニ協賛會接待部ト切離シ能ハザル關係ニアルコトヲ留意シ圓滑ノ協力ヲ要ス
五、構内見學等海軍ニ關連セル事項ニ對シテハ鎭守府ト交涉ノ結果水野主事經由ニテ統一ヲ圖リ個々ノ交涉ヲナサザル事ニ協議ス

團體係の活躍と收獲

本會の宣傳は、準備時代に於ては宣傳不徹底とか、何とか兎角の風評も行はれたが、世評に拘泥せず、所信に向つて邁進した宣傳部の不斷の努力は、會期一、二ケ月前頃から漸うやく顯れ、近縣の官私鐵道驛、汽船會社其他海陸運輸業者からの團體申込み、或は學校、青年團等からの見學紹介等日々を經ると共に殺到し、係員は之が應接に暇ない狀態であつたが、團體係では之等紹介、或は申込團體に對しては
本博覽會の內容、海軍及附近名勝案內、市內及近郊交通概要、旅館案內、見學日程時間表

等の印刷物および左記團體申込表其他を直ちに發送して、豫め團體來吳者の便宜を圖つたので、團體客は到着から、歸路までの日程作成に頗る利便となり、しかも寸秒の時間も空費せずに、觀覽見學の目的を達成できたので、各方面の好評を博し感謝の意を表されるもの、また枚擧に遑ないものだつた。

拜啓吳市に於ける「國防と產業大博覽會」御觀覽を機として來吳せられ候由非常時の折柄誠に感謝致候
却說此の機會に吳軍港の見學を希望せられ候向も有之べく候に就いては博覽會場より鎭守府指定鑑矢剏への渡船等の便宜は本會に於て取計ふべく候其の他の海軍諸官廳等の觀覽及民船にて軍港に入港等は總て海軍當局に願出て許可を要する次第に有之候尙鎭守府行事及出願者多數の場合は往々許可せられざる場合も有之べく被存候に付御含み置き相成度候本會事務局團體係に於ては便宜上鎭守府へ出願の取次等取計ふべく候に付見學希望の向は至急同封の別紙願書に夫々記入の上本博覽會事務局團體係宛御送付相成度右見學並に博覽會の觀覽等の接待も本會及協賛會に於て遺憾なく取計ひ申上度候に付之も別紙博覽會團體申込書に夫々該要記入の上海軍關係願書と共に至急送附願上候
追て宿泊を要する場合は本博覽會事務局團體係宛御照會相成度

吳市二河公園內
國防と產業大博覽會事務局
團體係

御參考

一、國防と產業博は第一會場（二河公園）、第二會場（海軍用地）の二ケ所で、第一會場に約五時間、第二會場に約四時間の約一日間（開場時間は各午前八時から午後五時迄但し四月三日から同十七日迄の第一會場の夜間開場は午後七時から午後十時迄）を費さなければ一通り內容を觀覽することが出來ない程豐富でありますから日歸り團體の場合は博覽會だけでも裕に一日行程に充分です
軍港見學と軍艦拜觀

軍港見學と軍艦拜觀

一、然し是非日歸りで海軍見學を希望せられる場合には半日を海軍見學に半日を博覽會觀覽に費さなければなりません、此場合には半日の海軍見學を

A　吳工廠と海兵團或は軍需部
B　潛水學校と海兵團と軍需部
C　廣工廠と吳航空隊
D　海軍兵學校

と云ふ風に選ばなければなりません

一、一日吳市に滯在して全一日を海軍の見學に費される場合には

A　兵學校を除く外の各部隊
B　兵學校と其の他の一、二の部隊

を見學することが出來ます、海軍の見學はいづれも午前九時頃から午後三時頃迄の間を許可されその部隊は吳工廠、海兵團、軍需部、潛水學校、廣工廠、吳航空隊、兵學校等であります

一、軍艦と、潛水艦は第二會場から特に願書を要せず容易に拜艦出來る樣になつて居りますから第二會場の觀覽行程に入れてあります

一、定期船以外の傭船に依る吳軍港內（川原石波止場）へ入港の場合は入港許可を受けたる上日出より日沒まで出入を許されるも、港內に繫船、又は碇泊等は特別の場合の外許されません、その場合は一應港外吉浦港で停船を要します

第　號

團體申込票

國防と産業大博覽會

團體所在地	
團體名	
團體種類	
人員	大人（男 女）　小人（男 女）
代表者住所	
住所氏名	氏名
到着月日時	昭和十年　月　日午　時　分
列車番號汽船其他	
到着場所	
宿泊所	
宿泊料	
日程コース	
其他希望	

觀覽場所	觀覽希望ノ有無	備考
第一會場		
第二會場		
軍艦（願書不要）		
潛水艦（願書不要）		
工廠		
海兵團		
軍需部		
潛水學校		
廣工廠		
吳航空隊		
兵學校		

軍港觀覽と入港の斡旋

また海路を利用して續々大量觀覽の申出があるので特に本會團體係では海軍の諒解の下に軍港入港願および博覽會觀覽を機とする軍港觀覽願は左記書式により本會團體係で取次斡旋したが、これまた多大の利便と手數を省き觀覽者のサービス滿點であつた。軍艦矢矧並に呂號五十三潜水艦は特に本會のため特定の位置に繋留自由に拝觀を許されたので、一々の手續は要せなかつた。

昭和十年　月　日
願人住所
氏名

呉鎭守府　御中

軍港觀覽ノ件出願

左記ニ依リ貴軍港觀覽致度候條御許可相成度

記

一、觀覽ノ日時
二、觀覽者ノ種類員數
三、觀覽希望ノ個所
四、其ノ他必要事項

昭和十年　月　日
願人住所
氏名

呉海軍港務部　御中

呉軍港第　區入港願

一、船種及總噸數　全長　吃水
一、船名及符字
一、船長氏名（船主住所氏名）
一、入港目的
一、陸揚場所
一、碇泊場所
一、滯在期間　昭和十年　月　日ヨリ向フ　日間
一、發船地

右出願ス

軍港海上の取締　博覽會目指しての團體船は四月上旬入港のものだけでも四十餘團體、一萬數千名が會期前早くも呉海軍港務部に願出られるに及び、會期を通じれば海上を押寄せる團體船は莫大な數に上り、更に軍艦見學船の往復、一般定期船の出入港を加ふれば、軍港内は驚異的輻輳を極めるものと豫想され、之が港内保護、警戒に任ずる港務部では、港内海上取締大綱を左記の如く決定、事故の皆無を期して保護警戒せられたゝめ、前後四十五日に及ぶ會期中、遂に無事故の好記錄を獲得することが出來、港務部々員の御盡力に對しては本會の最も感謝するところである。

一、從來軍港内（川原石）出入許可船舶ノ噸數制限ハ二百噸デアツタガ、會期中出入船舶頻繁、特ニ第一艦隊入港等考慮シテ、コレヲ百噸内外ノ發動機船程度ニ低下シ、御餘は吉浦港ニ入港セシメル
一、特ニ出入船舶ノ船客定員ヲ嚴守セシメ、定員超過ニツイテハ水上署、博覽會當局ト協力シテ嚴重取締リ、場合ニヨツテハ出入港ヲ停止スル
一、港内出入船舶、來往便船輻輳取締ノタメ巡視ノ回數ヲ適宜增發シテ海上事故防止ニアタル
一、軍港出入船舶相互間ノ速力競爭ハ水上署ト協力シテ特ニ嚴戒スル

旅館調査と觀客接待

博覽會の開期中は春暖の候で季節もよし、海軍見學を兼ねた觀覽者の殺到は十分豫想され、且つこの季節は平素に於ても全國の諸學校、青年團等の修學旅行團、或は軍港見學を兼ねた一般觀光團の來呉も頗る多い時なので、本會では先づ旅館の收容力に就いて憂慮せざるを得なかつた。しかも旅館の設備、待遇は直ちに旅客の忘れ難い印象となり、善惡の感情に觸れて、直ちに本博覽會の觀覽客誘致に反響するのは勿論、本市の發展上にも多大の影響を齎らすので、豫めこれが對策を講ぜねばならなかつた。卽ち本會接待餘興部が設けられ、係員の配置が決定すると共に旅館調査係を專任し、

旅館の位置、客室數、間取り、面積、收容人員、（定員、最大收容能力）

を詳細調査せしめたる處、

旅館等級	戸數	間數	個人客收容數	最大收容可能數
一等（甲）	五	五一	一一一	九八〇
一等（乙）	七	一二五	三〇四	一、一一九
二等	三一	二九八	六四四	一、九〇五
三等	一八	一二四	二七一	六八七
計	六一	五九八	一、三三〇	四、六九一

と云ふ結果を得たが、會期中に於ける本市宿泊者は團體、個人を加ふれば一日五六千名は下らぬ本會の豫想とは相當な間隔があるので、本會としては更に市内に於ける下宿業者、素人下宿、團體客を收容宿泊せしめることのできる寺院、集會所等の調査を行ふと共に吳海軍に對しては、特に事情許さるべき團體に對しては下士官兵集會所の利用許可方を依頼する等、之が對策を樹立し一方旅客來往、宿泊に最も關係深い警察、鐵道當局、旅館業組合幹部等とは數次にわたり協議を重ね

一、旅館の等級、位置、客室數、收容能力等を詳記した旅館一覽表、（吳市交通略圖附）

を先づ作成して、關係方面に配布し、博覽會事務所と旅館組合との連絡所を定めて、團體旅客の割當、斡旋についての萬善を期し、特に全市旅館業者に對しては、

一、旅客に對しては特に親切丁寧たること
二、料金は出來得る限り勉强して好評を博するよう努めること
三、食事、應接其の他の待遇に遺憾なきを期せられたきこと
四、裝飾、廣告等には必ず博覽會並に吳市の宣傳紹介等を加味せられたきこと
五、玄關は何時も氣持よく整頓し置かれたきこと
六、夜具、座蒲團、着物等は特に清潔にせられたきこと
七、汽車、汽船等の時間表を見易き場所に揭出せられたきこと
八、旅館組合の側でも旅客の案内方法を協定し遺憾なきを期し、旅館組合よりは案内人を案内所に派遣せしむること
九、業者は從業員に吳市並に博覽會の智識を授け客に宣傳し得る樣、豫め指導せられたし
十、博覽會より「マーク」を製作し各人に交付し、常に佩用して接待及宣傳のことを忘れざる樣願ひたきに付奬勵ありたし
十一、接客從業婦のサービス講習會には、必ず從業員を出席せしめられ度きこと

と云ふ警察、鐵道、旅館業組合、本會共同協議會に於ける協定事項を印刷した注意書を配布して、會期前先づ同業者の自覺を促した。

交通機關の整備

博覽會を中心とする交通機關は會期前より潤澁な活動を開始、いづれの博覽會もこの圓滑な施設は、觀客輸送上の生命的な問題となるので、本會では特に鐵道、汽船、自動車その他の交通機關に對して全面的な連絡交涉を圖り屢々各業者の會合を求めて遺憾なく接待を行ひよく團體誘致につとめた。

第一回鐵道關係輸送協議會

博覽會の成功は一にかゝつて觀客誘致策の如何にあり、鐵道による輸送の成否は最も重要な影響を與へるので本會に於ては夙に鐵道側と交涉をすゝめ、

△博覽會案内ポスターを鐵道局に於て發行方依頼の件
△第一、第二會場間連絡バス運行に關する件
△會期中三吳線未開通區間鐵道連絡バス運行に關する件
△第一會場内に鐵道出張所を設置方依頼の件
△出品物及出品關係者鐵道運賃割引に關する件

等についてかねて考慮をすゝめ、さらに此の際鐵道關係者と博覽會側の第一回協議會を開催に決し九年十月五日午前九時半より吳商工會議所議事堂に於て

鐵道局側
　門司鐵道局　波脇副參事、小方技師、中津海技師外八名
　廣島運輸事務所　佐藤所長外十名
　廣島保線事務所　比企所長外七名
　吳線關係　毛利吳驛長外三名
主催者側
　本會　渡邊會長、山田總務部長外八名
　協賛會側　仁田商工會議所副會頭、足利商工會議所副會頭、稻葉理事外四名

等出席、左記議題について協議を遂げ、多大な收獲をあげた。

〔宣傳部〕
△吳、廣島、兩驛前廣場ニ會期前博覽會標識物設置ノ件
△博覽會案内ポスターヲ鐵道局ニ於テ發行方依頼ノ件
△下關棧橋附近ニ照明標識物設置ニ關スル件
△門鐵管内各主要驛ニ於テ博覽會觀覽團體募集方依頼ニ關スル件

〔工營部〕
△會期中吳驛ヨリ第一上陸場入口ニ至ル間ノ溝渠上借用方依頼ノ件
△阿賀驛前連絡道路新設費補助ニ關スル件
△第一、第二會場間連絡バス運行ニ關スル件
△海田市、吳、三原、阿賀、廣、吉浦各驛プラットホーム歡迎裝飾ニ關スル件
△會期中三吳線未開通區間鐵道連絡バス運行ニ關スル件

△吳、吉浦、阿賀各驛前廣場ニ會期中歡迎門建設ニ關スル件
△吳、吉浦兩驛構内ニ協賛會案内所設置ニ關スル件

〔接待餘興部〕
△第一會場内ニ鐵道出張所ヲ設置方依頼ノ件
△觀光案内ニ關スル刊行物寄贈方依頼ノ件

〔總務部〕
△出品物及出品關係者鐵道運賃割引ニ關スル件
△會期前吳市ニ於テ鐵道關係主任者會議開催ニ關スル件
△鐵道省出品依頼ニ關スル件
△會期中吉浦驛乘降口ヲ海岸側ニ新設方依頼ノ件

△吳驛プラットホー改造ノ件
△吳驛プラットホーム連絡地下道設置ノ件
△吳驛機關車跡建物撤去ノ件
△鐵道乘客輸送力增大ニ關スル件
△吳驛降車口ニ市内案内圖掲出ニ關スル件
△吳驛臨時待合室設置ニ關スル件(便所共)
△吳驛構内ニ水飲所設置ニ關スル件
△吳驛手荷物受取所整備ニ關スル件
△吳驛出札口增設ノ件
△吳驛降車口上屋擴張ノ件

第二回鐵道關係輸送協議會

觀客誘致並に吳線旅客運輸の圓滑を圖るため、本會主催の下に特に協賛會側と協力して、これが達成を期すべく十年二月四日午後一時半より東本通小學校講堂に於て鐵道團體輸送協議會を開き、先づ月形事務總長より挨拶を行ひ、協議に入つた。

議題

一、博覽會經營一般ニ關スル件
一、協賛會企畫一般ニ關スル件
一、市内ノ交通ニ關スル件
一、旅館宿泊ニ關スル件
一、市内名所巡覽ニ關スル件

一、視察團體誘致ニ關スル件

等を中心に意見の交換を行ひ、列車ガソリンカーの大增車その他大量輸送上の手配につき大掛りな評定あり頗る好成績であつた、尙同夜は岩越料亭に於て渡邊吳市長の盛大なる招待宴があつた。

一、鐵　道　側

門司鐵道局運輸課	旅客掛長	小島信彥	
同	旅客掛	岡崎三代治	
同	同	松本仙一	
同	同	皆田清	
同	庶務掛	多々井廣次	
同	貨物掛	岩本貞一	
同	運轉課	列車掛	和田谷眞一
同		機關車掛	西田知一
大阪鐵道局運輸課	庶務掛	小林鎌次郎	
岡山運輸事務所	旅客掛	遠藤吉太郎	
同	營業係主任	竹內谷雄	
米子運輸事務所	營業掛主任	稻垣豐作	
下關運輸事務所		川島政雄	
門司運輸事務所		横田撰一	
同	營業掛主任	木村正三	
鳥栖運輸事務所		石川官吾	
熊本運輸事務所	營業掛主任	本多福男	
		島恒美	

同	營業掛主任	江崎友人	
鹿兒島運輸事務所		利田惠	
同		小畑清造	
大分運輸事務所	營業掛主任	田中重右衞門	
同		齊藤眞	
廣島運輸事務所長		佐藤英夫	
同	營業掛主任	渡邊良郎	
同		平岡勇	
姬路驛長		溝口浩吉	
岡山驛長		平川章一	
福山驛長		武乘重敬	
尾道驛長		秋田嘉市	
糸崎驛長		半田卯一	
松江驛長		佐藤階穗	
濱田驛長		中西謙吉	
小郡驛長		小川儀三郎	
山口驛長		高村宗三	
東萩驛長		國重三治郎	
戸畑驛長		土橋德太郎	
八幡驛長		青木玉次	
佐世保驛長		吉岡勝藏	
熊本驛長		土屋常男	
宮崎驛長		古谷重	
別府驛長		堀內省吾	

三原驛長　瀬島熊喜
廣島驛長　井出譽
宮島驛長　清水悅治
麻里布驛長　延吉仁太郎
柳井驛長　三鼓膳三郎
德山驛長　宇佐美丈夫
三田尻驛長　坂井寛
吳驛長　毛利夏藏
同助役　熊野好則
備後十日市驛長　小早川淨
藝備鐵道株式會社　水口正夫
吉浦驛長
海田市驛長
横川驛長
己斐驛長
横川自動車
岩國自動車

二、關係者側

大阪商船株式會社吳代理店　主任　前野種松
尼崎汽船株式會社　廣島支店長　時惣天二
石崎汽船株式會社　常務取締役　石崎仙太郎
瀬戸内商船株式會社　營業組合長　横田五郎
吳自動車　根石清六

藝南電氣軌道株式會社　專務取締役　永井喜平
吳旅館　組合長　大谷政之
嚴島觀光協會　宮郷久平
同　宮村榮助

三、來賓

吳海軍々事普及部主任　海軍大佐　斑目健介
吳海軍工廠總務部先任部員　海軍中佐　丸山茂富
吳海軍々事普及部々員　海軍特務大尉　前田周三

四、主催者側

國防と産業大博覽會長　吳市長　渡邊伍
同　副會長兼事務總長　吳市助役　月形七郎
同　參與　吳市會副議長　若山作一
同　總務部長　吳市勸業課長　山田芳信
同　宣傳部長　吳市教育課長　小田福松
同　接待餘興部長　吳市庶務課長　角谷治郎一
國防と産業大博覽會協賛會長　吳商工會議所會頭　三宅清一郎
同　副會長　吳商工會議所副會頭　仁田竹一
同　副會長　同　足利覺一
同　事務總長　吳商工會議所理事　稻葉隆直
同　宣傳部長　吳市觀光協會主事　山口晃

鐵道輸送の能率擴充

開會前本會の豫想した入場者は、大體六十萬人を越えるみこみで、之が内譯は

呉市内十五萬人、廣島市十萬人、廣島縣下十二萬人、他府縣二十四萬人

で、そのうち呉市を控除した四十萬人中の約六分の五は陸路と看做せば三十八萬三千三百人であり、之を本會開催期日に割當てれば一日平均約八千五百名が絶えず陸路で本市に押寄せるわけであり、しかもこれが大部分は呉線によるものと豫想すれば、一日三十三往復の列車（内ガソリンカー十七往復）では到底之が收容はできかねるので、本會に於ては

△各ガソリン車を列車に改むる件　△臨時列車增發に關する件

を門司鐵道局に申請した結果、當局に於ても本會のため多大の犧牲を拂ひ、左記の通り三月二十五日付局報で公表され、博覽會來觀者のため絶大な便宜を圖られた。

一、蒸氣列車に變更されるガソリンカー

下り	呉	發	9.54
前			10.34
後			4.26
			5.46
上り	廣島	發	6.41
			7.46
			8.52
			11.20
前		9.17	
		9 52	
		11.48	
後		4.06	
		4.20	
		6.34	
		7.36	
		8.12	
		10.19	

呉、廣間——午後零時三十一分呉發、午前十時三十六分呉着

なほ臨時列車は日曜、祭日に限り福山、柳井兩驛から左記の通り運轉されることになり二十五日付局報で公表さ

れた。

下り		發	6.15
前	山陽本線	發	7.10
	内海線	發	7.48
	市田	發	8.27
	呉	着	9.04
			9.52
上り		發	6.24
前	井島	發	7.53
	斐島	着	8.18
	呉	着	8.28
			9.17

大阪商船別府航路就航

觀光客の誘致上、最も緊密な關係を持つ呉、別府、熊本三市の利便を圖るため、本會では三市を繋ぐ別府、廣島定期航路を呉港（吉浦）に延航せしめられると共に、臨時船配船方を大阪商船株式會社に交涉した結果、大阪商船株式會社に於ても多大の犧牲を拂ひ、本會のために之を承諾せられ左記の通り定期船の延航及び臨時船を配船せられたので、同航路による來觀者も頗る多かつた。

昭和十年二月十四日

呉市長　渡邊伍殿

大阪商船株式會社
營業部
東洋課長　橋本信一

拜啓春寒料峭ノ候益々御淸榮奉賀候陳者今春貴市及熊本市ニ於ケル博覽會御開催ニ當リ之ガ觀客誘致ノ爲弊社經營ニ係ル廣島別府線定期船貴市延航ノ外ニ臨時船配船方豫テ御懇示ノ趣敬承仕候就而當航路現行定期ハ廣島碇泊時間僅少ナル爲メ長期ニ亘ル延航ハ實施上甚ダ困難ヲ伴フト共ニ臨時船差立ハ多大ノ犧牲ヲ可要次第ニ有之候得共御懇囑ノ厚モ有之且ツ當航路ノ使命ニ鑑ミ折

角御開催ノ博覽會ニ對シ更ニ幾何ノ氣勢ヲ添ヘ得バ幸甚ノ至ト存候ニ付別紙定期時刻表ノ通リ兩博覽會開催中ニ限リ實施致候間御了承ノ上何卒乍此上一層ノ御援助相願度此段御挨拶旁御依頼申上候　敬具

追而貴市關係各位ニ對シテハ貴下ヨリ宜敷御取成相煩度奉願上候

一、吳、別府線定期發着時刻表

(イ) 定期船 琉球丸

往航			復航		
吳	午後	八・〇〇時	別府	午前	八・〇〇時
廣島		九・〇〇	鶴川		一〇・三〇
宮島		一〇・〇〇	柳井港	午後	二・〇〇
大分	午前	五・二五	宮島		四・三〇
別府		六・〇五	廣島		五・三〇
			吳		六・三〇

但シ每水曜日發ハ休航トシ火曜日廣島發船ハ宮島ヨリ別府先航大分ニテ碇泊ス

(ロ) 臨時船 厦門丸

往航			復航		
吳	午前	九・〇〇時	別府	午後	九・三〇時
廣島		一〇・〇〇	宮島	午前	五・〇〇
宮島		一一・〇〇	廣島		六・〇〇
柳井港	午後	一・四五	吳		七・〇〇
鶴川		五・一〇			
別府		七・三〇			

但シ每火曜日發ハ休航トシ日曜日發船ハ別府着ノ上大分廻航碇泊ス

二、實施期日

自昭和十年三月二十五日
至昭和十年五月十五日

但シ右期間終了後ハ臨時船ハ取止メルト共ニ定期船ハ現行定期ニ復スルモノトス

船車料金割引優待

大阪商船二割引　大阪商船では別項の如く別府廣島航路琉球丸を吳吉浦港へ延航した外同船の姉妹船厦門丸を別府吉浦間に臨時就航せしめる等、本博覽會開催を期して大サービスを行つたほか本會の要望に應へて、更に破天荒な優待陣を左記の如く發表實施したが『春は船に乘つて』の觀光客の利用も多く、各方面の絶讃を博した。

一、廣島縣各港および別府、大分、鶴川より吉浦港間往復は三月二十三日から五月十三日まで實施、往復券に限り各等二割引

一、往復乘船券通用期間は發行の日ともに十日間とする

なほ、吳、別府、熊本三市の觀光コース協定による國防博と熊本新興博を繋ぐ觀光ライン利用乘船客に對しても前記に準じて各等二割引優待を實施された。

大阪關門間團體乘船運賃割引率　大阪商船株式會社　尼崎汽船部

○普通團體	
二十人以上	五分
三十人以上	一割
五十人以上	一割五分
七十人以上	二割
○學生團體	
二十人以上	二割五分
五十人以上	三割

一、上記割引率ハ各等每ニ總人員乘船賃ノ合計ニ對シ適用スルモノトス

一、學生團體ノモノハ十二歲以上ノ生徒學生及職員ニ對シ適用スルモノトス

一、十二歲未滿ノ生徒ハ二人ヲ以テ一人ニ計算シ普通團體割引率ヲ適用スルモノトス

團體割引率

瀬戸内海商船株式會社
急航汽船株式會社

區分		二十人以上	三十人以上	五十人以上	七十人以上	百人以上	二百人以上
普通	片道	五分	一割	一割五分	二割	二割五分	三割
往復		一割五分	二割	二割五分	三割	三割五分	四割
學生	片道	二割五分	二割五分	三割	三割五分	四割	五割
往復		同	同	同	同	同	同

電車運賃及回數券團體割引表

◎普通運賃　一區　金參錢
◎回數乘車券　甲號　金壹圓（三十八區綴）
　乙號　金貳圓（七十八區綴）
◎特種回數券　甲號　金壹圓（四十五區綴）
　乙號　金貳圓（百區綴）
　但シ三區以上乘車ノ旅客ニ限リ使用スルコヲ得ルモノトス
◎團體旅客運賃割引率

種別＼人員	三十人以上	五十人以上	百人以上	百五十人以上	二百人以上
學生軍人團體	割 〇・二〇	〇・二二	〇・二四	〇・二六	〇・二八
小學生以下ノ團體	〇・二五	〇・三〇	〇・三五	〇・四〇	〇・四五
普通團體	〇・一九	〇・二一	〇・二三	〇・二五	〇・二七

市内交通統制と料金引下

觀覽誘致の足となる、交通機關については接待部に於ても豫てより留意し屢々各業者の會合を求めて觀覽者優待サービスの協力を諮り種々斡旋の勞をとり、特別料金の制定、團體割引料率の引下等を行ひ、あらゆる大量來呉者の便を計るため各配車總動員を强行交通統制を企畫大いに利便を計ることとなつた。これと共に一般交通案内を作製して呉市の交通網について解説、料金等も掲出して一般の利便に供するところがあつた、今その一部を示せば左の通り

呉市交通案内

呉市内の交通は主として電車、バス、タクシーによるほか僅かに人力車も使用されてゐる。これらは何れも吉浦、呉驛及吉浦、川原石、鍋、阿賀各港の發着汽車汽船と圓滿に連絡を保つて居り又定期乘合自動車も巧みに海陸交通の連絡をとつて郡部主要町村へ短時間の内に交通をなし得る様になつてゐる。この運賃、所要時間等は左の通である。

電車　電車の運轉區間は市内川原石より呉驛前を經て本通より阿賀町を過ぎ廣村海軍工廠正門前に至る間を往復す。全區間は八區に分れ一區三錢にて川原石より廣工廠正門前までの所要時間は約四十分である。運轉時間は午前五時より午後十二時迄で二分乃至六分毎に運轉する。

市内バス　市内バスは藝南バス、沿岸タクシー、吉浦タクシー、八雲タクシーの四つがある。

一、藝南バス　市内を數系統に分けて運轉してゐるが呉驛及川原石棧橋、二河公園、其の他主要地點には皆運轉して居る。特に呉驛より博覽會第一會場及第二會場の直通連絡を目下申請中で之が運轉開始の曉は呉驛より第一會場迄僅に五分間にて到着し又第一會場より第二會場迄十分間を要する。運賃は同一運轉系統内に限り市内は總て五錢均一である。運轉時間は午前六時より午後十一時迄で四分毎に運轉する。この外川原石棧橋より廣村へ行く市外線があるがこれは二十分毎に運轉し廣村迄約二十五分間を要す。

二、沿岸タクシー　市内本通九丁目より呉驛前を經て海岸通より吉浦棧橋に至る間を往復する。運賃は舊市内は五錢で本通九丁目より吉浦迄は十錢である。運轉時間は午前五時より午後十二時迄四分毎に運轉する。この外呉驛より賀茂郡廣村、三津町、川尻町等へ行くコースがあるが何れも呉驛發着の汽車に連絡されてゐる。

三、吉浦タクシー　吉浦棧橋より本通九丁目間を運轉する運賃、時間其の他は大體沿岸タクシーと同一である。

四、八雲タクシー　呉驛より宮原通を經て警固屋町音戸渡場間を運轉する。運賃は音戸渡場迄片道廿六錢で約四十分かゝる。毎日午前五時半より午後十二時迄廿分毎に運轉し呉驛及鍋棧橋に於ける汽車、汽船に連絡されてゐる

タクシー　市内二十七ヶ所の營業所で八十餘臺を有し市街を縱横に馳驅す。賃金は平坦部約一哩半迄は五十錢均一で其の以外は舊市内に限り金壹圓迄である。右の外左の乘合バスがあり何れも呉驛より郡部主要町村への便がある。

一、藝南タクシー　呉驛より賀茂郡熊野町及安藝郡燒山間の二線を往復運轉する。熊野行は毎日午前八時より午後十一時迄七回運轉し片道運賃五十錢で約一時間かゝる。燒山行は午前七時より午後六時十分迄五回運轉し片道三十五錢で約四十分かゝる。

二、阿賀タクシー　呉驛より廣村長濱間を運轉する運賃は片道五十錢で午前六時より午後七時迄三十分毎に運轉し約四十分かゝる。この外呉驛より安藝郡苗代及賀茂郡鄕

原、乃美尾、三津口行があり午前七時及午後一時二十分の二回運轉し片道八十錢で三津口迄約二時間かゝる。尙別に阿賀港發着の汽船連絡の爲阿賀町海岸通より阿賀港大石迄十分毎に往復する。運賃は八錢である。

三、三ヱス自動車　吳驛より賀茂郡西條町及三津口連絡を運轉する。西條迄片道一圓で毎日午前六時から午後八時迄七回運轉し約二時間二十分かゝる。

四、大橋自動車　吳驛より賀茂郡竹原町間を運轉する。竹原町迄片道運賃一圓四十錢で約三時間かゝる。午前七時及午後四時、九時三十分の三回運轉する。

五、靑木自動車　吳驛より賀茂郡內海町間を每日五回運轉する。內海迄片道運賃七十五錢で約一時間半かゝる。

電車、バス、タクシー賃金及時間表

種別	車別	運轉區間	區間賃	全區間運賃	運轉時間	運轉間隔	所要時間	備考
市內	電車	川原石廣工廠前間	〇三〇	三四〇	自午前五時至午後十二時	二分乃至六分每	三十五分	三十名以上ノ團體ニハ二割以上ノ割引アリ
	藝南バス	市內	〇五〇		自午前六時至午後十一時	四分每	同	
	沿岸タクシー	同（吉浦九丁目間）	〇五〇		自午前五時至午後十二時	同	吉浦カラ第二會場マデ十二分	
	吉浦タクシー	同（〃）	〇五〇		同	同	吉浦カラ第一會場マデ十八分	
	八雲タクシー	同（吳驛前間警固屋間）	二六〇		同	二十分每	四十分	
	藝南バス	川原石村間	〇五〇	二〇〇	自午前六時至午後十一時	二十分每	二十五分	
	沿岸タクシー	吳廣長濱驛間		三五〇	自午前八時至午後三時	四十分	八回	

市外	同	吳驛三津町間	一〇〇〇		自午前八時至午後十二時	七回	二時間二十分	
	同	吳驛川尻町間	五五〇		午前六時三十分午後三時半同五時五十分	三回	一時間	
	藝南タクシー	吳驛熊野間	五〇〇		自午前八時至午後十一時	七回	一時間	
	同	本通九丁目山燒間	三五〇		自午前八時至午後六時	五回	四十分	
	阿賀タクシー	吳驛三津口町間	八〇〇		午前七時午後一時三十分	二回	二時間	
	三ヱス自動車	吳驛西條町間	一〇〇〇		自午前六時至午後八時	七回	二時間二十分	
	大橋自動車	吳驛竹原町間	一四〇〇		自午前七時至午後九時半	三回	三時間	
	靑木自動車	吳驛內海町間	七五〇		自午前七時半至午後九時	五回	一時間半	
市內タクシー	舊市內平坦部吳驛ヲ基點トシテ（約一哩半）東ハ朝日町西ハ海岸通波止場北ハ公園附近迄ハ			金五十錢均一				
	但シ宮原通八丁目ヨリ此場合往復ハ十割增ノ事			金壹圓				
				金貳圓				
	貸切ハ一時間			金貳圓				
	待時間ハ四分每ニ			金拾錢				

吳驛第一、第二會場連絡

吳驛を中心とする第一、第二兩會場の交通連絡については徒歩によるものは豫め近距離路線を定め、また自動車を利用するものは吳驛經由第一、第二兩會場間を藝南バス經營の市内バスに對して運行を斡旋、この間の料金を五錢と特定、さらに第一、第二兩會場間の直通バスはサンエス自動車會社が經營、これまた全線五錢均一として連絡を計り、さらに團體に對しては同社いづれも破格の割引を行つた。

觀客自動車溜場特設

いづれの博覽會に於ても空地利用を極度に發揮するため會場附近は自動車置場の設備を失ひ、惱みの種となつてゐるので、これらの通弊に鑑み本會では特に來賓用の自動車及び營業自動車等の溜場を特設して事故を防止すると共に觀客の足を統制することとし、一般觀客誘致については山間部の自動車を利用するものに對しても利便を計ることともなり第一會場外元裁判所跡の空地三百五十坪を巧みに利用してこれを自動車置場として施設、このうち二百坪を市内の貸切自動車溜場、百五十坪を郡部よりの自動車溜場にあてて自由にこれを開放した結果、郡部方面の團體來吳は自動車を殘したまゝ會場の見學を濟ませその日歸りが出來るやうにした。尙第二會場前に約百八十坪の自動車溜場を求めて、會期中警察官の應援を以ていづれも統制ある運行を計り、尙同溜場附近にはいづれも自動車組合に於て隨時乘車券の發賣を開始、大いに利便を與へた。

警備と防疫

市中の警戒と事故防止

博覽會期間中の會場内外、市内一般の取締に就ては、所轄吳署に於て種々考究し、關係方面に對しては、法規や遵守事項の印刷物を配布、或は訓示、警告、講演等總ゆる準備工作を行ふと共に、署員に對しても取締の完全を期するため種々訓練、訓示を行ひ、ために「期間中無事故」の同署モットーは完全に達成でき、本會としては深甚の敬意と謝意を表する次第であるが、これが取締實施は大體左の通り行はれた。

一、取締時間は毎日午前八時から午後五時まで、但し夜間開場の際は午後十時まで延長する。

二、取締本部は吳署に置き、行政主任これを統轄す。

三、警戒並に取締區域を左の四區に分け、それ〴〵人員の配置を行ふ。

イ、第一會場内外——本區域は第一會場内および東方は今西通以西、南は今西通、公園通、東二河通各四丁目筋以北、西は山手町以東、北は公園裏山手まで

場内に警官詰所を設け、取締警戒員の警備交代休憩所に充つ

晝間警戒は正服巡査二名づゝ數組を交代として一時間警邏一時間休憩の方法で會場内を間斷なく巡回し、各種取締警戒を行ふ。

正服巡査一名は必ず詰所内勤として遺失、拾得迷子の保護、その他一切の事務を掌る。

夜間警備取締も晝間と同樣である。

會場外の取締は巡査二名づゝ四組に分けて一時間交代で

(1) 會場正門前附近

(2) 裁判所跡裏自動車發着場附近

(3) 公園通五丁目十字路

(4) 今西通五丁目十字路

で交通整理を行ふ。

其他私服巡査隊は二名づゝ一組となつて刑事、特高、高等警察を主としてその他一般の視察警戒取締に當る。

ロ、第二會場内外——本區域は第二會場内および、東は二河

川以西、北は西本通、東二河通、三城通各六丁目以南、西は海岸通四丁目以東、（河原石港を含む）詰所、人員配置、晝間、夜間、會場内外の取締は大體に於て第一會場同樣。

ハ、驛構内、外――巡査十二名を二名づゝ六組に分ち、一時間交代で驛前電車終點十字路、公園通一丁目、公園通三丁目十字路、四つ道路の六ヶ所で交通整理を行ふ。

ニ、其他一般――前記區域以外の一般取締警戒は當番外勤員から必要に應じて適宜動員し、公園、海岸、水上各派出所は管内の取締警戒に當り會場内の詰所員と連絡協調して之が取締を行ひ萬遺憾なきを期す。

守衞、看守人の採用

守衞

博覽會場内の警備については豫め本會が自主的にこれを行ふと共に、吳警察署並に吳憲兵分隊の派遣せられる警官及憲兵によつて萬遺憾なきを期するため本會守衞の採用を行ひ、一般より公募左記の内規により十年二月七日女子高等小學校に於て嚴密な採用試驗を行つた結果應募者多數殺到、同月二十八日合格者守衞五十九人を採用した。

守衞ハ在鄉軍人若クハ嘗テ巡査、看守ノ職ニ在リタル者ニシテ身元確實、品行方正、身體强健ナル者、其他適當ト認ムル者ニシテ年齡二十五歲以上四十歲未滿ノ者但シ市内ニ於テ直接國稅年額十二圓以上ヲ納ムル保證人一名ヲ要ス

尙採用した守衞は定められた制服制帽により平山警備部長の統制下に於て警備部に屬し、主として會場内の取締、出品物の保全、入場者の改札、出入口の看守、入場者の整理、盜難豫防、火氣の警戒等にあたり「守衞職務規程」により則りそれ〴〵第一第二兩會場二班に別ち、次の通り配置を行つた。尙守衞長には豫備海軍軍人の關馬治氏が任命された。

第一會場　計三十三名

改札口	八名	陸橋門	二名
巡視	八名	擇善館	二名
控	八名	本願寺館	二名
團體係	一名		
守衞長	一名	守衞副長	一名

第二會場　計十七名

改札口	四名	出口	二名
巡視	四名	記念館	二名
控	四名	副守衞長	一名

守衞職務規程

第一條　會場ノ警備ニ任ズル爲守衞長一名、守衞副長四名、守衞若干名ヲ置ク

第二條　守衞長ハ本會警備部長ノ指揮ヲ受ケ守衞副長以下守衞ヲ監督シ會場ノ取締ニ任ズベシ

守衞副長ハ守衞長ヲ補佐シ守衞長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第三條　守衞ハ守衞長又ハ守衞副長ノ指揮命令ヲ受ケ會場ノ警備取締及門衞ニ任ズベシ其ノ職務概要左ノ如シ

一、各門及各館ノ開閉
二、會場出入者ノ取締並ニ觀覽者ノ保護
三、搬出入物件ノ取締並ニ其ノ査閱
四、火災及盜難ノ豫防
五、會場内施設物及植物其ノ他ノ保護
六、便所、下水塵芥箱、其ノ他會場内ノ掃除及撒水ノ監視
七、掃除及撒水人夫ノ取締
八、前各號ノ外會場一般ノ取締

第四條　勤務時間ハ開場一時間前ヨリ閉場一時間後トス
但シ會務ノ都合ニ依リ伸縮スルコトアルベシ

第五條　出勤シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印シ所要ノ鍵ヲ受ケ取リタル後服務スベシ退出ノ際ハ鍵ヲ返付スベシ

第六條　疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ニヨリ出勤スルコトヲ得ザルトキハ出勤時刻以前ニ屆出ズベシ、勤務中前項ノ理由ニヨリ勤務スルコト能ハザルニ至リタルトキハ直ニ守衞長ニ申出デ許可ヲ受クヘシ

第七條　勤務中已ムヲ得サル事由ニヨリ受持場所ヲ離レムトスルトキハ他ノ守衞ヲシテ其ノ任務ニ當ラシムベシ但シ三

十分以上ヲ要スルトキハ守衛長又ハ警備部長ノ許可ヲ受クベシ

第八條　守衛長ハ毎日開館時間前守衛ノ人員服裝ヲ點檢シ勤務ニ關シ必要ナル事項ヲ指示シ執務上遺憾ナキヲ期スベシ

第九條　守衛長ハ會場内ヲ巡視シ守衛ノ勤惰及會場内一般取締ノ監督ヲ爲シ若シ不都合ノ事實ヲ認知シタルトキハ臨機ノ處置ヲ爲スト共ニ其ノ旨警備部長ニ報告スベシ

第十條　守衛長ハ毎日守衛副長及守衛ノ勤務表ヲ作リ日日誌ヲ備ヘ勤務上ニ關スル重要事項並ニ毎日入場者數ヲ調査シ警備部長ヲ經テ總務部長ニ報告スベシ

火災其ノ他事變アリタルトキハ直ニ臨機ノ處置ヲ爲スト共ニ其ノ旨警備部其ノ他關係部ニ急報スベシ

第十一條　守衛副長ハ隔日ニ守衛ハ若干名宛輪番ニ宿直ヲ爲シ時々會場内ヲ巡視警戒シ各種物件ヲ監守スベシ宿直中發生シタル事故及處理シタル事項ハ宿直日誌ニ記載シ翌日守衛長ヲ經テ警備部長ニ報告スベシ

第十二條　守衛ハ勤務中特ニ左記事項ヲ遵守スベシ

一、觀覽人ニ應接スルトキハ言辭ヲ愼ミ最モ親切叮嚀ナルベシ

二、濫ニ受持場所ヲ離ルベカラズ

三、姿勢ヲ正シ動作ヲ愼ミ服裝ヲ清潔ニスベシ

四、書籍新聞等ヲ閱讀シ又ハ雜談、私語、喧噪ニ渉ル行爲アルベカラズ

五、如何ナル場合ト雖モ飮酒スベカラズ

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ穩ニ制止シ之ニ應ゼザルトキハ退場セシムベシ

一、館内ニ於テ喫煙スル者

二、陳列品ニ觸レ又ハ之ヲ汚損セムトスル虞アル者

三、會場内外ノ設備ヲ損傷セムトスル虞アル者

四、泥醉セル者

五、觀覽人ノ妨害ヲ爲ス者

六、異樣ノ風體ヲ爲シ又ハ風紀ヲ紊ルト認ムル者

七、其ノ他本會諸規程ニ違背スル行爲ヲ爲ス者

第十四條　飮食店又ハ賣店等ニ於テ腐敗ニ傾キタル物品ヲ販賣スル者アリタルトキハ警備部長ニ報告スベシ

第十五條　觀覽券其他ノ入場券ハ各門入口ニ於テ改札シ觀覽券無料入場券及通券ハ入鋏シ退場ノ際之ヲ受取ルベシ

第十六條　守衛ハ毎日入場者ノ數ヲ券別ニ調査シ日計表ヲ作リ受取リタル諸券ヲ添付シ閉場ノ後守衛長ニ報告スヘシ

第十七條　物件ヲ撤出セムトスル者アルトキハ撤出證ヲ受取リ現品ニ對照シ其ノ相違無キヲ認メタル上撤出セシメ其ノ撤出證ハ之ヲ關係部ニ返付スヘシ

第十八條　會場内ニ於テ犯罪者擧動不審者ヲ發見シタルトキハ直ニ警察官ニ申告スベシ

第十九條　會場内ニ於テ物品ヲ遺失シ又ハ遺失物ヲ拾得シタル者アルトキハ遺失者又ハ拾得者ノ住所氏名遺失又ハ拾得物件場所日時等ヲ聽取リタル上直ニ守衛長ニ報告スベシ

第二十條　傷病者ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ救護所ニ同行又ハ急報シ其ノ住所氏名及顚末ヲ守衛長ニ報告スヘシ

第廿一條　迷子ヲ發見シタル時ハ一應保護者ヲ取調ベ不明ノ者ハ警察官ニ引渡スベシ

第廿二條　本規程ニ規定ナキ事項ニ關シテハ總テ上司ノ指揮ヲ受ケ且臨機ノ措置ヲ誤ラザル樣注意スベシ

事務員守衛看守人傭人採用内規

一、本會ノ事務員、守衛看守人傭人ハ左記各號ノ範圍ニ於テ之レヲ採用ス

(1)　事務員年齡十七歲以上五十歲未滿ニシテ中等學校卒業若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者又ハ事務ニ經驗ヲ有スル者ニシテ身元確實、品行方正身體强健ナル者但市内ニ於テ直接國稅年額拾貳圓以上納ムル保證人一名ヲ要ス

(2)　守衛ハ在鄉軍人若クハ嘗テ巡査看守ノ職ニ在リタル者ニシテ身元確實品行方正身體强健ナル者其他適當ト認ムル者ニシテ年齡二十五歲以上四十歲未滿ノ者但シ市内ニ於テ直接國稅年額拾貳圓以上ヲ納ムル保證人一名ヲ要ス

(3)　看守人ハ年齡十八歲以上二十五歲未滿ノ女子ニシテ高等小學校卒業若クハ之レト同等以上ノ學力ヲ有シ身元確實品行方正身體强健ニシテ家庭ニ係累尠キ者但シ市内ニ於テ直接國稅年額拾貳圓以上ヲ納ムル保證人一名ヲ要ス

(4)　傭人ニアリテハ、身元確實品行方正身體强健ナル者

二、事務員、守衛看守人採用ノ場合ハ讀書、算術、書方其他必要ナル試驗及身體檢査ヲ行フモノトス

三、特別ノ事由アル者ハ前各項ニ依ラズ採用スルコトアルベシ

看守人

看守人の配置は各館に於て多少の增減はあるが、大體次の如く配置した。この外出品人に於て特に要求し、或は特殊な出品物に對する自營看守人設置の希望者には、經費を出品者に負擔せしめ增員配置を認めた。

看守人配置表

館別	正員	計算係	館別	正員	計算係
産業本館	五八	一二	軍需工業館	一三	一
鄉土産業館	二八	六	本願寺館	一三	一

農林水産館	拓殖館	觀光館	ラヂオ電氣館	體育館	二	海軍館	陸軍館	航空館	軍事記念館	計
五	五	三	二	二	—	—	—	—	—	一五一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二〇

服　裝　本會直屬看守人には、本會所定の薄茶色、六綾地事務服を支給着用せしめ、胸間には圓型（番號票）の看守人徽章を附せしめた。

服　務　看守人に對しては採用規定に示す如く完全な保證人を連署せしめ全責任を負はしめる一方、本會としても常に監督を嚴にし、風紀上其他忌はしい事故を防いだが、之が服務は左の服務規定によつた。

看守人採用

尙出品物の看守その他にあたる看守人はこれまた豫め採用試驗を行はれた結果二百一人を採用されたが人氣の焦點にある國防と産業博の花を添へる看守人の應募者はすばらしい景氣を呈し、女學校出のインテリも多かつた。その採用内規は左の通り

看守人ハ年齡十八歲以上二十五歲未滿ノ女子ニシテ高等小學學校卒業若クハ之レト同等以上ノ學力ヲ有シ身元確實品行方正身體强健ニシテ家庭ニ係累尠キ者但シ市内ニ於テ直接國稅年額拾貳圓以上ヲ納ムル保證人一名ヲ要ス

看守人服務規程

第一條　看守人ハ上司ノ指揮ヲ承ケ出品物ノ陳列看守整理保護ニ任ジ併テ賣約及即賣事務ノ補助ニ從事スベシ

第二條　勤務時間ハ開館一時間前ヨリ閉館一時間後トス但シ必要アルトキハ勤務時間ヲ延長スルコトアルベシ

第三條　出勤シタルトキハ直ニ出勤簿ニ捺印シ係員ヨリ所要ノ鍵ヲ受取リタル後各其受持ノ位置ニ就キ服務スベシ疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ニ依リ缺勤セントスルトキハ出勤時間前ニ出品部ニ届出スベシ

第四條　勤務中ハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一、必ズ制服ヲ着用スベシ

二、開館前閉館後各受持場所ノ陳列棚、陳列臺及通路其ノ他ノ清掃ヲ爲スベシ若シ陳列品ノ異狀附札ノ剝落又ハ陳列品配列ノ亂雜シタルモノアルトキハ直ニ出品部ニ申出ヅベシ

三、陳列品ハ鄭重ニ之ヲ取扱ヒ陳列棚ハ決シテ之ヲ開放スベカラズ

四、陳列品ハ本會役員當該出品人又ハ代理人若クハ購買セントスル者ノ外濫ニ手ヲ觸ラシムベカラズ

五、賣約又ハ即賣ノ申込アリタルトキハ直ニ其取扱主任ニ通報シ必要アルトキハ其ノ補助ヲ爲スベシ

六、盜難其他異變アルコトヲ發見シタルトキハ現場ヲ其儘ニ存置シ速ニ出品部係員又ハ守衞、警察官ニ申告スベシ

七、勤務中病氣其ノ他已ムヲ得ザル事故ニ依リ勤務スルコト能ハザルトキハ上司ニ申出テ許可ヲ受ケ退出スベシ

八、勤務中已ムヲ得ザル事故ニ依リ受持場所ヲ離レントスルトキハ隣接看守人ニ託シ看守セシムルコトヲ要ス但シ三十分以上ヲ要スルトキハ上司ノ許可ヲ受クベシ

九、出品人、及觀覽人ニ對シテハ言辭ヲ愼ミ最モ懇切叮嚀ニ應接スベシ

一〇、動作ヲ愼ミ不體裁ノコトアルベカラズ

一一、妄リニ受持場所ヲ離ルベカラズ

一二、書籍、新聞等ヲ閱讀シ又ハ編物、裁縫等ヲナスベカラズ

一三、雜談、私語、喧噪ヲナスベカラズ

一四、受持場所ノ土間板ノ間ハ時々撒水シ區内ノ清潔ヲ保ツベシ

第五條　左記各號ノ一ニ該當スルトキハ穩ニ之ヲ制止シ又ハ保護ヲ加ヘ直ニ守衞又ハ出品部員ニ通報スベシ

一、陳列品ニ接觸シ又ハ汚損セントスルモノアルトキ

二、館内ノ設備ヲ損傷セントスルモノアルトキ

三、館内指定場所以外ニ於テ喫煙スルモノアルトキ

四、觀覽人ノ妨害ヲ爲スモノアルトキ

五、異樣ノ風俗ヲ爲シ又ハ風俗ヲ紊ルト認ムル者アルトキ

第六條　觀覽人中擧動怪シムベキ者アルトキハ速ニ守衞又ハ警官ニ内報スベシ

第七條　每日退出ノ際ハ陳列館窓及陳列棚等ノ締リヲ調査シ其ノ鍵ヲ受持ノ係員ニ引繼グベシ

第八條　看守上ノ不注意又ハ怠慢ニ依リ生ズル陳列品ノ破損、紛失等ノ損害ハ當該看守人之ガ辨償ノ責ニ任ズベシ

第九條　出品人ノ使用ニ係ル看守人ニ對シテ本規定ヲ準用ス

第十條　看守人ニ採用セラレタル者ハ吳市ニ在住シ一家ノ戶主ヲ保證人トシテ誓約書ヲ差出スベシ

傳染病豫防の徹底

呉市では莫大な經費を投じて、傳染病豫防に努めてゐるが、容易に終熄せず、却つて昭和十年新春と共に腸チフスが再び擡頭した形成にあるので、市衛生課および呉署では徹底的豫防陣を張り、博覽會開會までには撲滅する意氣込で、二月二十日の藝妓および女給の腸チブス豫防第一回强制的注射を蓋開けに市内に於ける、旅館、料理屋、遊廓、飲食店、カフエ等飲食物に關係ある業者、接客從業婦全部に對して注射を行ひ、豫防の徹底を圖つたゝめ、博覽會開催直前には罹病者も頗る減じ、先づ博覽會の幸先を祝した。

街路の清掃と美裝

博覽會開催前後は春暖の候ではあり、市民の保健、衛生上にも注意を要する季節で、平素でも種々之が對策は講じられてゐるが、本年は殊に博覽會といふ大事業があるので、特にその點を配慮、呉警察署、衛生組合聯合會と協力して腸チブス豫防注射勵行、飲食物取扱上の注意等、等、次々市民へ警告したが、更に博覽會來觀者に不快の感を抱かしめず、軍港呉街の秩序清潔を誇るため左記の如く、三月十三日注意書を市内全戸に配布、街路の明粧保健を期したが、市民の自覺は忽ち路上に表はれ會期を通じ來觀者に好感を與へることができた。

道路清掃に關する注意

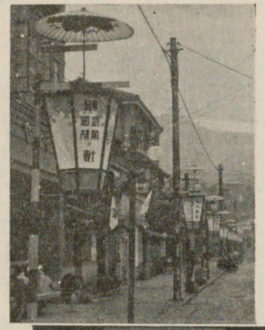
一、地先道路と家屋の周圍は必ず毎日一回以上掃除すること
一、地先下水、大下水、河川に塵芥その他種々のものを投棄せぬこと
以上について違反したるものには、汚物掃除法、道路取締施行細則、軍港要港規則で拘留、科料、罰金に處せらるゝことあるべし

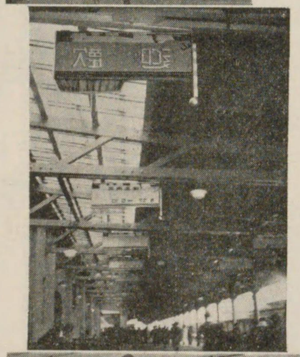
尙本市では右の道路清掃、保健衛生の徹底を期するため警察官、市吏員、衛生組合幹部で一ケ月三回各衛生組合内掃除狀況の視察を行ひ、成績優良な組合を表彰することにした。

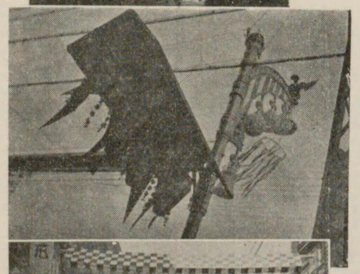
舗裝改善の實施　本市の街路は、他都市に比して頗る美化せられ舊市内は高地部に至るまで殆んど舗裝せられてゐるが、本通三丁目から西本通六丁目に至る縣道及海岸通六丁目以西の道路の舗裝が未完成であつたゝめ、本市では特に縣當局に陳情之が工事の速成を促した結果、開催期日までにはいづれも完成し、明朗快適な街路となり、本會にとつても至大な便宜を與へられた。

歡喜たゞよふ街の明粧

空前絶後の壯擧國防と產業博を迎へる歡喜にみちあふれた呉市は協賛會の斡旋奬勵によつて、いづれも街の明粧に餘念がない、市内をあげてはやくもお祭り騷ぎだ。







開會を壽ぐ街の明粧

第三編 開會

開會式

二十三萬吳市民が愛國、愛市の結晶として皇國日本へ贈る絢爛朗春の一大壯擧、國防と產業大博覽會は、第一、第二兩會場の會場設備全く成つた。昭和十年三月二十七日午前十時から第一會場に於ていとも華々しく擧催した。

この榮ある三月二十七日は、わが日本帝國が敢然國際聯盟を脫退し、名實共に自主獨往の第一步を大地に印し、全世界を驚愕せしめた歷史的記念日である。我帝國が國防第一線の心臟部たる吳軍都に於て開くこの非常時大博覽會が、特にこの日を選び開會の盛典を擧ぐることはまことにめでたき意義をもつてゐるものである。

前日までは降りつ降らずみの空模樣も、この盛儀を祝福してか明くれば早曉既に陽光燦として雲間をもれ、時と共にいよ〳〵晴れて、うらゝかな陽影は全市の隅々までうるほひ、絶好な開會式日和となつた。開會式場に當てられた第一會場は、非常時突破を目指す本會と二十三萬市民の熱意をその儘表徵した如く、白堊の壯麗な殿堂、世紀文化の華ひらく嚴然として大空を摩する大產業本館、正門噴水塔の白龍おどつて赫々たる旭に榮えの盛儀を待つばかり、朝まだきから間斷なく打揚げられる煙火は翠綠よみがへる灰ケ峰にこだまして欣ろこびにひたる人々の心をそゝる。會場は塵一葉も認められぬまでに淸掃され、場內の櫻もちらほら唉いて正門に交錯された燦たる大日章旗をはぢめ、市旗、博覽會旗等五彩を競ひ各館は勿論、全市の軒に翩飜として歡喜のほゝゑみを交し、全市は只博覽會を祝福する明朗な歡喜の一色に塗りつぶされてゐる。

かくて時移り定刻となれば、既に來着してゐた。

①式辭を朗讀する渡邊會長、②告辭を朗讀する鈴木總裁、③祝辭を述ぶる藤田吳鎭守府司令長官、④喜びあふるゝ藤田吳鎭守府司令長官と渡邊會長、⑤來賓の名士、⑥櫻下のもと宴たけなわ、⑦來賓の名士

藤田吳鎭守府司令長官、鈴木廣島縣知事、第五師團長代理三浦參謀長、湯澤兵庫縣知事、深浦門司鐵道局長、上原本派本願寺樞密部長、澤原俊雄氏、水野市會議長等

來賓約二千五百名は、開會式場に宛てられた白堊の大音樂堂に入場、午前十時を期して打揚げられた煙火三發が大空に炸烈すれば、吳海軍から特派された海軍々樂隊の莊重な國歌奏樂に記念すべき大博覽會開會式の幕は切つて落された。

若山市會副議長の開會の辭、月形事務總長の經過報告についで、名譽總裁淺野長勳侯爵の告辭、鈴木總裁告辭、渡邊博覽會々長式辭のいち、後藤內務大臣（鈴木知事代讀）町田商工大臣（山本商工事務官代讀）藤田吳鎭守府司令長官、小磯第五師團長（三浦參謀長代讀）張滿洲國實業部大臣（石阪商工事務官代讀）前總裁湯澤兵庫縣知事、本願寺執行長代理上原樞密部長、深浦門司鐵道局長、加藤縣會議長（柴縣議代讀）橫山廣島市長（岡太助役代讀）山縣廣島商工會議所會頭、水野吳市會議長、三宅協贊會長、出品人總代三宅清兵衛氏等の各祝辭があり、引續き大角海軍大臣、林陸軍大臣、高橋大藏大臣ほか百餘通の祝電が披露され足利吳商工會議所副會頭の閉會の辭を以つてこの歷史的大博覽會の盛儀は一先づ終り、

會場に設けられた祝宴場に移り、渡邊會長の挨拶で祝宴の蓋は開かれ、吳券および吳カフェ組合女給總動員のサービスに一同歡を盡し、宴酣となる頃藤田吳鎭守府司令長官の發聲で、一同「國防と產業大博覽會」を祝福して萬歲を三唱めでたく盛宴を終り歡喜の聲は春崩ゆる九嶺の天地にこだまました。

開會式次第

一、參列者一同著席　午前十時（煙火三發）
一、奏　樂（君が代）　吳海軍々樂隊（一同起立）
一、開會の挨拶　吳市會副議長
一、事務總長經過報告　吳市助役
一、名譽總裁告辭　淺野侯爵
一、總裁告辭　廣島縣知事
一、會長式辭　吳市長
一、大臣祝辭
一、來賓祝辭
一、協贊會長祝辭　吳商工會議所會頭
一、出品人總代祝辭
一、祝電披露
一、閉式の挨拶　吳商工會議所副會頭
一、開　宴　（煙火三發）
一、會場觀覽

會務報告

吳市主催國防ト產業大博覽會ノ開會ニアタリ、コヽニ事務ノ概要ヲ報告スルコトヲ得ルハモツトモ光榮トスルトロロナリ、抑モ本會開催ノ議ヲ決シタルハ昭和八年十二月二十二日ニシテ本會ノ事務開始以來關係者一同夙夜精勵日マタ足ラザルノ感アリシモ幸ヒ軍部オヨビ關係各位ノ熱誠ナル御指導ト出品人諸氏ノ深甚ナル御努力トニヨリ豫定ノ如クコヽニソノ設備ノ大成ヲ見ルヲ得タルハマコトニ欣快ニ堪ヘザルトコロナリ、本會會場ハ市內南北兩地ニコレヲ設ケ第一會場ハ二河公園ニ、第二會場ハ海軍用地ニアリテ兩會場ニオケル敷地總面積五萬餘坪、建物總坪數六千二百四坪ニシテソノ出品ノ區域ハ滿洲、朝鮮、臺灣ナドノ植民地特設館ヲハジメ、一道三府三十八縣オヨビ南洋ヒリツピン、布哇ノ各方面ニワタリ、出品人員一萬三千五百九十一人、出品點數實ニ十五萬七千六百餘點ヲ算スルノ盛況ヲ呈スルニイタレルハ、コレ全ク公私各位ガ深甚ナル御援助ノシカラシムルトコロニシ

開會式

デ、蓋シ本會ヲシテ有終ノ美ヲナサシメンコトマタ期シテ俟ツベキナリ、コヽニ謹ンデ經過ノ概要ヲ報告シ併セテ關係各位ニ深厚ナル謝意ヲ表ス

告辭

事務總長　月形七郎

東洋平和ノ確立ハ帝國不動ノ國是ニシテ滿洲事變以來我カ國ハ國際聯盟ト其所信ヲ異ニシ昭和八年本月本日決然聯盟ノ離脫ヲ敢行セリ此牢記スベキ記念日ヲトシ吳市主催國防ト產業大博覽會ノ開會式ヲ擧行スルニ當リ告辭ヲ陳ブルハ予ノ最モ光榮且欣快トスル所ナリ。惟フニ國家ノ興隆ハ富國ト强兵ニ待タザルベカラズ、今ヤ大吳市ハ重大ナル時局ニ鑑ミ大博覽會ヲ開催シ以テ非常時國民ヲシテ國防充實ノ認識ヲ深メ國產振興ノ奬勵ヲ圖ラントス。寔ニ邦家ノ爲慶賀ニ勝ヘザルナリ。希クハ事ノ局ニ當ル各位ノ周到最善ナル努力ニ信賴シ所期ノ成果ヲ收メ以テ皇晬ノ發揚ト國運ノ隆昌トヲ期シ躍進日本ノ進展ニ貢獻センコトヲ禱ル、一言所懷ヲ述ベテ告辭トナス。

昭和十年三月二十七日

國防と產業大博覽會
名譽總裁
從一位勳一等侯爵　淺野長勳

告辭

國防ト產業大博覽會開會式ニ列シ所懷ノ一端ヲ述ブルハ余ノ最モ欣幸トスル所ナリ

輓近我國ハ軍事ニ各種產業ニ駸々乎タル躍進ヲ遂ゲ將ニ世界ノ脅威タルニ至レリト雖モ一方列强ノ重壓ハ刻々加重シ所謂有史以來ノ國難ニ遭遇ス、克ク之ヲ克服シテ光輝アル三千年ノ歷史ニ一段ノ光彩ヲ添フルハ眞ニ昭和聖代ノ國民ノ責務ニシテ恒ニ國防ノ充實ヲ期シ倍々各種產業ノ興隆發達ニ力ムルノ要切ナルモノアリ吳市ハ夙ニ現下ノ狀勢ニ鑑ミ、本博覽會ヲ催シ我ガ海國日本ノ生命ヲ護ル近代海軍ノ精銳ヲ眼ノアタリニ、擧國產業ノ振興狀況ト近代科學ノ精粹ヲ誇ル軍需工業ノ全貌ヲ蒐メテ一層國防思想ノ普及ヲ圖ルト共ニ產業ノ躍進ニ資センコトス洵ニ其ノ意義ヤ深ク其ノ効果蓋シ大ナルモノアルヲ信ズ

開會式

冀クハ協力克ク有終ノ美ヲ收メンコトヲ、聊カ蕪辭ヲ述ベテ告辭トス

昭和十年三月二十七日

國防と產業大博覽會總裁
廣島縣知事　從四位勳四等　鈴木敬一

式辭

本日茲ニ本市主催國防と產業大博覽會開會式ヲ擧行スルニ當リ閣下並ニ多數貴賓ノ臨場ヲ辱ウセルハ本會ノ最モ光榮トスル所ナリ

顧レバ昭和八年本月本日我ガ帝國ハ東洋ノ平和確立ニ關シ所見ヲ異ニスル列國ノ群議ヲ排シ敢然國際聯盟離脫ヲ宣シテヨリ既ニ二星霜愈ヨ本日ヲ以テ其効力ヲ發生スルニ至ル、然リト雖吾人國民ノ期スル所ハ皇祖ノ大訓ヲ恪遵シテ萬邦協和ノ實ヲ擧ゲ　聖旨ヲ奉ジテ所信ヲ貫徹スルニアリ、須ラク國防ヲ充實シ產業ヲ振興シ以テ自主獨往ノ實力ヲ把握セザルベカラズ本市ハ茲ニ省ミ本博覽會ノ開設ヲ企劃シタルニ海軍省、陸軍省、商工省並ニ吳鎭守府、第五師團其他關係當局ノ絕大ナル後援ヲ辱ウシ吳商工會議所ノ協贊ト相俟チテ萬全ヲ期シ特ニ本派本願寺ノ協贊ヲ得閣下並ニ各位ノ深厚ナル指導ニ浴シ今ヤ設備全ク完成シ茲ニ開場第一日ヲ迎フ洵ニ全市民協力一致ノ結晶タラズンバアラズ

冀クバ以テ光輝アル日本文化ノ全貌ト其ノ精華ヲ識リ此ノ非常國難ノ危局ニ處シテ謬ラズ正義ヲ履ンデ世界ニ雄飛スルノ道ヲ得ンカ軍都吳市ノ面目之ニ過グルモノナシ

茲ニ開會ニ當リ閣下並ニ各位ニ對シ衷心ノ謝意ヲ表シ重ネテ邦家萬代ノ興隆ヲ禱リ以テ式辭ニ代フ

昭和十年三月二十七日

吳市國防と產業大博覽會會長
吳市長　渡邊伍

祝辭

內外事滋ク時局極メテ重大ニシテ國防ノ充實產業ノ振興殊ニ其ノ急ヲ要スルノ時吳市主催國防と產業大博覽會ノ開催ヲ見ル國運伸暢ノ礎石タル此ノ兩方面ニ寄與スル所頗ル大ニシテ其ノ效果ノ及ブ所眞ニ鮮少ナラザルヲ信ズ

茲ニ本日ノ盛儀ニ際シ深ク當事者ノ勞ヲ多トシ其ノ成功ヲ祈ル

昭和十年三月二十七日

內務大臣　後藤文夫

祝辭

本日茲ニ國防ト產業大博覽會ノ開會式ヲ擧行セラルヽニ當リマシテ一言祝辭ヲ申述ブル機會ヲ得マシタコトハ私ノ欣幸トスル所デアリマス

近時我國產業ハ著シキ進展ヲ遂ゲ其製品ハ廣ク世界ニ進出シ就中軍需關係工業ノ躍進ノ特ニ目覺マシイコトハ現下ノ時局ニ際シ最モ心强ク感ズル所デアリマシテ御同慶ニ堪ヘヌ次第デアリマス

吳市ハ西部日本ニ於ケル產業都市ノ一トシテ我產業上、國防上ニ於テ最モ重要ノ位置ヲ占メ今後益々其ノ重要性ヲ加ヘツツアルコトハ今更申ス迄モアリマセヌ、此ノ秋ニ方リ吳市ハ本博覽會ヲ開催シテ洽ク國內產業ノ精華ヲ蒐メテ比較研究ノ機會ヲ與フルト共ニ、嚴ニ公正ナル鑑査ニ依リ生產業者ノ今後向フベキ途ヲ示シ又國防ニ關スル認識ヲ深メル爲各種ノ施設ヲ講ゼラレマシタコトハ洵ニ機宜ニ適シタル擧デアリマシテ我國產業ノ進展ニ寄與スル所多大ナルベキコトハ信ジテ疑ハヌ所デアリマス

關係ノ諸君ニ於カレマシテハ本博覽會開催ノ趣旨ニ鑑ミ協力一致所期目的ノ達成ニ努メラレンコトヲ切望シテ已マザル次第デアリマス

昭和十年三月二十七日

商工大臣　町田忠治

祝辭

本日茲ニ吳市主催國防と產業大博覽會ノ開會式ヲ擧行セラルヽニ際シ之ニ參列スルハ洵ニ欣快ニ堪ヘザル處ナリ

念フニ我帝國ハ滿洲事變勃發以來國防ニ對スル國民ノ認識日ト共ニ旺盛ニシテ有ユル外壓ニ抗シ國運進展ノ途上ニアリ、而シテ

國際聯盟ノ脫退ハ本日ヲ以テ名實共ニ効力ヲ生ジ、吾人ノ發奮ヲ要スルモノ更ニ切ナルモノアリ

斯ノ國家非常時ニ於テ本大博覽會ノ開催ヲ見ルハ意義實ニ深ク眞ニ時機ニ適セルモノニシテ世人ニ與フル感化ノ甚大ナルモノアルヲ確信スル所ナリ

仍チ本博覽會ノ開催ニ依リ我帝國ノ現狀ト將來ニ善處スベキ國民ノ大覺悟ヲ促進覺醒セシメ以テ來ルベキ國難突發ノ原動力トシテ寄與スルトコロ多大ナルモノアルヲ疑ハザルナリ茲ニ本博覽會ノ盛大ト成功ヲ祈ル

聊カ所懷ヲ述ベテ祝辭トス

昭和十年三月二十七日

吳鎭守府司令長官　藤田尙德

祝辭

陽春ノ候ヲ期シテ茲ニ國防ト產業大博覽會ヲ開催セラレ特ニ意義深キ本日之ガ發會式ヲ擧行セラル多艱ナル皇國ノ爲欣快何ゾ堪ヘン

惟フニ富國ト强兵トガ治國經世ノ重大要素タルハ千古不磨ノ鐵則タルト共ニ富國ガ產業ノ發展ニ俟チ國防ノ强化ガ强兵ノ充實ニ依ルベキコト亦否定シ難キ事實タリ

嘗テ未開國日本タリシ皇國ガ泰西科學ノ物質的啓蒙ニ浴シタルコトアリシハ勿論ナリト雖爾來既發物質文化ノ消化ト產業ノ勃興トニ依リテ一大飛躍ヲ遂ゲ殊ニ我獨特ノ皇道精神文化ノ抱攝的驅使ニ依リ其發達ハ逐次人倫的道程ヲ辿リ今ヤ世界指導ノ地位ヲ占メントシ國防ノ强化亦東洋平和確保ノ重鎭タルニ至レルハ蓋シ大和民族ノ矜持タラズンバアラザルナリ

然リト雖飜ツテ世界產業文化ノ動向ヲ見ルニ自由貿易經濟ハ屬領乃至近親國家間ノ「ブロツク」經濟トナリ開放ヨリ秘密ヘノ國家的色彩日ト共ニ濃厚ヲ加ヘ此ノ如クシテ過去半世紀ノ光輝アル皇國ノ發展興隆ハ軈テ孤立無援ノ境地ニ立タントシ而モ皇國日本ノ劃期的躍進ト新興滿洲國ノ驚威的發展トニ伴ヒ皇國ノ前途ニ橫ハレル難關ハ既往ニ比シ、更ラニ其規模ヲ擴大シテ錯雜多岐ニ赴カントス此間ニ處シテ克ク之ヲ克服打開スルト共ニ天業恢弘的大使命ヲ遂成センガ爲ニハ愈々同胞ノ擧國的ニ堅確ナル決意ト鞏固ナル團結トヲ以テ益々國力ノ充實ト國防ノ强化トヲ圖ルヨリ急ナルハナシ

本市茲ニ見ル所アリ廣ク國防ト產業トニ關スル溫故知新ノ資料ヲ蒐メ以テ帝國々防並ニ產業ノ世界的雄飛ノ狀勢ヲ大觀セシムルト共ニ更ラニ產業ノ躍進廣義國防ノ强化ニ資セントセラルヽノ擧アリ、吾人第一線國防ノ任ニ膺ルモノノ抃舞慶祝ニ堪ヘザル所

開會式

ナリ

希クハ本會ガ發會ノ趣旨ニ鑑ミ愈々戮力協心其使命ノ達成ニ邁進セラレ以テ皇國ノ興隆ト世界文化ノ促進トニ寄與セラレンコトヲ、聊カ所懷ヲ述ベテ祝辭トス

昭和十年三月二十七日

祝辭

第五師團長　小磯國昭

國防ト産業大博覽會諸般ノ設備全ク成リ茲ニ本日ヲトシテ開會ノ盛典ヲ擧行セラル洵ニ慶賀ニ勝ヘザルナリ

惟フニ國家ノ隆替ハ其ノ組成者ノ一致團結ノ强弱ト相形影ス而シテ生存ノ要諦ハ國防ノ充實ト産業ノ發展トニ繫ル産業ノ進歩ナクシテ國防ノ完璧ヲ期スベカラズ實ニ富國ト强兵トハ經世ノ千古ニ通ズル眞理ナリ曩ニ我ガ滿洲帝國ハ天意ニ則リ王道國家ヲ樹立スルヤ善隣貴國ノ仗義ニヨリ國礎愈强固トナリ建國茲ニ三年諸般ノ施設漸ク其ノ緒ニ就カントスト雖慶範ヲ先進國家ニ求メ以テ産業開發ノ助長民衆知能ノ啓發ヲ圖リ王道樂土建設促進ニ資セントス

此秋ニ當リ本博覽會ノ開設ヲ見タルハ我國産業ノ開發ニ資スル所多大ナルベキヲ信ジ帝國政府ノ欣然參加シタル所以ナリ

今其ノ規模ヲ見ルニ建築壯大ニシテ國防、産業其ノ他百般ノ近代文化ノ粹ハ此一堂ニ蒐リ彼此比較研鑽シ以テ國防ノ充實産業ノ改善ニ裨益スル所量リ知ル可カラズ

冀クハ本會當路各位益々精勵克ク所期ノ効果ヲ收メラレ以テ貴市ノ隆盛ト東亞ノ繁榮和平ニ寄與セラレンコトヲ一言陳ベテ祝辭トス

康德二年三月二十七日

祝辭

滿洲帝國實業部大臣　張燕卿

曩ニ本市主催ノ國防ト産業大博覽會ノ計畫一タビ世ニ公ニセラルルヤソノ時機ノ宜シキト場所好適ナルノ故ヲ以テ夙ニ滿天下ノ關心ヲ集メタリシガ爾來諸般ノ準備全ク整ヒ本日ヲ以テ茲ニ開會式ヲ擧行セラルルニ至リシハ誠ニ慶賀ニ堪ヘザル處ナリ

惟フニ本市ハ人口二十五萬ヲ超ヘ地方ニ於ケル一大都市タルノミナラズソノ國家ニ對スル關係ハ特ニ密接ニシテ本市發展ノ徑路

ハ一面日本國家躍進ノ歩調ト多大ノ關聯ヲ有スト云フモ敢テ過言ニ非ラズト信ズ而シテ軍都吳ノ名ハ獨リ日本一國ニ止ラズ東洋平和ノ確保國際正義確立ノ一要衝トシテ廣ク世ニ知ラレソノ存在ハ普ク全世界ニ喧傳セラルヽ所ナリ

加之今ヤ一九三五、六年ノ國際危機ヲ控ヘ非常時國防ノ充實愈急ヲ告グルノ時軍都吳市ノ荷負スル任務タルヤ實ニ重且ツ大ナリト云ハザルベカラズ

宜ナル哉市當局ニ於テ思ヒヲ此點ニ致シ一ハ以テ國民全般ノ國防精神ヲ振作シ一ハ以テ日本産業ノ發展ニ資セントシテ茲ニ國防ト産業大博覽會ノ開催ヲ見ルニ至レリ而シテ此事業タルヤ啻ニ經濟的物質的一面ニ止ムベキニ非ザルヲ認メ精神的國防ノ重大性ニ鑑ミ國民精神作興ノ一助トシテ我本願寺ニ對シ歷代傳法ノ法寶物並ニ勤王事跡ノ資料等ノ出陳ヲ懇願セラル乃チ豫テ眞俗二諦ノ宗義ニ基キ王法爲本ノ精神ヲ强調セル本刹トシテ率先此擧ニ賛同シ寺寶ヲ出陳シ以テ世道人心ノ敎導ト國家奉公ノ一端ニ供スルコトトセリ

幸ニ大方諸氏ノ參觀ニ際シ國民精神ノ涵養ト國防意識ノ充實ニ貢獻スル所アラバ本刹ノ最モ喜ビトスル所ナリ

願クハ當博覽會ノ實績大ニ揚リ躍進日本ノ一大拍車タルノ實ヲ全フセンコトヲ開會ニ臨ミ一言所懷ヲ述ベテ祝辭トス

昭和十年三月二十七日

祝辭

本派本願寺執行長　前田德水

吳市主催國防ト産業大博覽會開會ノ式典ニ列シ一言祝意ヲ表スルヲ得ルハ余ノ光榮且欣快トスル所ナリ

今ヤ我國内外ノ情勢ハ産業ノ確立國防ノ充實ヲ以テ最大ノ急務トス、茲ニ當市主催ノ下ニ國防ト産業ノ大博覽會ヲ開催シ一ハ以テ軍事知識ヲ弘メテ國防思想ノ充實ニ資シ一ハ産業界ヲ大觀シテ其進展ヲ圖ラントスルハ誠ニ現下ノ時勢ニ即シタル企圖ナリト言フベシ

抑モ當市ハ夙ニ軍港地トシテ發展シ近郊更ラニ空軍ノ精鋭ヲ鍾メテ國防ノ意氣漲リ鐵道港灣道路ノ三交通路期ヲ一ニシテ近ク完成セントシ産業振興ノ氣運勃興セントスルアリ本博覽會ノ開催地トシテ亦處ヲ得タリト言フベク啻ニ邦家興隆ノ爲ノミナラズ當市ノ爲洵ニ慶賀ニ堪ヘザルナリ

茲ニ謹ンデ關係諸賢ニ滿腔ノ敬意ト謝意ヲ表スルト共ニ今後一段ノ精勵以テ有終ノ美ヲ收メラレムコトヲ希フ

聊カ蕪辭ヲ述ベテ祝辭トス

昭和十年三月二十七日

祝辭

門司鐵道局長　深浦龍雄

本日ヲ以テ吳市主催國防ト產業大博覽會開會式ニ列シ一言ヲ祝スルハ欣快トスル所ナリ

今ヤ非常時ニ遭遇シ國際關係ハ事端多岐ニ亙レリ若シソレ一朝緩急アラバ國民ハ皆起チテ攻防ノ地位ニ就クノ覺悟ナカラザル可カラズ此機ニ際リ國防ニ關スル諸兵器ヲ陳列シテ一般ニ觀覽セシメ其形狀名稱等ノ大概ヲ知悉セシムルハ有意義ナルヲ感ズ即之ヲ一見シ其效果ヲ理解シ或ハ以テ既往ノ戰蹟ヲ追憶シ或ハ之ヲ以テ將來ノ超效ヲ豫想シテ護國ノ精神ヲ涵養シ以テ愷慨奮勵ノ士氣ヲ作興セバ其國家ニ貢獻資益スル隱然タル效果ヤ固ヨリ多シ又產業ニ於テハ彼此博覽改善ニ資シ以テ增收多益ヲ圖ル可ク而シテ戰時ニハ彼ノ所謂經濟封鎖ニ對シテ自給自足ノ實ヲ全フシテ國力充實ヲ誇リ平時ニハ其餘力ヲ移出シ商事戰ニ威勢ヲ示シ得ベク斯クテ邦家ノ前途ハ永ク鞏固ヲ加ヘテ世界ノ平和ヲ助長スルニ與リテ力アラン然ラバ則チ當博覽會效果ノ影響スル所偉大ナリト謂フ可ク洵ニ慶賀ニ堪ヘタリ

庶幾クハ能ク濟美ノ結果ヲ擧ゲラレムコトヲ望ム慶祝ノ意ト希望トヲ併セ述ベテ祝詞トス

昭和十年三月二十七日

廣島縣會議長　加藤俊夫

祝辭

茲ニ本日ヲトシ吳市主催國防ト產業大博覽會開會ノ式典ヲ擧行セラルヽニ當リ一言祝辭ヲ述ブルハ余ノ最モ光榮トシ且欣快トスル所ナリ

抑々本日ハ曩ニ我帝國ガ滿洲問題ニ關シ國際聯盟ト其ノ所見ヲ異ニシ聯盟脫退ノ通告ヲ敢行シテヨリ滿二ケ年ヲ經過シ、脫退通告ガ其ノ効力ヲ發生スルニ至レル當日ニシテ茲ニ完全ニ聯盟ノ羈絆ヲ離脫シ自主獨往ノ一路ニ雄々シキ其ノ第一步ヲ印スベキ國家未曾有ノ歷史的記念日ナリ、此日我帝國々防上ノ要地タル吳市ニ於テ國防ト產業大博覽會開催ノ盛典ヲ擧ゲラルルハ邦家ノ爲其ノ意義特ニ深甚ナルモノアリト謂フベシ

惟フニ富國强兵ハ相關聯セル國運發展ノ二大根幹タリ即チ國富ナクシテ强兵ナク强兵ナクシテ國富ナシ、而シテ輓近ノ國際情勢ヲ通觀スルニ所謂一九三五、六年ノ危局ニ直面シ國際關係ハ彌々多面多岐ニ亙リ而モ日ト共ニ深刻ヲ加ヘツツアリ、擧國一致國防ノ充實ヲ期シ國富ノ增進ヲ圖リ一路我皇國ノ使命ニ邁進シ以テ躍進日本ノ前途ニ備ヘザルベカラズ

此秋ニ方リ吳市主催ノ下ニ國防ト產業ニ關スル大博覽會ノ開催ヲ見タルハ國民ノ國際情勢ニ對スル自覺認識ヲ一層深カラシメ國防ノ充實整備ト產業貿易ノ興隆振起ニ寄與スルコト甚大ナルベク寔ニ機宜ニ適セル好施設トシテ慶祝措ク能ハザルト同時ニ深ク敬意ヲ表スル所ナリ

殊ニ吳市ハ我廣島市善隣ノ友都姉妹ノ都市ニシテ一ハ海軍一ハ陸軍ヲ以テシテ各々本邦有數ノ要都タルト共ニ軍事經濟其他百般ノ文化何レモ緊密ニ相連繫セラレザルナク、其消長盛衰ハ一ニシテ二ナラズ茲ニ於テカ今次ノ博覽會ノ規模宏壯ニシテ內容亦大ニ充實セルヲ見特ニ衷心歡喜祝福スルト共ニ只管其ノ成功ヲ祈リテ已マザル所以ナリ

冀クハ關係各位向後ノ施設經營ニ萬全ヲ期セラレ大ニ有終ノ美果ヲ收メ以テ吳市勢ノ發展ニ資セラルルト同時ニ邦家ノ隆運ニ貢獻セラレンコトヲ聊カ蕪辭ヲ述ベテ祝辭トス

昭和十年三月二十七日

廣島市長　横山金太郎

祝辭

茲ニ吳市主催國防と產業大博覽會ノ開會式ヲ擧行セラルヽニ當リマシテ、一言祝辭ヲ述ブルコトヲ得ルハ、私ノ最モ光榮トスル所デアリマス

惟フニ現下ノ國防ハ獨リ軍容ノ整備ニ止マラズ、國家總動員ノ機構ノ下ニ、全機能ヲ傾倒スルニ非ザレバ、到底ソノ目的ヲ達成シ得ザルコトハ繰說ヲ俟タヌ所デアリマス

顧ミレバ、吳市ハ明治二十三年四月吳鎭守府開廳以來日清、日露及日獨ノ三戰役ヲ始メ、今回ノ滿洲及上海事變ヲ經テ愈ヨ軍港都市ノ面目ヲ新ニシ加フルニ市當局ト商工會議所ノ施設宜シキヲ得テ產業都市ノ進出亦著シク、今ヤ軍港創設當時ノ人口一萬五千餘ヨリ一躍二十二萬四千有餘ノ大人口ヲ抱擁スル我國第九位ノ大都市トシテ本邦都市發展史上比類稀ナル超躍進ヲ遂ゲ我國勢ノ進展ニ與テ最モ力アルモノデアリマス

然ルニ今回更ニ三吳線竣工ノ曉ニ便ヘ更始一新ヲ期スルト共ニ一九三五、六年ノ國際的危局ニ直面シ軍民一致、日滿經濟ブロックノ强化ト重工業ヲ始メ、我ガ重要產業ノ發達ヲ促進シ、益々國防ノ充實ニ資スル所アラントシ、本博覽會ヲ開催セラレタルハ

洵ニ刻下我國策ニ順應セル適切ナル施設トシテ慶祝至極ニ存ズル次第デアリマス

即一昨年來吳市當局ガ本博覽會ヲ企劃セラルヽヤ軍部ノ深甚ナル諒解援助ト新興ノ滿洲國ヲ始メ植民地及各府縣ノ熱誠ナル贊同ヲ得テ廣ク兵器及產業ノ精髓ヲ網羅シ、其ノ進步發展ト國勢進展ノ實績ヲ展示シ、兵備ト改善ト經濟文化ノ向上ニ資セラルヽハ最モ機宜ニ適應セル盛擧デアリマス

之ニ依リ我ガ國民ヲシテ、時ノ平戰ヲ問ハズ、擧國一致、君國ニ奉ズルノ美風ヲ涵養セシメ益々國防ノ充實ト產業ノ振興ニ寄與スルヲ得ベク帝ニ本大博覽會開催ノ趣旨ニ副フノミナラズ又以テ富國强兵ノ實ヲ擧ゲ東洋平和ノ確立ヲ期スル所以トモナルノデアリマシテ其ノ意義洵ニ深キモノアルヲ覺ヘ友市ノ商工業者ヲ代表シテ衷心ヨリ成功ヲ祈ツテ已マザル次第デアリマス

冀クハ博覽會關係者諸子、宜シク協力精進以テ有終ノ美果ヲ收メ我國民ノ嚮フ所ヲ知ラシメ、國運ノ進展ニ貢獻セラレンコトヲ一言所懷ヲ述ベテ祝辭ト致シマス

昭和十年三月二十七日

廣島商工會議所會頭　山縣元兵衞

祝辭

茲ニ國際聯盟離脫効力發生ノ日ヲトシ苦心經營ノ結晶タル國防と產業大博覽會ノ開會ヲ見タルハ其ノ意義洵ニ深キモノアリ

惟フニ强兵ト富國トハ脣齒輔車ノ關係ニ在リテ國防ノ充實ヲ圖リ國家ノ殷富ヲ致スニアラズンバ焉ソ國運ノ興隆、國威ノ伸張ヲ期スベケンヤ幸ニ皇國維新以來奎運之レ興リ國光歲ト共ニ愈赫躍タリト雖今ヤ國際關係ノ前途ハ未曾有ノ難局ニ際會セリ

此ノ秋ニ方リ本市ノ蹶然起テ本博覽會ヲ我軍都ニ開催ノ計畫ヲ爲スヤ特ニ海陸軍商工省始メ各官廳並ニ本派本願寺等進ンデ絕大ナル後援援助ヲ忝フセラルル之レ蓋シ其ノ趣旨其ノ時宜共ニ適應セルニ因ルベク本市ノ光榮又何物カ之ニ如カン正ニ國家的一大壯擧タリト謂フベク亦以テ國運興隆ニ資スル所甚大ナルモノアルベキヲ信ズ

里諺ニ曰ク百里ニ行クモノハ九十九里ニ半スト冀クハ關係各位和衷協同以テ邦家ノ爲最大ノ成果ヲ收ムルニ努メラレンコトヲ不肖此ノ盛典ニ陪スルノ榮ヲ荷ヒ一言蕪辭ヲ叙シ敢テ祝辭トス

昭和十年三月二十七日

吳市會議長　水野甚次郎

閣下並貴賓ノ御來臨ヲ辱フシテ吳市主催國防と產業大博覽會開會式ヲ擧行セラルヽハ洵ニ慶賀ニ堪ヘザル次第デアリマス

惟フニ本博覽會ノ目的トセラルヽ所ハ複雜且廣汎デアリマシテ其ノ意義モ亦極メテ深遠デアリマス

大日本帝國々民ヲシテ世界ノ大勢ヲ知悉セシメ、軍備ト國防ノ充實ヲ期セシムルニハ協同團結ノ精神ヲ喚起シ延テ產業ノ振興ヲ企圖セシメントスルニアリト信ズルノデアリマス

目下世界列國ノ對日態度ヲ一言ニスルナラバ平和ノ假面ヲ裝フ恫喝態度デアリマシテ所謂不戰之ヲ屈セシメントスルモノノ態度ニ出テイルノデアリマス

ヒルガヘツテ世界ノ經濟方面ヲ見ルニ、米國ハ獲得シタル滿洲ノ利權ヲ放棄スルコトヲ要求シ他方ニ於テハモンロー主義ノ下ニ我ガ移民ヲ排斥シ閉鎖セントシテイマス支那ハ漸ク帝國ノ眞情ヲ覺ルモ未ダ外力ヲ援用シテ吾ガ利權ヲ無視スルコトヲ止メチイノデアリマス

ソビエット聯邦ハ我ガ得タル沿海洲樺太及カムチヤツカニ於ケル特種權益ニ對シテモ惡辣ナル手段ヲ以テ之ヲ剝奪セント試ミツアリマス

英國及和蘭ハ吾ガ製品ヲ拒絕シ濠州、ボルネオノ英領ニハ一切日本人ヲ排斥シ門戶ヲ閉鎖シツヽアリマス

而シテ日印協商ニ於ケル英國ノ態度ト云ヒ蘭印會商ニ於ケル和蘭ノ政策ト言ヒ最早單ニ商業上ノ競爭ニ非ズシテ國際儀禮ノ常道ヲ踏ミ越ヘタル政治的對抗トナツテイマス

維時ニ當リ吾等帝國々內ニ向テ要求スルノ根據ヲナスモノハ實ニ國防ト軍備ノ充實ニアルノデアリマス

帝國ノ國是ハ世界ニ皇道ヲ敷キ平和ヲ招來シテ人類ノ福祉ヲ增進セシメントスルハ吾ガ建國以來ノ精神ナレドモ常ニ國家實力ノ滿ヲ持シテ外力ノ壓迫ニ備ヘザルトキハ、國家ハ遂ニ衰退スルニ至ルハ當然デアリマス、國家ノ存立ガ絕對ナルガ如ク、國防モ軍備モ絕對デアリマス

軍備ノ確立ト國防ノ安全ヲ充タスハ平和ノ鍵デアリマス

コレヲ補ケルニ國力ノ充實、國富ノ增進ヲ圖ルタメ產業開發進展ヲ期セズシテ國家ノ躍進ハ成シトゲラレルモノデハアリマセン

茲ニ吳市ハ見ルトコロアリテ二五六九年ノ國家非常時ヲ目前ニシテ國防意識ノ鼓吹人心ノ作興ニ資スルト共ニ產業振興輸入防止輸出奬勵ノ見地ヨリ全國各地ノ生產品ヲ蒐集シ出品ノ優劣ヲ批判シ以テ國民一般ノ注意ヲ喚起スルタメニ吳軍港ノ地ニ於テ國防と產業大博覽會ヲ計畫シテ設備既ニ成リ、コヽニ本日ヲトシテ盛ンナル開會式ヲ擧ゲラルヽハ洵ニ時宜ニ適シタルコトニシテ衷

開會式

心喜ビニ堪ヘザルトコロデアリマス

加之本會ハ近時開催ノ博覽會中計畫最モ嶄新規模最モ宏大、而モ岡山溪谷、或ハ河川ヲ擁シ、コレヲ繞ルニ各館何レモ新奇ノ設備及陳列方法ニヨリ觀覽者ヲシテ須臾モ倦怠ヲ覺ヘシメズ一見軍事鐵道教育產業ニ關スル智識ヲ習得セシメ所期ノ目的達成ニ充分ナルモノガアリマス

吾ガ協贊會ガ本會ノ趣旨ヲ體シテ聊カ之レガ翼贊シタトコロ、コノ擧ニ贊意ヲ表セラレ進ンデ會員トナラレシモノ軍需關係工場會社有志全國ニ及ビ多額ノ御出賓賜ハツタノデアリマス

海陸軍其他ヨリ特ニ多大ノ好意同情ヲ寄セラレ協贊會事業ヲ有益成功ニ導クタメ、種々ナル援助ヲ與ヘラレタノデアリマス

茲ニ開會ノ盛儀ニ際シマシテ滿腔ノ謝意ヲ表シマシテ尙一層協贊ノ實ヲ擧ゲンコトヲ誓フモノデアリマス

惟是觀彼本博覽會ハ實ニ官民一致ノ經營ニナレル眞ニ國家的大事業ニシテ主催者タル吳市ハ其代表者タルニスギザルモノデアリマス

希クバ關係者當事者諸氏ハ協力一致固キ精神ト獻身奉公ノ努力ニヨリ本博覽會ノ成功ヲ期セラレンコトヲ一言述ベテ祝辭トナスモノデアリマス

昭和十年三月二十七日

國防と產業大博覽會協贊會長

吳商工會議所會頭　三宅清一郎

祝辭

本日茲ニ邦家ノ非常時局ニ際シ國際聯盟離脫ノ日ヲトシ軍部其他各方面ノ後援ノ下ニ吳市ニ於テ國防ト產業大博覽會ヲ擧行セラルヽ、蓋シ大イニ意義アリト謂フベク出品人一同此盛典ニ參列シ得タルハ最モ光榮トスル所ナリ

惟フニ國防ト產業ハ國運進展ノ二元ニシテ列國ハ競フテ全力ヲ擧ゲテ之ガ充實振興ニ竭クシツヽアリ、此秋ニ方リ我帝國ハ聯盟ト袂ヲ別チタリト雖、國防ノ萬全ヲ期シテ社稷ヲ護リ產業ヲ興シテ商業ノ確立ニ邁進スルハ我國民ノ齊シク堅持セルトコロタリ本博覽會ハ其規模壯麗ニシテ內容淵然他ニ比類ナキヲ見、出品人一同ノ啓發セラルヽ處測リ識ルベカラズ、洵ニ邦家ノ爲同慶ノ至ニ堪ヘザルナリ

國防と產業大博覽會協贊會長

吳商工會議所會頭　三宅清一郎

祝電

國防と產業大博覽會ノ開催ヲ祝ス

海軍大臣　大角岑生

茲ニ吳市主催ノ國防と產業大博覽會ノ開會式ニ當リ遙カニ祝意ヲ表シ併セテ克ク本會ノ目的ヲ達成シ御成功アランコトヲ祈ル

陸軍大臣　林銑十郎

國防と產業大博覽會開會式擧行ニ當リ遙カニ祝意ヲ表シ併セテ所期ノ目的ヲ達成セラレンコトヲ祈ル

大藏大臣　高橋是清

國防と產業大博覽會開會式擧行ニ當リ遙カニ祝意ヲ表シ併セテ所期ノ目的ヲ達成セラレンコトヲ望ム

農林大臣　町田忠治

貴博覽會ノ準備成リコヽニ開會式ヲ擧行セラル洵ニ欣幸ニ堪ヘズ切ニ御成功ヲ祈ル

朝鮮總督　宇垣一成

終ニ臨ミ關係當局ニ對シ最大ノ敬意ヲ表スルト共ニ吾人出品人モ亦將來斯業ノ進展ニ力ヲ致シ、本博覽會開催ノ本旨ヲ沒却セザランコトヲ期ス

出品人一同ヲ代表シ一言謝意ヲ述ベテ以テ祝辭ニ代フ

昭和十年三月二十七日

國防ト產業大博覽會

出品人總代　三宅清兵衞

開會式

開會式

臺灣總督府總務長官　遙カニ開會ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル
樺太廳　開會ヲ祝シ隆盛ヲ祈ル
北海道廳長官　御盛會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
東京府知事　開會ノ盛典ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル
群馬縣知事　御盛會ヲ祝ス
石川縣知事　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
富山縣知事　御盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
奈良縣知事　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
和歌山縣知事　御盛典ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル
山口縣知事　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
香川縣知事　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
愛媛縣知事　御盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
福岡縣知事　御盛會ヲ祝シ併セテ有終ノ美ヲ收メラレンコトヲ祈ル
長崎縣知事　開會ヲ祝シ御盛會ヲ祈ル
熊本縣知事　開會ヲ祝ス
鹿兒島縣知事　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
京城府尹　御盛典ヲ祝シ併セテ御盛會ヲ祈ル
東京市長　遙カニ開會ノ盛典ヲ祝ス
牛塚虎太郎　貴市博覽會開會式ヲ祝ス
宇都宮市會議長　御盛典ヲ祝ス
水戸市長　國防と產業大博覽會ノ御盛會ヲ祝ス
川口市長　御盛會ヲ祝ス
足利市長　開會式ニ當リ謹ミテ御成功ヲ祈ル
松本市長　謹ミテ大博覽會御開館ヲ祝ス
長岡市長

開會式

新潟市長　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
橫濱市長　御盛大ナル開會ヲ祝ス
鈴木與平　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
名古屋市長　謹ミテ御盛會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
富山市長　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
福井市長代理助役　國防と產業大博覽會ノ開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
石野庄次郎　國防と產業大博覽會ノ開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
松江市長　開會ヲ祝シ併而御成功ヲ祈ル
京都市長　開會ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル
奈良市長　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
和歌山市長　御開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
堺市長　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
河盛安之助　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
神戸市長　開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル
大阪市長　國防ヲ充タシ產業ヲ起サントスル最モ時局ニ適スル貴博覽會ノ開會ヲ祝シ大ニ成功ヲ祈ル
下關市長　松井信助　國防と產業博覽會開催ニ當リ滿腔ノ祝意ヲ表ス
萩市長　御盛會ヲ祝シ益々御隆盛ヲ祈ル
德島市長　貴會ノ御成功ヲ祈リ併セテ本日ノ盛典ヲ祝ス
高松市長　御盛會ヲ祝ス
別府市長　御開會ヲ祝シ併セテ御盛況ヲ祈ル
朝吹大分市長　產業大博覽會ノ開會ヲ祝ス
中津市長　國防と產業大博覽會ノ盛典ヲ祝ス
門司市長　御盛典ヲ祝シ今回ノ御成功ト此後貴市ノ御發展ヲ祈ル
八幡市長　御開會ヲ祝ス
戸畑市長　開會ノ盛典ヲ祝ス
大牟田市長　御盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

開會式

福岡市長　久世恒雄
開會ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル

林田福岡縣會議長
御盛典ヲ祝ス

久留米市長
貴博覽會ノ開會ヲ祝シ御盛會ヲ祈ル

唐津市長
盛大ナル開會ニ當リ貴市ノ發展ヲ祝福ス

佐世保市長
御盛典ヲ祝シ併セテ貴會ノ御成功ヲ祈ル

長崎市長
貴會ノ開會式ニ當リ謹ミテ祝意ヲ表ス

大石長崎市會議長
開會ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル

熊本市長
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

宮崎市長職務管掌
宮崎縣書記官　眞野長俊
國防と產業博覽會ノ意義アル本日ノ開會ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル

鹿兒島市長　岩本禧
盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

那覇市長
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

小樽市長　板谷宮吉
開會式ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

札幌市長
御盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

帶廣市長
御盛會ヲ祝ス

釧路市長　茅野滿明
遙カニ開會ノ御盛典ヲ祝シ光輝アル御成功ヲ祈ル

大連市長
開會式ニ當リ祝意ヲ表シ御成功ヲ祈ル

東京商工會議所會頭　鄕誠之助
貴博覽會開會式ノ盛典ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル

水戸商工會議所
國防と產業大博覽會ノ開會ヲ祝ス

藤林源右衞門
貴博覽會ノ開會ヲ祝ス

秋田商工會議所會頭
開會ノ盛典ヲ祝ス

岡本康太郎
開會式ノ盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

鳥取商工會議所
本日ノ御盛典ヲ祝ス

室蘭商工會議所會頭
開會式ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

山梨縣商工協會
國防と產業大博覽會ノ御盛典ヲ祝ス

玉井會頭
國防と產業博ノ開會ヲ祝ス

長岡市商工會議所會頭
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

新潟商工會議所
御盛會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

富山商工會議所會頭
御盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

靜岡商工會議所
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

濱松商工會議所
本日ノ御盛擧ヲ祝ス

岐阜商工會議所
御盛典ヲ祝ス

明石商工會議所
國防と產業大博覽會ノ開會ヲ祝ス

姬路商工會議所會頭
御開會ヲ祝ス

高橋欽哉
御盛大ナル開會式ヲ祝ス

別府商工會議所會頭
御盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

飯塚商工會議所會頭
開會ヲ祝ス

開會式

直方商工會議會頭
御盛會ヲ祝ス

岡田音次郎
謹ミテ盛大ナル開會式ヲ祝ス

博多商工會議所會頭
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

長崎商工會議所會頭
御盛會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

宮崎商工會議所
開會ノ御盛典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

鹿兒島商工會議所
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル

村上直助
博覽會開會式ノ御盛典ヲ祝ス

鎭南浦商工會議所
國防と產業博覽會ノ開會ヲ祝ス

瀨ノ口藤太郎
貴市主催產業大博覽會ノ開會式ニ當リ遙カニ祝意ヲ表ス

高田大連商工會議所會頭
博覽會ノ開會ニ際シ多大ノ裨益ト隆昌ヲ祈リ遙ニ祝意ヲ表ス

中瀨殖產局長
貴博覽會開會式ノ御盛典ヲ祝ス

青森忠雄
國防と產業大博覽會開催ノ御盛典ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル

開會式

國防と産業大博覽會ノ盛典ヲ祝ス	廣島高等工業學校長
國防と産業大博覽會ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル	門司鐵道局　旅客課長
國防と産業大博覽會ノ開會ヲ祝シ併セテ其成功ヲ祈ル	龍井稅關長圖們稅關長　松原梅太郎
開會ノ式典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル	臺灣博覽會々長
貴博覽會ノ開會ヲ祝シ併セテ御成功ヲ祈ル	東京出品協會理事長　山本留治
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル	兵庫縣實業協會長
御成典ヲ祝シ御成功ヲ祈ル	愛媛縣出品協會長
博覽會開會ヲ祝ス御成功ヲ祈ル	臺灣廣島物産協會　有田會長
御盛會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル	京城廣島物産協會
大博覽會ノ御開催ヲ祝シ併セテ本大會ノ開設ニヨリ國防ト産業ノ合理化ニ貢獻セラレルコト甚大ナリト信ズ大會ノ御成功ヲ祈ル	鑛南浦粉穀物協會
國防と産業博覽會ノ發會式ヲ祝シ御盛會ヲ期ス	大阪朝日新聞社　上野社長
謹ンデ開會ヲ祝シ國家非常時ノ折柄完全ニ目的ヲ達センコトヲ祈ル	大阪毎日新聞社
遙カニ貴博覽會ノ開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル	滿鐵總裁　伯爵　林　博太郎
博覽會ノ開會ヲ祝ス	大阪商船株式會社社長　村田省藏
遙カニ御盛會ヲ祝ス	京城廣島縣人會
開會ヲ祝シ御成功ヲ祈ル	新京　熊平源藏
博覽會ノ御盛大ナル發會式ヲ祝ス	縣會議員　中川出來太郎
御盛會ヲ祈ル	合名會社宇都宮製作所
謹テ博覽會開會ノ式典ヲ祝ス	大阪商船株式會社別府支店

來賓の觀覽

盛宴の終了と共に、渡邊會長、月形事務總長、峯松出品部長外各部長先導で、總裁、來賓は産業本館から順次各館を視察、第二會場に赴いたが、本會に於ては總裁、來賓の視察あるまでは各館を開館せず、是等諸賢の來館と同時に各館主任者は館の内扉を開き、それ〳〵必要に應じて説明をした、なほ開會式當日は來賓のため演藝館、リンゲンス大演技場、教育館、海女館を午前中開放隨意參觀の便に供した。

めでたく盛典を終る

この記念すべき開會式を迎へるにあたり本會では特に渡邊會長、月形事務總長以下係員總動員のもとに各係の分擔を定め萬遺憾なく、この盛典を迎ふるべく既に開會式前二十六日午後四時までに萬端の諸準備を整へてこの晴の儀式を迎へ、めでたく大任を終へたのであつた。

國防と産業大博覽會開會式事務分擔表

係別	擔任事項	係員	
庶務係	一、豫算に關する事項	理事	富島(潤)理事
	二、來賓名簿調製（式次及徽章受付係に交付共）に關する事項	理事	中塩理事
	三、來賓招待に關する事項	理事	宮崎理事
	四、其の他各係に屬せざる事項	理事	阪田理事
		理事	淺海理事
儀式係	一、儀式に關する事項	理事	沖田理事
		理事	畦地理事
		理事	平野理事
		理事	石原理事
		理事	松岡(松)理事
		理事	丸中理事
		理事	村本理事
		理事	宮原理事
		理事	鴨尾理事
		主事	山田主事（兼）角谷主事
		主事	小林主事（兼）重國書記
		書記	野村囑託　新谷書記
		技手	兒玉技手　小畠技手
		書記	陳崎書記　上田書記
		書記	堀谷書記　坂上雇
		雇	山本雇　中邨囑託
		雇	小山雇
		主事	小田主事　桂書記
		事務官	出本書記長　石井視學
		屋敷書記	吉田書記

		栗山理事 山縣理事	杉本書記 江崎技手
		西阪理事 二宮理事	植木書記 山口書記
		福田理事	尾崎書記 下囑託
設備係	一、式場等の設備並に跡片付に關する事項	宮尾理事 山崎(幾)理事	大谷技師 森元書記
		毎本理事 室津理事	今田書記 松田技手
		岡野理事 土谷理事	渡邊囑託 日比技手
		海田理事 西田理事	野間技手 水野技手
		金本理事 山口理事	片山技手 田邊技手
			入江技手 實近書記
受付係	一、來賓受付及式場案内に關する事項	都築理事 宇根理事	峯松館長 大窪主事
		林(助)理事 龜井理事	水野主事 守武主事
		山崎(初)理事 篤理事	田中書記 山本主事
		勝理事 岡崎理事	松井書記 藤谷書記
		佐々木(高)理事 三藤理事	伊藤技手 角井書記
		大澤理事 出野理事	服部書記 西尾書記
		勝田理事 藤井理事	下岡技師 岡田書記
		天宮理事 永井(定)理事	内田書記 中井書記
		石井理事 吉川理事	松井書記 寺尾技手
		柴村理事 藤田理事	青山書記 飯澤技手
			昆技手 國重囑託
			下江雇

接待係	一、來賓接待に關する事項	灘田理事 加賀本理事	角谷主事 小林主事
		久保田(類)理事 富島(福)理事	井上所長 新谷書記
		原理事 原山理事	中塩書記 松本書記
		野上理事 加藤理事	平田書記 村田書記
		大谷理事 井上理事	大橋書記 音森書記
		大村理事 中村理事	芳野書記 倉本書記
			土屋書記 河野書記
饗餐係	一、酒肴の注文及配付に關する事項	池田理事 松尾理事	谷本主事 藤澤技師
		森尾理事 佐々木(鹿)理事	田中(榮)書記 近藤書記
		杉岡理事 瀬尾理事	齋藤書記 小田書記
		碓井理事 岡部理事	仲谷書記 細川書記
		野田理事 德田理事	杉本書記 小田技手
		岩越理事 松本理事	齋藤(綠)書記 金子書記
		佐々木(オ)理事	阪田書記
警備係	一、警備に關する事項	八木理事 空尾理事	平山主事 森岡書記
		島本理事 松岡(靜)理事	曾我書記 保岡書記
		三宅理事 藤村理事	森田書記 原書記
		小松理事 小林理事	
		小川理事 澤田理事	
		伊賀理事	

救護係	一、救護に關する事項	作田理事　長原理事 堀岡理事　岡本理事 平本理事　林（順）理事 二神理事　柄脇理事 松永理事　永井（喜）理事 梅本理事
		松・浦院長　石川書記 原書記　德田監督長
會計係	一、物品購買に關する事項 二、決算に關する事項	中本理事　石中理事 久保田（仁）理事　船木理事 大下理事　林（利）理事 藤本理事　林（房）理事 西野理事　本田理事 吉中理事　堀部理事
		池田收入役　堂城書記 豐島書記　松井雇 大井書記

備考　昭和十年三月二十七日午前十時晴雨に不拘二河公園第一會場に於て擧行に付係員は特に命ぜられたるものの外當日午前九時迄に式場に參集のこと

愈よ待望の開場

近代的文化の縮圖、劃期的覇業の一大殿堂であり、日本精神昂揚の一大繪卷たる本會に對する一般の關心は開會式早朝から表はれ、會場前は人の黒山を築き、吳署員總出で交通整理に當るといふ、物凄いまでの盛況を見せたが、第一會場は開會式典の都合もあるので午後一時までは一般入場を許さなかつたが、第二會場は定刻の午前八時を期して開場、一般の入場を許した。

出品

出品申込と受付

會長自ら陣頭に起つての出品勸誘は、各方面に頗る好感を持たれ、出品契約は豫想外な好調を示し、本會の豫測を完全に裏書された感があつたが、出品の申込受付は昭和九年十二月二十日を期限として、本會出品規定にもとづき、一定様式の書類で整理したが、申込成績は頗るよく、期限までの未決定は僅かに數團體に過ぎなかつたが、これまた日ならず電報等により申込があり、出品部の幸先は殊に喜ばれたが殊に軍需工業館の如きは本市が吳海軍の所在地である關係から、各方面に頗る好評を博し數次の出品勸誘で忽ち出品競爭といふ奇現象をさへ示すに至り、本會としても豫定小間數にては到底收容し得ぬので更に別館を增設したが、尙收容し切れぬ出品は遺憾ながら謝絶するの已むなきに至つた。かくて本會に於ては直ちに各該當館の小間割當を行ふと共に出品團體に對しては夫々承諾書を發送し各館の陳列準備に取かゝつた。

陳列區劃割當

陳列小間の按配配置は、博覽會當事者として最も苦心する處で、本會としても愼重なる態度で研究を重ねた結果、產業本館に於ては出品團體の地理的關係を第一考慮に加へ、更に其數量位置等に關しては最大なる注意を拂ひ、しかも出來得る限り出品團體の希望に副ふべく努めた結果大體に於て別圖の如き東日本、西日本に大別區劃割當を完成し、出品團體からもさしたる不服も聞かず圓滿に事務遂行が出來た事は本會として最も欣快に感じる處である。

鄉土産業館、農林水産館に於ては豫て廣島縣出品協會其他と充分打合せを遂げた上で、小間割當、配置を行つたので何等苦痛を感ぜず豫想通りに進行出來た。軍需工業館に至つては前述の如く本會の豫定小間數の二倍に及ぶ申込となり、これが取扱には多大な苦心を拂つたが、小間の區劃、配置に當つては出品者の要求も出來得る限り考慮に入れ特設土間を中心に、一つ一つの出品に對し深甚なる考究を遂げ、公平無私の立場から割當を決定したので、出品者に於ても滿足の意を示された事は、本會の光榮とする處であつた。

出品物搬入

豫想外莫大な出品申込みのため小間割當には、並々ならぬ苦痛を甜めたが、當事者の努力は豫定期日までには滯りなく完成出來たので、直ちに陳列臺、陳列戸棚の取付を行つたが、これが完了と共に出品者の希望に應じて館内裝飾を許し、引續き出品規定第二十一條に基づき三月十日から同月二十四日まで二週間の期限を附して一切の搬入を許したが、是が出品物搬入(搬出も含む)に際しては、種々なる弊害、不便を伴ふ過去、幾多の例に徴して本會に於ては特に運送業者の指定をせず出品者に於て隨意の運送者により搬入せしめたが、之がため不正行爲、或は思はぬ事故等發生する場合は本會はもとより出品關係者も共に迷惑をうけるので、本會に於ては專任係員を附して嚴重監督を行ひ、事故防止に努めたのは勿論、取扱の迅速を圖つたので、搬入豫定の三月二十四日までには全部の出品を搬入、それ〴〵係員との引繼その他の事務を完了することが出來た。

出品物管理

出品物の保全に對しては、出品規定第三十四條の示す如く、本會に於て特に保險は附せなかつたが、火災其他不可抗力の災害の起らぬ限りは、萬全の策を講じ、細心な注意をもつて之が管理をなすことは云ふまでもないことで、本會に於ては、完全なる倉庫を設備すると共に直接出品物を管理する出品部員、看守人は特に盜難、毀損、亡失等の事故防止につとめると共に、守衞、警察官、憲兵、消防組員等とも常に緊密なる連絡提携をなし、事故防止にあたつたので遂に會期中これといふ事故もなく濟んだが、これは偏に前述各位の御努力の結果と感謝するものである。

倉庫　補充出品物の保管のため、本會では第一會場内演藝館裏に倉庫を設置し、之が管理は本會出品部に於て嚴重にしたので、會期中盜難其他の事故も生ぜず保管の義務を完了することが出來た。

陳列設備

本會出品部管理下の各館に於ける陳列棚及び陳列臺は、館内の統制上本會に於て設備したものを使用せしめたが、陳列土間は施工せず使用者に於て任意施工せしめた。しかして本會設備の陳列棚は間口六尺、奥行三尺、高さ地上九尺のものを基準とし、特に希望者には間口六尺、奥行六尺、高さ九尺のもの及び、間口奥行共に三尺、高さ九尺のものを設備した。

各館別の使用戸棚及び臺數は左の通り

尚第二會場に於ける各館は、國防部所管とし、本會出品部と切放したため本欄に記入しなかつた。

各館使用戸棚臺調

館別＼戸棚臺種類	戸棚					臺				
	六尺―三尺	三尺―三尺	三尺六尺―六尺	六尺五尺五寸―三尺	六尺―九尺	六尺―三尺	三尺―三尺	三尺六尺―六尺	六尺―六尺	
産業本館	三八五	―	―	―	―	八七	一	―	―	―

郷土産業館	二二三	三	一六	｜	｜	一〇	一	二
軍需工業館	五一	一	｜	｜	｜	一二	一	｜
同別館	一二	四	一	｜	｜	｜	｜	｜
本願寺館	二八	四	｜	五	三	｜	｜	｜
農林水産館	三六	｜	｜	｜	｜	一七	｜	｜
拓殖館	三七	一	｜	四	｜	｜	｜	｜
體育館	六	二	｜	｜	｜	｜	｜	｜
合計	七七八	一五	一七	九	三	一二六	三	二

陳列裝飾

産業本館および軍需工業館内部の陳列裝飾は、出品物の性質に適應し且つその特産品の個性を發揮せしめ、或は地方色を象徴せしめるため、本會に於ては裝飾依頼者を出品人に於て届け出でせしめた外は何等の制限を設けず、經費も各自負擔のもとに自由に裝飾せしめたが、鄕土産業館は各々その館の特色を發揮するため本會に於て直接之を行つたが、裝飾はいづれの館も專門家が技を競ひ、丹靑をこめたものであつたので、出品者各自も滿足し、殊に産業本館の如きは全國各地の特色を夫々發揮した美觀に、出品者も來觀者も一樣に喜んだ。

出品物の陳列

博覽會を開會してもなほ、裝飾は揃はず、出品物も出揃はぬといふ、從來の博覽會の惡弊一掃のため、本會では各出品者に考慮を煩はすと共に、出品規定第二十二條に出品奬勵の條目を設定、陳列完了の期日までに完成した者に對しては出品規定第八條による使用料の一割を奬勵金として交付する事にしたが、出品者側に於ても本會の誠意を充分諒解せられてゐたので、出品物の搬入陳列、裝飾と、いづれも手順よく進み、この間降雨等相當惡條件の日もあつたが、大規模且つ重量物による設備を要する軍需工業館の一部を除く限りは期日までに殆んどの陳列が出來本會の引繼ぎを完了することが出來た。

かくて本會に於ては規定にもとづき二十五日午前一時を期し所管の産業本館、鄕土産業館、軍需工業館、同別館、農林水産館に於ける出品、裝飾、陳列完成の見取を行ひ左の如く奬勵金交付者を決定したが同時刻までには未完成であつたものも、二十七日午前十時までには全部の陳列裝飾を終へることが出來、この種博覽會としては劃期的の開會が出來た。

奬勵金交付者

出品規程第二十二條により奬勵金を交付された團體其他出品者は左の通りであつた。

産業本館 東京、大阪、京都、福岡、愛媛、香川、高知、和歌山、沖繩、宮崎、鳥取、島根、熊本、富山、三重、神奈川、福井新潟、愛知、埼玉、德島、岐阜、兵庫、群馬——以上各府縣團體
松本、岡山、倉敷、津山、奈良、別府、靜岡、足利、山形、濱松、米澤——以上各市團體
北海道、樺太——以上道廳
古河電氣、福屋百貨店、高橋吳服店、誠會——以上特別出品者

尙産業本館關係未完成は七團體三特別出品者であつた。

鄕土産業館、農林水産館 全出品を二十五日までに完成すべく、縣當局と打合をなしたる關係もあり、二十五日まで延期した結果全出品を同時刻までに完成したるにより全部に對し第二十二條を適用した。

軍需工業館、同別館 本館は重工業關係出品で、搬入後と雖も据付け其他に以外の日時を要したゝめ、二十

四日午前一時までに完成してゐたものは、左記の程度であつたが、關係者の不眠不斷の努力は僅か一件を殘すその他の全部を完成して當事者を驚嘆感謝せしめた。

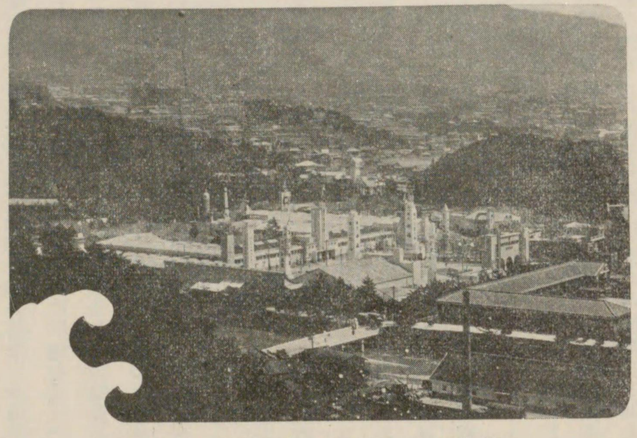
住友合資會社、三菱重工業會社、戸畑鑄物會社、東京鋼材會社、三菱電機會社、S・F・K・ベアリング會社、宇品造船會社、栗林製作所、大日本電線會社、住友別子銅山會社、日本車輛、安宅商會、住友化學工業會社、特殊鋼材會社、岡本自動自轉車製作所、愛知時計會社、高田船底塗料會社、ヨシカワ商會、日本電池製作所、東京計器製作所、理化學興業製作所、溝尾電池製作所、藤倉電線製作所、東京EC工業會社、東京製鋼所、日本クロス工業所、アサヒメタル製作所、帝國精密工業製作所、松風工業所、東亞ペイント工業所、N・T・N製作所、丸善石油工業所、山陽鉱力印刷會社、大正耐火工業會社、吉川製油所、竹口鑄鐵營業所、大熊鐵工所

第一會場の概觀

櫻花に惠まれた二河公園を場内に取入れた第一會場は、二河峽に臨み、灰ケ峰を背に約三萬坪に擴がり、場内には池あり、丘あり、林あり、之等天然の美景をその儘に取入れた會場は、恰も地上の一大樂園を感ぜしめるに充分であつた。

近代裝美を誇る白堊の大正門を入れば、壯麗目をもあざむく大噴水塔が、春光のもとに燦然と輝やいて水晶宮を偲ばせ、塔下の池塘は滿面水を湛へて凉氣しん〳〵と迫り、玉と散る水しぶきを透して大產業本館の高塔が見られる、近代式大建築樣式の粋を蒐めた同館は、第二會場の海軍館と共に本會建築物中最大なもので、會場中央を凹型に占め冲天を摩する塔屋上には、翩飜として日章旗が飜つてゐるのも、非常時にふさはしい情景である。第一會場の觀覽は、產業本館を見て左に軍需工業館に廻るとも、また右に鄕土產業館へ移るとも、各々の自由であるが、先づ左方に眼を移して見る。

表正門に並んで建つ協賛會事務所に續く豪華壯麗な建物が大演藝館で、櫻、藤等きらびやかな色彩の花で飾られた正面を眺めたゞけでも、自から觀覽慾が湧いて來る、カフエ、喫茶店等の二三が軒を並べた次には軍需工業館、同別館がある。軍艦色で塗られた色からして非常時氣分を横溢してゐる。更に軍需工業館と產業本館の間の通路奥に進めば、大飛行塔の下に子供の國があり、海女館が海底の巖窟を思はす建物で控へ、リンゲンスの大冒險演藝場が、會場の西北隅を占めてゐる。軍需工業館、演藝館の裏、二河堤防上には澁い青色の御殿風屋根を持つ協賛會大食堂が、朱塗の欄干廻廊に會場の眺望を誘つてゐる。以上で產業本館を中心に左方の各種建物を一巡したわけであるから、今度は右方に廻る。



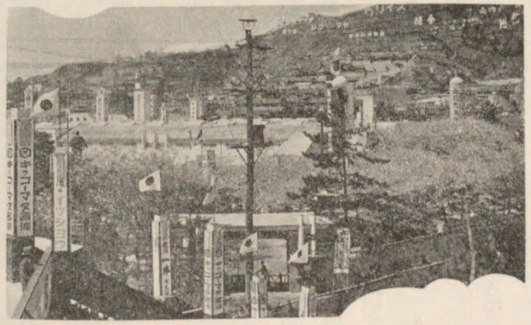
櫻花に つつまれた第一會場（そのー）

大きな錨、赤い浮標に海と白鷗をあしらつた鄕土產業館は產業本館に竝立して、鄕土色豊かな軍港風景をその儘建物に反映すれば、同館に面した臺灣館が自然の蘇鐵山を前にして熱帶地らしい風景を見せ、その隣りには朝鮮館が朝鮮獨特の極彩色で、高層樓を並べてゐる。同館の次は觀光館であるが、觀覽順序としては赤銅葺き唐門を潜つて奥まつた本願寺館に行くのが便利だから、こゝでもその順にする。

唐門を入ると池に出る、御典橋を渡つた處が本願寺館である。鐵筋コンクリートの屋上には本願寺の「下り藤」の紫旗が翩飜とし、建物は背後に老樹茂る小山を負ふて、人々に思はず崇高幽嚴な感じを與へる。御典橋に戻り唐門を出た處にある觀光館は、現代人氣質をそのまゝにうけた、斷然明る

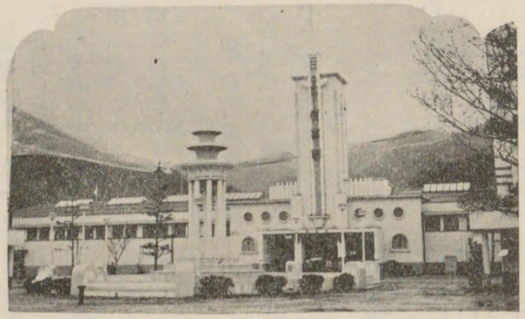
い建物で、池畔の櫻と共に明朗色を遺憾なく發揮し、つゞく拓殖館は、土人々形を柱にあしらひ、或ひは綠樹を館側に配する等、南洋色豐かな處を見せ、滿洲館は滿洲國獨特の樓門に東洋色をみなぎらせ、池中に浮ぶ中國日報特設三吳線記念館は櫻、柳の樹間に雅趣を見せ、鄉土產業館と滿洲館の中間大廣場に面した櫻樹林を背に白堊の大音樂堂がある。この音樂堂は永久建築としたゞけに規模も宏大で、簡素な裝飾は却つて衆目を惹いてゐるので、こゝら邊りに來れば、會場東北隅丘上へ巍然として聳へる教育體育館の高樓が手に取るやう仰ふがれる。

三吳線沿線館前から、前方丘上へ架せられた大陸橋を越せば、直ちに教育館入口に到り、軒並に體育館があり、更に數階の石段を上れば農林水產館が、一文字に大翼を張つてゐる。同所一帶は馥郁たる梅の園で、閑靜を誇り、眼下には中の島を抱いた大泉水池が眺められ、緋鯉、眞鯉が威勢よく跳ねてゐる。こゝら邊りは二河公園中でも最も雅趣に富んでゐるので、入場者の憩ひ場所としても亦最適な地域で、櫻花の撩亂と唉き誇る會場眺望にも亦絕好な地である。更に陸橋を引返へし、三吳沿線館にそふ池畔は本縣名物の「かき舟」をはじめ大小の飲食店が紅提灯のもとに軒を並べて食道樂街をなし、右に折れて鄉土產業館、產業本館眞裏に行けば、各種飲料水、煙草、辨當店等が、天然の大櫻樹林を圍んで並び、樹間には大小さま〴〵な無料休憩所が、入場者のために設けられ、產業本館正面廣場に並びたつ數基の大廣告燈をはじめ、場内要所々々には全國有力商店の廣告塔が、巧みな表現を見せて居り、警察官派出所、臨時吳郵便局出張所、吳驛旅客案内所、商船々客案内所、運送店出張所、憲



（そ の 二）

兵派遣所、等々はいづれも正門附近に各瀟洒な小舍を並べ、協賛會商談所と同會茶菓接待所は臺灣館に並んで、特殊な建築を見せてゐる。以上で第一會場内は極めて簡略ながら、一通り巡つたわけであるが、本會に於ては興行物は原則として場外に許し、第一會場正門に向つて右側約二千坪の地域を興行街、賣店街としたので、會場外も亦殷賑を極めた。



產業本館

產業本館

我國產業界の發達は、我國防の完備と共に世界人の齊しく驚愕する處で、世界到る處の市場に我國產品の姿を見ぬ事はなく、その聲價も益々揚り、その飛躍は烈强の恐怖するものである。產業本館は我國產業界の現況をその生產品により大觀し、產業振興に資する本會の趣意に卽して、出品勸誘の範圍も廣汎に及ぼし、極力出品の慫慂を行つたので、出品も本館だけで四十府縣市に樺太、北海道を加へ、更に特別出品七を加へ、その種類、點數は後段に示す如く、全く地方の博覽會としては稀に見る充實振りで、しかも出品者は各々獨自の特色を發揮して、その生彩を誇つたので來觀者も亦今更ながら我國產業界の盛觀に驚異を感じたものゝ如くであつた。

本館は第一會場の中央を凹型に占め建坪も一千坪に及んでゐるから物凄い。館内の陳列は別圖に示す如くであるが、概觀を述べれば

表入口正面には廣島縣酒造組合出品で電動裝置の等身大人形が謠曲猩猩を舞ひ、百花撩亂を競ふ花圃を小川で仕切つた陳列臺には、金色まばゆい本縣代表の優等酒の酒樽を並べて先づオラが春を壽ぎ傍らでは大阪福助足袋の福

助人形が、道中姿で股旅道中のレコードに合せて手振、足並も面白く踊るので先づ來觀者を喜ばせる。館内の觀覽は左右兩翼いづれから見るも自由だが、こゝでは左方から廻つて見る。吳の有力製產品として誇る丸中金ペンを入口角に置いて

東京、群馬、埼玉、神奈川、山梨、岐阜、愛知、新潟、富山、福井、三重、山形、米澤、足利、靜岡、濱松、松本、金澤等の府縣市に北海道、樺太

と東日本の產業界が總覽でき、更に重工業界の雄、古河電氣工業會社と、中國地方有數の廣島市高橋吳服店の特別出品が、それぞれの特長を發揮して陳列されてゐる。右に廻れば、これまた本市生產品として有名な金谷石鹼の特別陳列場を入口に

大阪、京都、福岡、愛媛、香川、兵庫、和歌山、德島、高知、島根、鳥取、山口、長崎、熊本、宮崎、鹿兒島、沖繩、岡山、倉敷、津山、別府、奈良

の西部日本が誇る大府縣市の特產品を網羅し、別に廣島福屋百貨店、吳誠會の特別出品が、華麗な設備で豪華を誇つてゐる。

產業本館各出品者別小間割

尙產業本館に於ける小間割を各府縣市、其他出品者別に示せば左の通りである。

府縣市名	特棚	一等棚	特臺	一等臺	特棚角	一等同角	特臺角	一等同角	土間	特設
東京府	一四	—	三	—	—	—	—	—	一一	—
長崎縣	—	一一	—	—	—	二	—	—	—	—
松本市	—	—	—	五	—	—	—	一	—	—

京都府	二四	—	—	—	四	—	—	—	—	—
福岡縣	一四	二二	—	一	二	三	—	—	—	—
愛媛縣	—	二七	—	—	—	—	—	—	—	—
香川縣	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山市	—	四	—	五	—	一	—	一	—	—
倉敷市	—	三	—	—	—	一	—	—	—	—
高知縣	—	七	—	—	—	—	—	—	—	—
山口縣	—	一九	—	四	—	四	—	一	—	—
和歌山縣	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—
沖繩縣	—	四	—	—	—	—	—	—	—	—
宮崎縣	—	四	—	六	—	—	—	〇、五	—	—
鳥取縣	—	四	—	二	—	一	—	—	—	—
島根縣	—	六	—	二	—	一	—	一	—	—
津山市	—	四	—	—	—	一	—	—	—	—
奈良市	—	一	—	三	—	—	—	一	—	—
別府市	—	八	—	—	—	二	—	—	—	—
熊本縣	—	三	—	一	—	一	—	—	—	—
富山縣	—	八	—	—	—	二	—	—	—	—
三重縣	—	五	—	—	—	一	—	—	五	—

出品

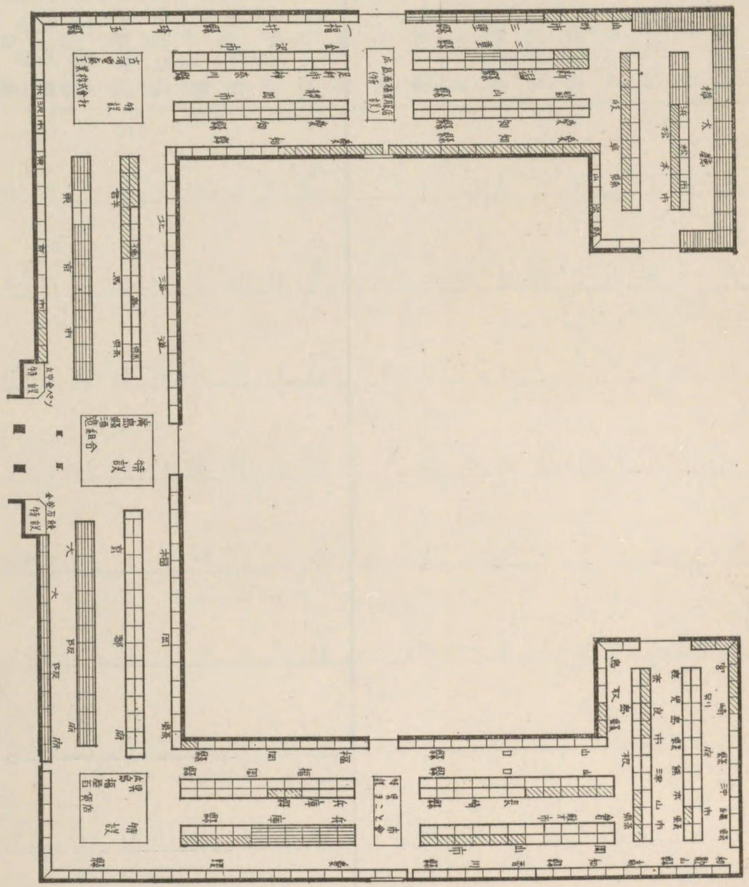
出品	静岡市	足利市	神奈川県	金澤市	福井県	山梨県	山形市	新潟県	愛知県	埼玉県	北海道	徳島県	樺太	濱松市	岐阜県	大阪府	米澤市	兵庫県	酒造組合
	八	一	八	七	九	七	七	七	二二	一一	一四	九		五	七		三	六	
	五		七							一七	二五								
	一		二一						四一										
	一		二						一二										
	六										二〇			三					
	一六																		

出品

出品	群馬県	鹿兒島県	古河電氣	福屋百貨店	高橋呉服店	誠會	金谷石鹼	丸中金ペン	計
	六								八一
		四							二五六
	七								一〇
									六五
									一〇
		一							三七
	二								二
									一一、五
									四五
		一	一		六	六	一	一	八三
							六	五	

産業本館小間割圖

出品



棚	数	384
台		88.5
土間		45
特設		83

出品

東京市

足利市

東京市

出品人員　一八　出品點數　六四七

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
花籠	五九	東京市	深井惣吉
簞笥	四〃	〃	松本朝之助
卓子、椅子	二八〃	〃	澁谷幸道
謄寫機	四九〃	〃	堀井新治郎
インキ、墨汁	八二〃	〃	丸善株式會社
電話機	一九〃	〃	沖電氣株式會社
罐詰	四〃	〃	日本蟹罐詰水産組合
タイプライター	四〃	〃	東亞大普公司
計工機械、硬度鐵、硝子切	三八〃	〃	ダイヤモント工具製作所　濱田義正
紙製品、感光劑	六六〃	〃	櫻井大二郎
鐵材、鐵製品、精密機械	二三〃	〃	高島屋飯田株式會社
印畫紙、乾板	五九〃	〃	富士寫眞フイルム株式會社
電機器、電工材料	一四〃	〃	神奈川電氣株式會社
洋屋材料	六〃	〃	田島應用化學工業所
光學機械	四四〃	〃	日本光學工業株式會社
ペン先、鐵ピン	三三〃	〃	東洋精鋼合資會社

出品

白酒 二一ク 吉村政次郎

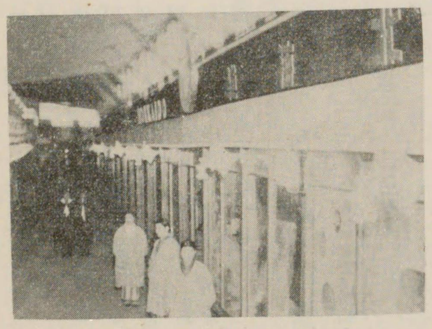
北海道廳

出品人員 四四 出品點數 八五五

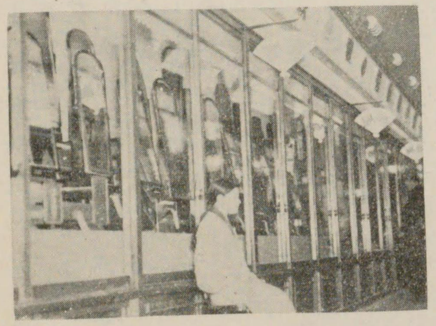
（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
農産物種子	一八	札幌市	北海道農産物檢査所
同	一一	小樽市	小樽雜穀商同業組合
甜菜白糖	一八	帶廣市	北海道製糖株式會社
同	三	十勝國	明治製糖株式會社
薄荷製品	三	野付牛町	清水工場
煉乳、バター、チーズ	一〇〇	札幌市	北聯薄荷工場
極東印バター	三	ク	北海道煉乳協會
毛皮加工品	一	小樽市	極東煉乳株式會社
清酒 北の譽	四	ク	長野岩彦
サツポロビール	一三	札幌市	野口商店
ソース	五	小樽市	大日本ビール株式會社
海苔	二	根室町	木村商店
肥粕用鰯粕	五	函館市	麻生商店
海産食料品	四九	小樽市	函館魚肥移出商業組合
素乾ヤツ目鰻	三〇	別前町	小樽海産商業組合
鰛、乾鮑	三	函館市	矢部鶴吉
乾赤貝、昆布	六	根室町	小林錄太郎
鱈ソボロ、粉末	三	小樽市	根室物産商組合
昆布	三	藤田元吉	
温度計、鎔接棒、醫療機械	一三	ク	飯田株式會社代理 二宮粂藏

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
殺蟲劑	八	札幌市	北海道除蟲菊工業組合
ホームスパン服地	一	ク	札幌工業振興會
ホームスパン服地、ネクタイ	二	ク	山口貞子
ホームスパン服地	一	ク	名倉森藏
同	一	ク	勝田フミ
同	九	小樽市	秦敬治郎
護謨靴	一〇	ク	三馬護謨工業合資會社
護謨製品	三五	札幌市	日東ゴム工業所
木工品	六三	ク	鈴木忠太郎
藥劑	三	ク	三星藥品株式會社
晒餡	八	小樽市	齊藤眞造
同	五	苫小牧町	小樽製餡合資會社
洋紙	三一	札幌市	王子製紙株式會社苫小牧工場
キヤラメル	二	ク	古谷商店製菓工場
北譽豆	二	ク	藤井作次郎
蜂蜜	二	旭川市	古郷薫夫
鰛トマト漬	三	函館市	北海道鰛罐詰工業組合
黑耀石、瑪瑙加工品	一五	札幌市	北海道寶石商會

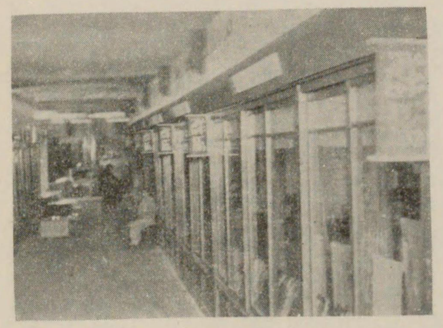
出品



北海道廳



縣島德



縣馬群

ベニヤ板 一九四 ク 北海杢板ベニヤ商會

鱈油 二 釧路市 中村水産工場

開鱈 六 ク 金澤定市

鮭鱈加工品 三 ク 安倍三郎

昆布加工品 四 ク 松本與次郎

同 一〇 ク 平林一二

鱈ソボロ 一 ク 長島嘉作

鱈ブリツク 二 ク 結城三二

足利市

出品人員 二〇 出品點數 二一

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
人絹交織品	一	足利市	高野正二
同	一	ク	松本與四郎
同	二	ク	鈴木德太郎
同	一	ク	金子彦次郎

出品

同　一ク　奈良場富藏
同　一ク　石川幸村
同　一ク　山三型染工場
同　一ク　山前村　田村傳四郎
同　一ク　葉鹿町　金子政一郎
同　一ク　イキホシ合名會社
同　一一ク　足利市　松葉博二
同　一一ク　島田恒三郎

群馬縣

出品人員　六　出品點數　一〇九

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

筍　三ク　高崎市　天田梅太郎
同　六ク　川崎染三郎
同　四ク　石本茂三郎

德島縣

出品人員　三三　出品點數　九〇一

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

水飴、葡萄糖　三八　日本製飴株式會社
蜂蜜　三〇　藍園村　松浦明義
洋食調味料　三三　德島市　横堀淨
素麺　二　撫養町　江川惣七

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

酒類　三〇　德島市　德島縣酒造組合聯合會
清酒　四　撫養町　多智花酒造株式會社
醬油　二ク　平野伊之太
同　八ク　德島市　南海醬油株式會社

同　一ク　天田仙助
絹織物　一ク　毛野村　小泉直藏
同　一ク　足利市　茂木冨二
同　一一ク　織姫會
同　一一ク　菊地藤吉
同　一一ク　松崎元吉
同　一一ク　桐岡利助
同　一一ク　石原熊次郎

出品

同　八ク　堀江村　原悦平
同　八ク　德島市　森六醬油合資會社
味噌　一〇ク　平土三平
鳴門ワカメ　四三ク　石田喜商店
同　九〇ク　森竹保
同　三五ク　八幡長十郎
鰹節　三七ク　宍喰町　宍喰漁業組合
レース加工品　五ク　德島市　近江屋織物商會
煙草苗育布　二ク　柏原喜平本店
刺繍額面　一六ク　友成芳衛
足袋　四ク　撫養町　御國足袋工業株式會社
同　一〇ク　南海足袋合資會社
同　二六ク　德島市　柏原喜平
同　一五ク　矢田久太郎
同　三五ク　伊勢屋幸吉
同　一〇ク　別枝貞吉
履物　四六ク　八木大藏商店
簀垂　一〇ク　三好爲一

竹玩具　一八ク　辻町　岸上爲一
同　一〇ク　學島村　平井重男商店
唐木家具　二六ク　德島市　鳥居藤吉
木工品　五ク　曾木岡藏
懐爐灰　四〇ク　岩野義雄
鏡臺　六ク　德島鏡臺指針工業組合
同　一ク　郡　忠次
同　六ク　岡山岩藏
同　一二ク　馬場源一
同　二ク　永久勝弘
同　三ク　鈴江金五郎
鳴門糸和布　二ク　撫養町　紀伊關藏
風呂釜　一ク　岩朝商店
足袋　一一ク　坂田兵助
折箱材料　一五ク　山口庄五郎
物指　二九ク　德島市　藤村九平
燐寸　一八ク　小林燐寸株式會社

米澤市

出品人員　二五　出品點數　四八二

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

人絹撚糸　三ク　米澤市　米澤絹撚商會
打双物　三ク　高木幸助

絹縫糸　三ク　青木藤左衛門
同　三ク　田中總吉
同　三ク　大田良太郎

出品

同　三ク　村越雄吉
同　三ク　朝倉傳之助
木彫人形　九九　米澤市外笹野　加藤宮之助
絹織物　三三　米澤市　米澤織物同業組合　小澤金太郎
同　一一ク　登坂克己
同　一一ク　林崎榮三
同　四四ク　猪俣政次郎
同　二二ク　田中駒藏
同　一一ク　春野藤吉
同　五五ク　石井智貞

同　一一ク　井上榮一
同　六六ク　山田與太郎
同　一一ク　芳賀榮助
同　四四ク　山岸新造
同　七七ク　織物加工組合　安部政太郎
同　三三ク　桐下駄　金子亥六
同　五五ク　金子彌次郎
同　五五ク　組紐織物　佐藤治右衞門
菓子　九六ク　小川榮作

埼玉縣

出品人員　一三　出品點數　三六三

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
絹織物	二〇三	埼玉縣　秩父織物工業組合	
大島紬	一二	飯能町　飯能織物同業組合	
明石上布	一五	所澤町　所澤織物同業組合	
愃六竈	四四	川口市　川口鑄物同業組合員　伊藤愃六	
簞笥、机	五五	岩槻町　高藤善之助	
桐簞笥	五五	川越市　川越簞笥同業組合	
鯉幟	六六	加須町　北埼玉郡織物製造業組合　佐藤丑五郎	

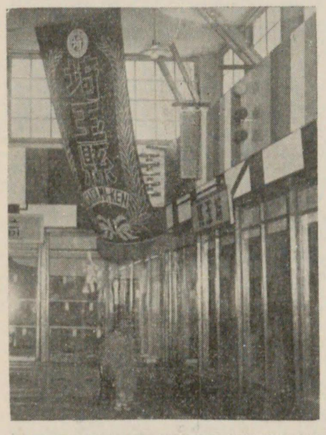
愛知縣

出品人員　七九　出品點數　四、八七六

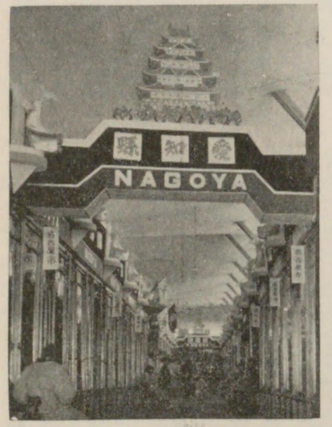
（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
絞染	二七	名古屋市	名古屋國產絞同業組合
作業服	一五ク		合名會社荒木商店
金庫	二ク		小林淺次郎
蠅取機、スリケール、グレシヤム	九ク	名古屋商事株式會社	
自轉車	二ク	株式會社　岡本自轉車製作所	
刺繍絲	一六ク	大日本オリンパス製絲所　大洞勘治	
時計	三三ク	合資會社　高野時計金屬品製作所	
建築用陶製品	五八	知多郡常滑町　伊奈製陶株式會社	
穀類膨脹機	一〇九ク	中澤製作所	
佛壇	三ク	川口佛壇店	

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
刷毛	八九ク		大島辰彥
佛壇、木地物	一九七ク		平宗商店
佛壇、唐木製品	四五七ク		小島唐木店
佛具	五九ク	增田新次郎	
履物	一三七ク	河田合名會社代表社員　河田新吉	
扇	三六〇ク	加藤由造	
簾	七四ク	水谷周平	
スタンプ臺	一三ク	舟橋金造	
浴精	七八ク	武藤鉦合名會社	
飯櫃	一五ク	大口善次郎	
同	一八ク	河村伊三郎	

出品



埼玉縣



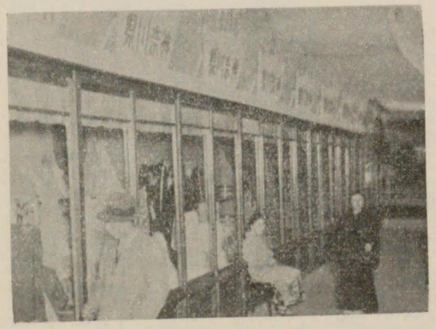
愛知縣

出品			
半櫃	八ノ	鈴木安次郎	青銅燈籠 一ノ 山本治三郎
桶櫃	八ノ	伊藤喜兵衛	鑄物製品 三ノ 服部鑄造株式會社
同	八ノ	小島善助	古代瓦 二ノ 柴田常吉
飯切御飯取	一五ノ	半田光太郎	菓子 二ノ 伊藤直平
同	二四ノ	角谷庄次郎	同 二ノ 中野重
樽	九ノ	鳥居健太郎	陶器 三ノ 西山愛治
タライ	六ノ	三輪惠當丸	同 三ノ 田中文作
アルミニユーム製食器	六三	實飯郡豐川町 中川十郎	同 三ノ 澤田市五郎
味淋	三ノ	海部郡解江町 山田平左衛門	菓子 四ノ 東海製菓株式會社
同	一一	碧海郡棚尾町 古久根勇藏	花火 一四ノ 稻垣金太郎
同	二ノ	大濱町 石川八郎治	同 一〇四ノ 太田績吉
絹綿織物	三ノ	葉栗郡木曾川町 尾州織物工業組合	玩具、玩具材料 七三 岡崎市 稻垣傳三郎
海産珍味	五五	知多郡大野町 桂新堂光田半四郎	玩具 一三九ノ 岩瀨藤吉
絹、綿、毛、人絹織物	六七	一宮市 尾西織物同業組合	味噌 六〇ノ 早川商店
切干大根	三三ノ	尾張大根切干卸商業組合	同 四六ノ 大田商店
大根、白菜、種子	一〇ノ	尾張特産大根種子同業組合	花李 三〇ノ 阿部藤吉
唐木製品	一〇一ノ	櫻井濱重	木彫 一六ノ 岡崎木彫同志會
撚糸	六三ノ	一宮撚糸同業組合	同 八三ノ 太田福松
陶磁器	七ノ	瀨戸市 山繁合名會社	陶器 五六ノ 竹本作二郎
同	七ノ	陶園 富士陶	同 一三七ノ 三浦月艇
同	七ノ	加藤庄九郎	絹紡糸、撚糸 一六ノ 三河紡績同業組合
陶製花器	三ノ	村瀨善九	春日燈籠 一ノ 岡崎石匠組合
電氣スタンド	一ノ	川惣製陶所	柔道着、刺子布 一〇 豐橋市 市田道太郎
屏風	一	岡崎市 高橋恒祐	絽刺 五ノ 杉浦實

出品

米澤市

靜岡市



神奈川縣

靜岡市

出品人員 三六　出品點數 一、二〇二

出品			
濱納豆	八ノ	服部彌八	同 絹 一九ノ 吉田作平
菓子	一三ノ	豐橋製菓商組合	玉 一〇ノ 小澤義一
黒板、竹鐵砲	四〇ノ	平野次郎	絹 三ノ 高橋光雄
漁網	八ノ	山本安太郎	靴 三ノ 羽田豐
木製玩具	六ノ	伴吉傳	毛筆 四四ノ 豐橋毛筆同業組合

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

竹製品 三 靜岡市 大村五郎

玩具 一八ノ 松本市 松

出品

同　九六ク　三保松木工所
同　四〇ク　井田悌
シュース履　三ク　伊井銀市
塗下駄　五〇ク　内田兼吉
木工製品　一三ク　靜岡美術木工社
茶　三三ク　多々良嘉一
帶上　一二ク　山田善啓
人形、陶器　五八ク　三吉商會
綠茶　三ク　小島鐵藏
同　九〇ク　伊藤孝三郎
ホージ茶　一〇〇ク　武田安太郎
次郎長漬　七二ク　千代田屋本店
山葵漬　一五〇ク　望月大太郎
漆器　四ク　内田敬藏
同　三ク　杉山忠治
同　一ク　堺辰五郎
同　一ク　中條道雄

神奈川縣

出品人員　一四　出品點數　五七二

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

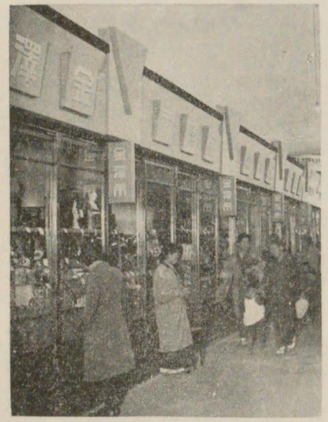
絹物加工品　三ク　横濱市　篠竹邦三
同　三ク　竹内良藏
噴霧器　一〇ク　横濱植木株式會社

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

綿織物加工品　三五ク　横濱輸出布帛製品工業組合
テーブル掛　二ク　信社
電氣スタンド　七ク　奈良安吉

同　四ク　中條重太郎
同　二ク　稻森寅吉
同　四ク　鳥羽清一
模様漆器食卓　四ク　高橋家具工場
針箱　二ク　森田龍
鏡臺　六ク　町塚久次郎
鐘型小鳥籠　二ク　鈴木實造
竹製ヘルメット　七ク　眞田孝治
帽、本立、ヒナ人形、御殿　一ク　松島伸光
茣蓙セット　二ク　平岡虎雄
靜岡名所風景寫眞　一〇ク　靜岡市觀光協會
漆器　一五ク　中川道正
鏡、化粧箱　六ク　花村清次郎
漆器　一三ク　芝井敏雄
同　一六ク　山田商店
同　一七ク　大畑吉三
回轉四方開　六ク　鈴木菊次郎

出品



金澤市

大阪市

石鹼　一三ク　キネマ石鹼本舗
横濱彫屏風、アジロ額　三ク　村田勝次郎
マサゴ額　四ク　横濱市　飯塚正之助
飯櫃　五ク　須山定吉

金澤市

出品人員　二八　出品點數　七九五

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

漆器　一三　金澤市　加藤義一郎
陶器　八〇ク　前川龜松
蒔繪　七ク　礪波彦太郎
銅器　九ク　菅原作藏
木地細工　一三ク　中島鐵一郎

洋服地　六ク　日本製絲株式會社
寄木細工　一三五ク　小田原町　小林秀勇
黒板　六ク　平塚市　野地勝太郎
人形　三五　横濱市　村澤春吉

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

陶器　八ク　柄本曉舟
同　三六ク　村田長樂
花瓶　一三ク　藤田美山
達磨　五〇ク　高橋北山
徳利　九ク　毛利岩花堂

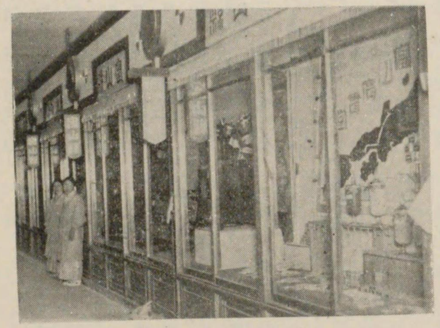
福井縣

出品人員　五七　出品點數　八五六

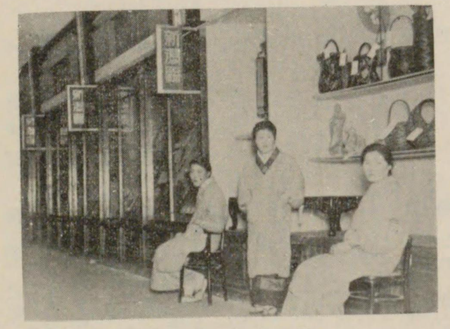
出品	（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
同	絹織物	二	森田町	桑野織物合資會社
同	同	一	松岡町	土肥要
同	同	一	森田町	白崎織物株式會社
同	蚊帳	七	武生町	株式會社山甚商店
同	同	三	〃	山勘商店
同	絹、網麻	二	福井市	米澤佐助
同	打物双	六五	武生町	木村麻絲商店
同	紙類	二〇	〃	加藤善次郎
同	打物双	三	岡本村	越前產紙卸商業組合
同	同	五	〃	山下市郎兵衞
同	打物双	一四	武生町	關喜助
同	漆器	七	小濱町	中村源吉
同	同	七	〃	梅田八百藏
同	同	一三	〃	中村伊三郎
同	同	三	〃	加福太治郎
同	同	三	河和田村	山本貞四郎
同	同	八	〃	高野庄左衞門
同	同	二	〃	山田定右衞門
同	同	六	〃	小林作兵衞
同	絹織物	五	福井市	福井精練加工株式會社
同	紋朱子	三	森田町	柳澤謙三
同	人絹絹交織紋織	一	高椋村	石津五作
同	絹綿織物	三	土田村	勝士
同	絹織物	一	丸岡町	角田政市
同	同	一〇	上野村	高松
同	人絹織物	一	三村	米藏
同	絹織物	四	福井市	林會次郎
同	同	一	春江村	島崎信廣
同	同	一	〃	春江織物株式會社
同	双人マフラー	六	高椋村	小杉甚松
同	同	二	吉田村	友治
同	同	七	〃	清
同	同	一	〃	帆谷清
同	同	一〇	〃	嘉七
同	同	一	〃	柴山一馬
同	双人綾織	一	下志比村	立花玉之榮
同	紋綸ボイル	一	松岡町	江守利喜三郎
同	ベンベルグ綸バレス	二	栗田部町	日出織物株式會社
同	絹紬	一	中藤島村	横田清作
同	縮緬	二	勝山町	松文機業場
同	交織地	一三	氷川町	岡田藤藏
同	絹綿織物	五	福井市	辻清商店
同	同	二五	〃	清
同	篠竹、長火鉢	二	〃	金澤金屬販賣購買利用組合
同	輸出用刺繍製品	四九	〃	金澤輸出刺繍業組合
同	同	六四	〃	中出衞松
同	同	一〇	根上町	米田五三郎
同	佛壇	一	金澤市	金澤佛壇商組合
同	漆器	七九	輪島町	船木千舟堂
同	同	二	〃	八重門彦吉
同	浴精	四〇	金澤市	越野政吉
同	篠竹、長火鉢	二	〃	堂屋喜平
同	輸出用刺繍製品	四九	〃	金澤輸出刺繍業組合
同	同	六四	〃	中出衞松
同	篠竹、長火鉢	二五	〃	中野甚太郎
同	籐製肌着、腕飾	七四	〃	橋本彌多吉
同	漆器	八	〃	久保仁作
同	桐火鉢、莨盆	一五	〃	中川與三郎
同	同	七	〃	篠原光吉
同	金屬器	四	〃	佐野商店
同	金屬器	一二	〃	金澤金屬販賣購買利用組合
同	陶置物	一五	〃	野崎芳太郎
同	同	一〇	寺井野町	庄川良能

出品

福井縣



富山縣



新潟縣

出品

伊達巻	二四	伊井村 村田 外吉
紙製品	四	岡本村 加藤商店
漆器	三三	河和田村 林 常吉
同	三〇 〃	關坂與十郎
同	六 〃	丸山久右衛門
木工品	一五	小濱町 古川 伊作
同	一五 〃	中村 源吉
瑪瑙加工品	二六	若狹瑪瑙工業株式會社
同	八	遠敷村 小濱町 森下 源司
眼鏡	二四	麻生津村 清水與右衛門
同	六 〃	增永五左衛門
同	三六	河和田村 三輪 信一
竹製品	一〇	福井市 野原 金治
ワカメ	五 〃	安島海女組合
ラッキョ	五 〃	福井縣副業組合聯合會

富山縣

出品人員 四三　出品點數 九一〇

出品

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
衝立、其入	二	富山市	富山商品陳列所 中島 圭堂
欅大花臺	一 〃	〃	中田安次郎
桐製品川棚	一 〃	〃	清水三郎
桂材机本箱	二 〃	〃	富樫吉男
紫檀平卓	一 〃	〃	吉村政則
茶棚	一 〃	〃	廣田佐太郎
欄間	一 〃	〃	堀井新四郎
桐火鉢其盆	四 〃	〃	村井喜作
かわち塗	九 〃	〃	河内春雄
漆器	八 〃	〃	山崎隆義
灰皿	二 〃	〃	富山漆工會
漆器	四五 〃	〃	增山三郎兵衛
艾	四六 〃	〃	松崎博善堂
頭痛膏	三〇 〃	〃	堀君華堂
獅子頭	三 〃	〃	田村六馬
同	二三 〃	〃	田村豐次郎
同	七 〃	〃	田村政次郎
劍舞人形	五 〃	〃	中條 せつ
世界月	五 〃	〃	吉田榮吉
鹽釜	五 〃	〃	釜戸久平
地球こま	五〇 〃	〃	宮田仲次郎
雄山銀嶺	二 〃	〃	森本豐次郎
デンプ	二 〃	〃	多喜瀧次
玩具	一〇二 〃	〃	渡邊源吾

出品

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
麻織物	二	小千谷町	小千谷織物同業組合
麻絹織物	一〇	十日町	十日町織物同業組合
人絹織物	三	加茂町	加茂織物同業組合
同	五	見付町	見付織物同業組合
綿織物	五	龜田町	龜田織物同業組合
同	三	長岡市	長岡織物共同販賣所
漆器	二〇	村上町	村上物產出品協會
同	二	新潟市	飯塚 福松
茶盆	一	高田市	山中藤太郎
漆器	二	新潟市	布川寅次郎
賣藥	一四 〃	株式會社廣貫堂	
木工製品	八 〃	塚田木工株式會社	
雜種	一 〃	細川伊三郎	
陶器、銅器、漆器	八	高岡市	高岡市商品陳列所
蛇目傘	二	石動町	平田勝太郎
漆器	六	魚津町	關井平作
同	三 〃	平崎梅次郎	
同	四 〃	大久保政次郎	
漆器	六 〃	佐藤三郎	
同	四 〃	大久保與作	
賣藥	九一	富山市	廣貫堂
同	四一	滑川町	保壽堂製藥株式會社
同	五九 〃		金子隆盛堂藥房
同	九三 〃		松村庄作
籐表履物	八 〃		深井粂次郎
同	五 〃		魚躬常次郎
同	一五 〃		高木榮次郎
ウエス手袋	二〇 〃		北越商會
不老デンプ	一	高岡市	米嘉商店

新潟縣

出品人員 七八　出品點數 一、三五二

出品

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
同	二 〃	加藤勝太郎	
草刈鎌	五	南波嘉久治	
打刃物	八	與板金物共勵組合	
銅器	五	原保齊	
毛抜	一八	高田市	小林七郎右衛門
樺製社殿	六	長岡市	渡邊虎二郎
不二型スキー	二	高田市	三間 博
花籠	六	長岡市	長陵竹工會
同	八	新潟市	加藤一竹齋
同	五 〃	遠藤竹工所	

出品

玩具	三三	新發田町	加野銀三郎
同	五〇	村上町	物産出品協會
同	三一〇	長岡市	森山重太郎
同	六	高田市	江島由太郎
同	八〇	新潟市	丸山慶次郎
同	二四	〃	銅谷白洋
能面	二	〃	坂田源吉
菓子	三五	村上町	村上物産出品協會
煉羊羹	一	長岡市	押見清
飴菓子	五	高田市	高橋孫左衞門
洋菓鑵詰	三	〃	高田洋菓栽培場
紙凧	五	三條市	須藤清七
同	五	〃	中澤又造
器物洗用石鹸	三〇	長岡市	中野信多
筆	二〇四	〃	寶翰堂長岡支店
傘	五	新潟市	新潟傘信用販賣購買組合
同	五	〃	中喜製傘工場
同	五	〃	干物辰藏
同	五	〃	齊川熊吉
同	五	〃	丸山銀平
同	五	〃	大橋桝藏
同	五	〃	三澤三池治
同	五	〃	古川次郎吉
同	五	〃	齊川眞二
同	五	〃	川崎大吉
同	五	〃	新潟市傘業組合
同	六〇	〃	中野喜一郎
袴	一	五泉町	塚野國松
地後縮	二	〃	高橋銀作
越後縮	一	〃	石井民次
練羽二重	一	〃	坪川寅藏
練絹	一	〃	有澤製作所
電氣絶緣テープ	四	高田市	飯島常七
テーブル掛	二	〃	小國屋漆器店
吹雪塗	一四	長岡市	飯島貞雄
銘々茶托	五	高田市	山本祐之進
竹塗漆器	二	新潟市	川上吉藏
漆器	七	〃	大井猪之松
同	一五	〃	宮原丑藏
同	五	新發田町	井潔
同	二	高田市	石室橋忠次
短册箱	一	〃	藤井定治
佛壇	一	長岡市	中屋安市郎
鋸	二	五泉町	明大商店
煙管	一八	燕町	關川德治
ステンレス量器	九	新發田町	名古屋重明
打刃物	五	〃	三條金物株式會社
同	七	三條市	高儀商店
同	一三	〃	

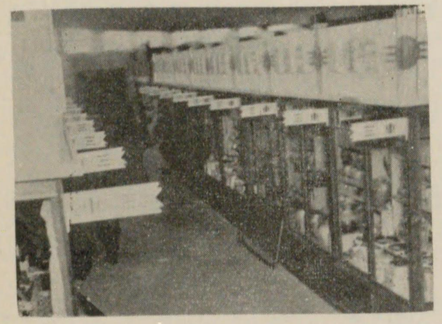
出品

煙管 二 燕町 深海物産株式會社
金屬洋食器 一九 三條市 長沼商店
打刃物 二六 〃 高橋喜平太
同 一四 相場長一郎
櫓机 一 長岡市 荒木武七

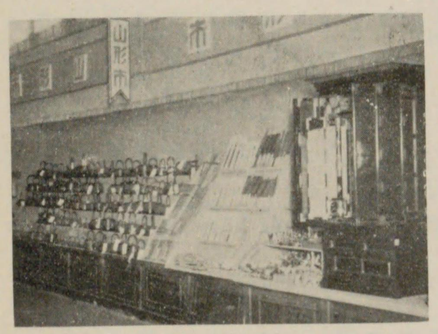
同 床置 一 〃 今井晋造
花籠 二 四 高田市 佐久間新一郎
菓子 四 新發田町 大久保正堂
三星印マカロニー 三 高田市 關野商會
新潟市 風間商店

三重縣

出品人員 七〇　出品點數 二三、〇六四



三重縣



山形市

（出品物）陶器　（點數）三　（住所）松阪市上田惣八　（出品者）

山梨縣

（出品物）ゴム裏草履　（點數）二壹　（住所）内山六藏　（出品者）

出品			
箒	一〇〇	島田善三郎	伊藤銀太郎
漆器、木彫	六〇 〃	安田信三	小林豐吉
木工品	一三〇 〃	清水一男	奥山隆造
竹コマ	三〇〇 〃	大平定郎	新龜治郎
金工製品	一六 〃	久留見房造	中森伊郎
乾ウドン	一五〇 〃	渡邊寅之助	上島万治郎
海苔佃煮瓶詰	一〇〇 〃	三重醬油株式會社	桑名双物組合
木工製品	五九 〃	瀧川團藏	川端正善
菓子	一五 〃	宇野久助	桑名傘業組合
花籠	一二 〃	塩井友玄齋	富岡伊之吉
漆器	四四 〃	村林春郎	山本重治郎商店
菓子	三九 〃	田中菊松	柴田周平
同	一一〇 〃	岡傳三郎	桑名時雨蛤商組合
茶	一三四 〃	伊勢茶購買販賣利用組合	大橋武清
赤菜漬	三三 〃	松阪市赤菜漬加工組合	水谷重德
松笠細工	五〇〇 〃	小津五藏	祖父江敬一郎
菓子	三九〇 〃	小泉助三郎	伊藤正一
パイプレンチ	一 〃	安西友吉	齋木宗之助
調味ノ花	七五	津市瀧野卓藏	四日市市陶器
竹製品	四五 〃	竹内正雄	熊本貞次郎
同	七、四一〇 〃	森田庄藏	保位增太郎
ヘチマ製品	三七五 〃	夏目清兵衞	山田合資會社
藏人形	一五九 〃	西村信太郎	横田彦七
木彫人形	二 〃	石水副業協會	竹細工

出品			
煎餅	四〇 〃	伊藤銀太郎	平治
ラシャ中敷	一二〇 〃	小林豐吉	奥山隆造
朱塗丸盆	四 〃	新龜治郎	東子
竹製人形	一五 〃	中森伊郎	公
陶器	七六 〃	上島万治郎	奉
打刃物	六三四 〃	桑名町	林豐吉
貝類製品	一、三二九 〃	川端正善	小
蛇目傘	五 〃	桑名傘業組合	細工
電氣アイロン	四 〃	富岡伊之吉	貝
漁網	五 〃	山本重治郎商店	細
菓子	二 〃	柴田周平	同
白魚、蛤罐詰	九六 〃	桑名時雨蛤商組合	工
蛤煎餅	一〇 〃	大橋武清	三、三四
蕨菁煎餅	一 〃	水谷重德	宇治山田市
桑名コタツ	五 〃	祖父江敬一郎	横田彦七
漆器	九 〃	伊藤正一	竹細工
桑名三名所煎餅	七 〃	齋木宗之助	三〇〇 〃
陶器	一〇	四日市市	上地竹三
同	五 〃	山三製陶所	
棚	二 〃	中川清榮門	中川正吉
具	二 〃	松井禎三	長田卯七郎
傘	三 〃	古松寅吉	川西榮吉
同	二 〃	中村菊太郎	小野田商店
刀、打刃物	二六八 〃	菊一文字金近	伊豆清吉
日本刀	五 〃	三條小鍛冶宗近	山田政郎
漆器、傘	一三 〃	村田仙右衞門	大間清一
尾崎行雄漫像	二〇 〃	野口健次	有瀧末松
花瓶	一七六 〃	野村政	辻幸吉
萬金丹	五〇〇 〃	野間閎彦	坂口國次郎

出品	（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
人造竹皮、經木紙	三五一	〃	山形市	吉田吉助
佛壇、ビール盆	二 〃	五 〃	池垣久三郎	同
筆	五五 〃	〃	百足龍吾	同
佛壇	二 〃	三五 〃	野村彦二郎	同
鐵瓶	二九 〃	五 〃	長谷川長吉	同
鐵瓶、風鈴	四一 〃	〃	國分周榮	打刃物
鐵瓶	二九 〃	一八四 〃	渡邊利八	玩具
同	六五 〃	二〇五 〃	佐藤德太郎	同
同	一三 〃	〃	小野田鶴吉	同

山形市

出品人員　四〇　出品點數　一、八六八

出品	（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
佛壇	一〇 〃	五 〃	長谷川貞治	同
佛壇、ビール盆	五 〃	〃	長谷川吉重郎	同
筆	三五 〃	〃	渡邊惣助	同
佛壇	五 〃	三五 〃	石澤文吉	同
鐵瓶、風鈴	一八四 〃	〃	白木幸吉	打刃物
鐵瓶	二〇五 〃	〃	小林倉吉	玩具

山梨縣

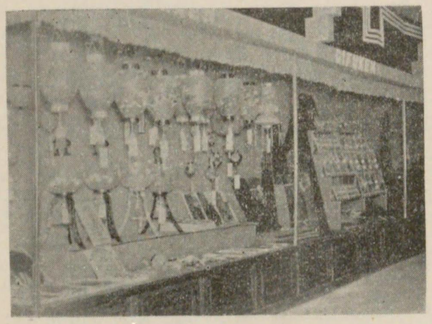
出品人員　三一　出品點數　一、一五四

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
寶石細工	八七	山梨縣	山梨縣商工協會
印傳製品	一六	山梨縣	山梨縣商工協會
友禪甲斐絹	三	〃	堀内久吉（南都留郡甲斐絹同業組合）
細裏	一	〃	渡邊吾郎
同	一	〃	渡邊藤五郎
同	一	〃	土屋界作
洋傘地	一	〃	奥脇伊八
同	一	〃	小山田久松
服裏地	一	〃	堀内欣吾
同	一	〃	萱沼高治
同	一	〃	〇商店
人絹交織服裏	一	〃	萱沼朝治
同	一	〃	丸越商店
人絹服裏地	二	〃	小山濱吉
朱子地	一	〃	杉本彦太郎
		〃	渡邊政雄

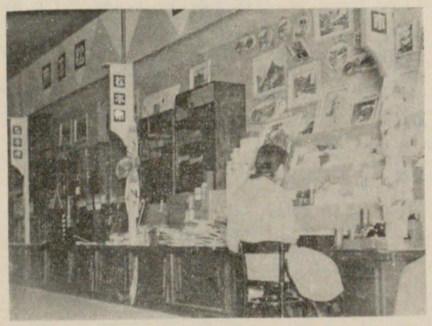
岐阜縣

出品人員　四四　出品點數　三、七六二

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
洋傘地	一	〃	柏木重弘
同	一	〃	渡邊縫一
夜具地	二	〃	加藤不二男
二巾夜具地	一	〃	小山定一
縞夜具地	二	〃	高橋榮一郎（都留郡甲斐絹同業組合）
呂座布團	一	〃	岩田章藏
袖裏地	一	〃	丸五商店
同	四	〃	伊藤茂十
友禪絞、甲斐絹	二	〃	森島孝治郎
友禪甲斐絹	一	〃	上小澤倉吉
縞甲斐絹	一	〃	原田倉之助
人絹甲斐絹	二	〃	小野田武敏
葡萄酒	二四	甲府市	今井精三（甲運葡萄信用販賣購買利用組合）
同	二四	山梨縣	深澤粂次郎（北都留郡甲斐絹同業組合）
硯	三	〃	
絹織物	三六	〃	



岐阜縣



松本市

濱松市

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
縮緬	三	岐阜市	岐阜縮緬工業組合
絹織物	九	中屋村	岐阜縣絹工業組合
同	四三	竹ヶ鼻町	竹ヶ鼻織物同業組合
絹綿織物	二四	笠松町	美濃織物同業組合
陶磁器	三一	土岐郡	大嶽光次郎
同	六〇	〃	高木伊三郎
同	一七	〃	加藤廣次郎
紙類	五三	美濃町	美濃紙同業組合
羊羹	二〇	大垣市	樋谷祐七

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
鮎珍味	五	〃	松下卯八
蝮酒、藥草、蛇加工品	八四	〃	大鹿秀吉
竹細工	三五	〃	大垣青年團
タイル	二	土岐郡	水野春吉
ポケットナイフ	一九	關町	井上照商店
和洋双物	一〇	〃	佐藤久八
和洋刀劍	一二	〃	奥田榮助
ナイフ	一八	〃	小坂國吉
短刀、ナイフ	三	〃	久保祐之

出品

洋双物　三七ク
和洋双物　一〇ク
大理石加工品　二〇三　赤坂町　清水桃太郎
同　一四四ク　清水廣吉
養老酒　七六　高田町　玉泉堂酒造株式會社
椅子　四　高山町　飛騨木工株式會社
春慶塗　一七ク　福田吉郎兵衛
提灯、團扇　七一　岐阜市　岐阜提灯團扇工業組合
雨傘　八七三ク　宮崎富三郎
蜂蜜　一〇〇ク　松原喜八養蜂場
美强傘　七五ク　大野實三郎
靴職　一四四ク　早川好治郎
川魚珍味　九八ク　小林八右衛門

松本市

出品人員　二一　出品點數　一四八七

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

干ソバ　四〇　松本市　太田吉次郎
同　六三ク　梅ヶ枝喜太郎
蜂蜜　一三ク　長野縣養蜂販賣購買組合　丹下金七
山葵粕漬　一八ク　小林三男人
座繰絲　三ク　小松貞三郎
玩具　一四七ク　同
栃細工　四一ク　小椋德次郎

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

張繪　九ク　草間治郎
額縁　三〇ク　清水洲水
漆器　二ク　增田隆治
同　二ク　荻村彌之助
同　一一ク　巢山吉平
同　二ク　古畑今朝雄
同　四ク　太田慶造

ナイフ　五三ク　包子貞市
洋盆セット、履物、座布團スタンド　六五ク　堀常商店
五ク　大垣市　大垣スタンド製作所
鐵工製品　一三ク　太平洋工業合名會社
柿羊羹　五ク　小川琴江
菓子　三ク　野原慶藏
大垣煎餅　五ク　上野正二
農具　二ク　神保保
提灯、電燈カバー、團扇　一五ク　尾關治七
印刷用紙　一ク　小熊町　美濃町
紙製品、鐵筆　七ク　大福製紙株式會社　太田善右衛門
紙製品　四ク　太田万右衛門
沏煎餅　三〇〇ク　下呂温泉　湯之島館

出品

木彫製品、額　三七ク　松田國太郎
彫刻額　四ク　山本竜雄
木彫製品　七七〇ク　鈴木榮次郎
木彫人形　九八ク　堤寅雄

濱松市

出品人員　二六　出品點數　四八四

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

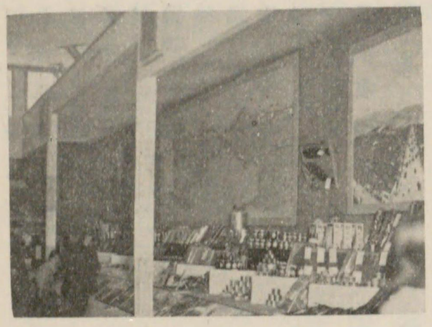
國旗手拭　八ク　鈴木永吉
家具　一六ク　松本家具販賣購買組合
繪額　一ク　村上進

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

納豆　三六　濱松市　鈴木幸作
忍冬酒　六〇ク　神谷富

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

海苔ノテリ焼　五〇ク　伊藤廣之進
茶　六〇ク　松永親義



樺太廳

京都市

山口縣

出品

萩筆	三〇	〃
木綿織物	四〇	〃
都帶	三〇	〃
眞綿帶芯	二〇	〃
展開椅子	八	〃
變織木綿地	五	〃
同	五	〃
同	七	〃
捺染別珍	九	〃
同	三	〃
富士絹、綾織	二	〃
子供服地	一	〃

川瀬爲一郎
近藤大三郎
山二工業社
伊藤織工場
東洋木工株式會社
加藤千之助商店
河合覺平
丸松織布合資會社
今村幸太郎
寺田忠織布工場
金原織布工場
久壽滿織物工場

樺太廳

出品人員 四〇　出品點數 二、五一五

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
フレップ製品、トロロ昆布オツトセイ肝臟粉末	七五	大泊町	谷村彌作
アンモナイト製品	五〇	豐原町	藤田松太郎
同	一六 〃	〃	中井商店
同	一二 〃	〃	石戸谷商店
アンモナイト、ツンドラ製品	一六 〃	〃	中村商店
同	三七 〃	〃	啓蒙社
アンモナイト製品	一四 〃	〃	加藤商店
同	一四 〃	〃	坂崎商店
同	一五 〃	〃	宮內商店
同	八 〃	〃	坂本商店
同	八 〃	〃	鎧野目商店
同	八 〃	〃	西原商店
同	一〇 〃	〃	原商店
同	三 〃	〃	米山商店
同	八 〃	〃	中山商店
同	一四 〃	〃	伊豆屋加工所

ポプリン　三〇　〃　鈴木博司
同　二〇　〃　齊藤庄一
同　三〇　〃　松井一虎
木綿織物　四五　〃　丸產機業組合
同　一〇　〃　袴田五平商店
同　三〇　〃　外山織物合名會社
ピアノ、オルガン附屬品　一三　〃　伊藤友作
同　七　〃　平野豐平
フイルム、プロマイド紙　一五　〃　日本樂器製造株式會社
旭日寫眞工業株式會社

出品

毛皮製品	三六	〃
鮭燻製	八七	〃
雲丹	一九八	〃
農產物、海產物	六〇	〃
鰊鯑、鰊粕	八〇	〃
洋酒、藥品	一三四	〃
フレップコリン羊羹	二	〃
煮昆布	三三	〃
海產食料品	三七一	〃
ツンドラ板、オツトセイ、ロツペイ鳥	七	〃
寒天包裝	一	〃
蟹罐詰	一〇八	〃
鰊燻製	一〇〇	〃
海產食料品	六六〇	〃
牛酪	一一〇	〃
海產加工品	三七	〃
蟹煎餅、フレップ餅	三五	〃
材鑑旭扇、同柱掛	五	〃
蟹製品	一九	〃
特產品詰合	二	〃
北日本航路案內	三五	〃
製紙原料	三七	〃
このわた	六	〃
昆布加工品	一七五	〃

龜屋商店
佐藤德三郎
海馬島漁業組合
樺太廳中央試驗所
樺太廳水產物檢查所
樺太製藥株式會社
豐月堂
元泊町　元泊漁業組合
豐原町　不二屋食料品店
樺太廳
大泊町　樺太寒天資會社
眞岡町　樺太產業株式會社
土永久松
片川與三郎
豐原醋農購買販賣組合
龜屋水產加工所
仙臺屋
樺太山林會
金子金次郎
中沖庄太郎
北日本汽船株式會社
王子製紙株式會社
布目商店
山口商事株式會社

京都府

出品人員 四三　出品點數 四、六六七

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
銅器	三	京都市	西邨松榮堂
同	三〇 〃	〃	永松佐次郎
法衣、打敷	三七 〃	西陣織物同業組合	川勝仙六
帶地	四 〃	〃	三宅太郎
絽廣巾帶	一 〃	〃	岡本半次
名古屋帶	一 〃	〃	川本龜吉
袋物	三三 〃	〃	村上商店
ネクタイ	七六 〃	〃	山地卯三郎
錦唐織丸帶	二 〃	〃	堀正吉
錦、博多、名古屋帶	三 〃	〃	舞鶴正七
七五三帶	五 〃	〃	門幸三郎
唐織丸帶	一 〃	〃	野淵龜吉
錦名古屋帶	五 〃	〃	岡慶商店
窓掛、卓子掛	五 〃	〃	海老名織物所
地帶	三 〃	〃	加藤宗三郎
名古屋帶	一 〃	〃	宅間佐助

出品

卓子掛	六	〃	〃 小原織物合名會社
名古屋帶	二	〃	〃 横田解吉
唐織丸帶	一	〃	〃 久保田貞吉
黑繻子	三	〃	〃 平井豐太郎
帶地	四	〃	〃 青柳市松
同	八	〃	〃 永井太郎
ビロード額	一五	〃	〃 湯川房雄
縫取生地	三	〃	竹下利商店
縮緬、羽二重	四	〃	柵橋成介商店
紋織、ジョーゼット	一〇	〃	中川彌商店
裁縫具、ミスヤ針	一一〇	〃	福井勝秀
裁縫箱	一五	〃	山口忠兵衛
袋物	八七五	〃	久村清一
染織物	二	〃	森淺商店

大阪府

出品人員　二八　出品點數　七七九

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
食料品	一五	大阪市	今村彌商店
金庫、保管器類	三六	〃	伊藤喜商店
綿、毛、人絹、染織布	一五	〃	稻畑染工場
手巾	二六	〃	中西儀兵衛商店
金屏風	二	〃	株式會社田村庄商店
糸類	四二	〃	帝國製絲株式會社
袋物	二四三	〃	小島源之助
人形、掛額	二、七七〇	〃	藤林矢五郎
屏風	七	〃	可兒彦治郎
茶	三	久世郡宇治町	京都府茶業組合聯合會議所
佛壇	二	京都市	井澤治助
同	二	〃	片山長兵衛
同	一	〃	奥平捨吉
同	一	〃	西村直次郎
佛壇、佛具	四	〃	中村熊吉
同	六	〃	三浦宮藏
同	六	〃	若林卯兵衛
石鹼	一一一	〃	第一工業製藥株式會社
帶〆、羽織紐	二三	〃	澤村萬治郎商店

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
糸類	四六	〃	日本カタン糸株式會社
帆布、防水布	一三	〃	於勢佐兵衛商店
船舶塗料	二八	〃	石川ペイント製造所
粟おこし	七〇	〃	中村勝次郎
染料、紋器圖案	五五	〃	株式會社桐山商店
調味料	四一	〃	合名會社黑川與兵衛商店

出品

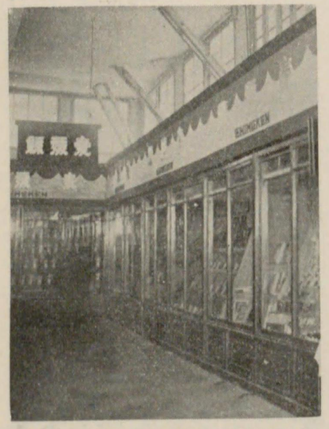
福助足袋宣傳設備	三	堺市	福助足袋株式會社
リノリユーム	二三	大阪市	東洋リノリユーム株式會社
自轉車、同附屬品	七	〃	株式會社日米商店
塗料	二八	〃	日本ペイント株式會社
寢具	一三	大阪府濱寺町	林圓治
硝子器	四五	大阪市	三好硝子製造所
卓上セット、賞盃、置物	三〇	〃	錫半、中村半兵衛
バーナー、テレグラフ、トーチランプ	一三	〃	合資會社日之出バーナー製作所

福岡縣

福岡縣

出品人員　五四　出品點數　五、二一一

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
タオル	三	久留米市	牛島商店
輕量金屬製品	四一	〃	株式會社日本アルミニユーム製造所
粟おこし、福おこし	三三	〃	小林林之助
複寫紙	二九	〃	カーボンペーパー株式會社
皮膚藥、除蟲藥	五六	〃	大日本除蟲菊株式會社
土工用具	七	堺市	株式會社淺香本店
文房具	六九	〃	日本ポプラ、アソシエーション
薫香料	三九	〃	堺線香同業組合
毛布	五	岸和田市	烏野毛織工場



愛媛縣

出品

薬剤、オシメカバー	一七九	福岡薬剤組合	
竹細工	一八三	門司市	飯田昌太郎
弓道具	六	齊藤福二	
綿手袋	二一	八幡市	北九州輸出英大小工業組合
同	九		藤井義行
豚肉製品	三		八木ハム製造所
綿手袋	二〇	戸畑市	岩永治三郎
水産加工品	四七三		岩佐隆次
綿手袋	三〇		岩永忠三郎
玉下駄	八〇〇		都甲新右衛門
石炭	一三		明治鑛業株式會社
鋼球	三	若松市	九州鋼球製作所
久壽玉	四		姫野雪湖
栗羊羹	三		藤瀬黛治
菓子	四		藤田誠太郎
同	二		奥村光宏
雲丹	三		若松市産業課
陶器	一九		大庭爲吉
清掃具	三〇		若松工藝品製作所
石鹸、植物油	三		日華製油株式會社
スプリング	一一	小倉市	若松工場
釣道具	七〇六		富田營業所
火山灰精製品	一四五		松本順六
小倉縮	三		阿部敏正
			神田安兵衛

同	三〇		榮島幸三郎
釣竿	三		小倉漁具合資會社
剣道用具	三		相良又作
味付海苔	五	大牟田市	本吉喜一
海産物	六〇		大牟田水産商會
タヒラギ粕漬	一〇		石田竹松
羊羹	三〇		相川安正
同	一〇		松本要
椿油	五〇	飯塚市	花野善吉
化粧品	一八〇		青木桂一郎
蛇目傘	一六	久留米市	久留米傘株式會社
同	八〇		久留米傘出品團
久留米絣	二四		久留米絣商業組合
同	一〇		久留米絣工業組合聯合會
傘、漆器	五		赤松商店
鋸	一三		傘重工業株式會社
粉末味噌	一八		井上權市
硝子製品	九		中央硝子株式會社
蛇目傘	一九		中川源平
木工製品	六九		久篭社
蛇目傘	三〇		中島政衛
陶製品	五六	福岡市	福岡市窯業研究所
博多人形	三〇〇		博多人形組合
同			長隆造

出品

兵庫縣

香川縣

愛媛縣

出品人員　六九　出品點數　二、九六〇

博多絞	一八〇	武田虎雄	
同	一七〇	井上次郎吉	
同	三〇	博多絞株式會社	
博多織帶地	八〇六	博多織同業組合	

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

伊豫絣	一〇〇	松山市	伊豫織物同業組合
浴衣、紺絣	二九		藤本精一郎
寢衣	八一		松居商店
敷物	一〇		西谷護
花籠	一九		白石兵太
同	三一		佐伯保
同	三五		河野岩

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

同	一五		濱田隣松
同	三五		山田祐敏
同	二六		塩崎福太郎
花籠、味の華	一一五		藤澤志通佳
盆	三〇		三好豐重
テレンプ	一二九		長野繁一
雨傘	六〇		中村保

出品		
同	一〇ク	佐伯彌平
武者人形	三六〇ク	清水門五郎
陶器	三一ク	好川龜
醬油	七ク	松山醬油株式會社
同	六ク	奥田醬油店
同	七ク	中山松太郎
同	七ク	藤井圓治郎
同	七ク	木村虎太郎
清酒	一三ク	伊豫酒造株式會社
胡麻油	一三ク	古川佐太郎
蜜柑罐詰	四八ク	伊豫鑵詰製造所
瀨戸の譽煮	三〇ク	松島廣吉
勝山煮、緋燕漬	三三ク	岡田廣一
五色素麺	一〇ク	森川忠常
干油揚	五〇ク	大島房吉
捺染織物地	二〇ク	松山工業株式會社
姫達磨	三五ク	兩村光眞
和洋瓦	二一ク	菊間製瓦業信用販賣購買組合 越智郡菊間町
タオル地	五三ク	望月商店
同	二一ク	長尾榮太郎
同	九ク	越智秀雄
同	一六ク	橋本商店
同	一〇ク	宮崎研一
バスマット	二五ク	小池誠一郎
同	一七〇ク	今治市授産場
綿織物	八ク	阿部株式會社
同	六ク	木原商店
同	三ク	興業舍
同	二ク	丸今綿布株式會社
同	二ク	城南織物工場
洋瓦	一ク	河田寅吉
同	九ク	大野歡市
同	九ク	田村常吉
漆器	四ク	羽藤柳作 櫻井町
同	一三ク	吉本達次郎
同	二ク	青野佐市
同	五ク	越智金之助
重箱	一ク	月原春一
同	一三ク	田坂道男
平鉢	二ク	河上伊之助
寢衣	四〇ク	今治市 藤高商店
タオル	九五ク	中村忠左衞門
同	一三ク	中村株式會社
浴衣、タオル	五ク	井手綿布工場
木綿服地	五ク	中村佐市
釣道具	一三ク	住谷誠一 宇和島市
醬油、ヒシホ	五五ク	堀部本店
竹細工	一九〇ク	寺田暢夫 道後町

出品		
花瓶	六五ク	砥部町 梅野榮次郎
漆器	七ク	櫻井町 齊藤磯治
同	二ク	渡邊政藏
同	四二ク	渡邊常藏

兵庫縣

出品人員　一六　出品點數　一、〇五三

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
毛織物	三〇ク	神戸市	日本毛織株式會社
殺蟲劑	一一七ク	後藤デシン本舖	
鋼鈑、鋼製品	一三ク	川崎造船所製鈑工場	
素麺	三五ク	揖保郡	播州素麺同業組合
醬油	一六ク	明石市	坪田醬油株式會社
土工用具	一四ク	神戸市	日本工具製作株式會社
セメント、防水劑	一三ク	關西ペイント株式會社	森上浩行
塗料	一二ク	川邊郡	
打刃物	三〇一ク	加東郡	松原信次
ワイヤー	二九ク	川邊郡	守田製作所
防水革	八ク	姫路市	野中善五郎
佛壇	三ク		古寺佐一郎
菓子	一四ク		姫路菓子同業組合
袋物	一〇七ク		佃久太郎
同	九八ク		浦上卯七郎
石鹼	二五四ク	ベルベット石鹼株式會社	武庫郡
重箱	二ク		阿部峯雄
同	二ク		田村信夫
同	二ク		小野音市

香川縣

出品人員　五四　出品點數　二、三〇五

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
松笠細工	二〇六ク	大川郡	金谷健次郎
メリヤス手袋	一二六ク	高島屋商店	
藜杖	五〇ク	坂田町	高木又七
素麺	一三ク	松井甫吉	
醬油	二ク		木田醬油株式會社
紙製鯉幟	四ク		谷本伊太郎
羊羹	六ク		端喜久松
素麺	毛。	池田町	小豆島素麺同業組合

出品

製菓用型	八〇	觀音寺町	澁谷型宗商會
玩具	一三〇	〃	詫間彥作
置物	五	〃	大畑爲次郎
燒印	二一	〃	黑川伊勢松
スキ燒豆腐	五	豐濱町	敷島豆腐製造所
饂飩	五〇	〃	合田照一
團扇	一一	丸龜市	藤田房吉
竹製柱掛	七三	〃	林德太郎
硝子製消毒器	三	〃	今井虎吉
竹製品	二五	〃	河野虎雄
松細工	五〇	〃	保科タケ子
玩具籠	四九	〃	粂井善男
同	一〇〇	〃	笹原甚吉
同	五〇	〃	佐久間モト
漆器	五	〃	森春堂
同	一三	〃	奥田忠太郎
都團扇	一一	〃	大久保商會
茶室用具	八	〃	大山常吉
蛇目傘	六	〃	沖勝治
飯櫃	一	〃	香川伊勢一
同	一	〃	山下太平
團扇	一五	〃	矢野商店
同	八	〃	丸龜團扇合同株式會社
漆器	三九	高松市	久本清太郎
同	二三	〃	桑島万象堂
同	一三	〃	高橋茂太郎
同	二五	〃	龜井文榮堂
同	一二	〃	文新堂
保多織上布	三〇	〃	岩部幾太郎
日傘	二三〇	〃	上春商店
同	二〇二	〃	三谷貞吉
履物	二〇	〃	蒔田兵作
同	二〇	〃	森田春吉
同	一三	〃	眞鍋眞一
木彫	一六三	〃	左甚水
磐石	二一	〃	前田傳吉
玩具、床置	九五	〃	松岡紫雲堂
玩具	一七	〃	森田良子
同	一九	〃	宮武嘉吉
同	一四	〃	岩佐武平
市松人形	五	〃	次田幸次
飯櫃	二四	〃	松野元三郎
食料品	五〇	〃	佐々木與一
生魚煎餅	三五	〃	本津商店
麥稈帽子	二四	〃	四國製帽所
花籠	三一	〃	蓮井霜一

出品

高知縣

長崎縣

高知縣

出品人員　四二　出品點數　二、四五八

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
珊瑚細工	一六二	高知市	福島磯彌
同	一〇〇	〃	大倉健志郎
同	五〇	〃	米澤珊瑚加工所
同	五〇	〃	岡林珊瑚店
和紙	九七	〃	三浦商工株式會社
同	五	〃	內田文具店
醫療用油紙	一	〃	松浦照吉
人形	一一〇	〃	森澤ミキ
漆器	七	〃	高知漆器會社
千歲杖	二一	〃	前田榮次
草履	一〇	〃	田村兼亮
花筒	五	〃	山本輝美
釣道具	一〇〇	〃	山崎龜太郎
鰹節	一二〇	〃	久保安太郎
同	一二〇	〃	溝淵拾太郎
酒盜	二四	宇佐町	吉野命之助
同	二〇	高知市	名護山久
打刄物	四〇	新改村	竹崎安繁

出品

同　二〇　大楠植村　依光重利
同　六　片地村　原福馬
人形　一〇　伊野町　森木甫喜
同　五〇　高知市　井上千代惠
同　六七　〃　土居くす
同　一、五二五　〃　山本博章
同　六〇　〃　國吉八十一郎
人形、寶舟　一〇〇　〃　後藤元
菓子　三〇　〃　一柳松次郎
同　一〇　〃　山西房次郎
同　三〇　〃　杉本龜次
同　一三五　前濱村　大原豐馬

罐詰　四三　弘岡村　弘岡產業組合
盆　八〇　高知市　高知木工傳習所
ホーク　一一　高知市　渡邊貞吉
同　一一　〃　菊川儀雄
打双物　三〇　〃　坂本岩吾
同　一〇　〃　小川勇
同　四三　伊尾木村　川島正秀
感光紙、典具帖紙　五四　伊野町　日本紙業株式會社
釣針　一一三　室戸岬町　馬詰玉一郎
同　一一　菜園場町　廣瀨丹吉
打双物　一九　大楠植村　土佐企物合名會社
同　一七　高知市　貞光鐵工所

長崎縣

出品人員　一九　出品點數　三、八八〇

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

龜甲製品　一二四　長崎市　原次熊
同　一四六　〃　安部惠六
同　一二四　〃　前川龜甲店
同　一一〇　〃　賀川民雄
同　二一五　〃　垣立本店
同　七五　〃　川口龜甲店
同　一六八　中古賀　中古賀民男
同　九五　田中　田中秀雄

同　一〇五　〃　菊地堅一
同　一〇〇　〃　松本芳次郎
貝細工　三六九　〃　藤井義一郎
軍艦模型　九五　〃　酒井昌一
陶器　二一三　中原　中原仁市
椿油　四五　〃　熊川吾平本店
龜甲製品　三六二　〃　竹中政次郎
同　一四二　〃　江崎榮造

出品

同　一七五　〃　川内龜甲店
五島スルメ　二〇　五島福江町　南松浦郡水產會

珊瑚加工製品　一、三〇七　富江町　釜我友澄

山口縣

出品人員　六四　出品點數　二、五一九

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

曹達灰、苛性曹達等　八　德山市　日本曹達工業株式會社
陶器　萩燒　三　萩市　坂高麗左衛門
同　一五　〃　萩市　福永秀介
同　五三　〃　吉賀　吉賀大雅堂
角大盆　二　〃　寺田忠平
籠　六　〃　萩　萩製籠工場
木工用鋸　七　〃　伏谷　伏谷吉次郎
木彫萩人形　五〇　〃　福島　福島克己
萩人形　二四　〃　山内　山内正繁
同　三　〃　田邊　田邊喜代士
同　三〇　〃　萩市　萩市聯合婦人會
木製玩具　二五六　〃　沖見　沖見富吉
竹製飯櫃　一〇　〃　吉賀　吉賀正平
オレンヂマーマレード　一三　〃　吉村　吉村梅吉
萩ノ薫、夏蜜柑ジャム　一一三　〃　光國　光國松月堂
旗竿　一〇　〃　樋口　樋口三之輔
雲丹、平家蟹煎餅　七三　下關市　藤原　藤原佐七

（出品物）　（點數）　（住所）　（出品者）

鰯、昆布、ウニ、ワカメ　一四四　〃　關谷彌四朗
胡麻油　五〇　〃　林　林佳介
湯ノ素バーデン　二四　〃　田中　田中梅一
龜ノ甲煎餅　七　下關市　增田コウ
煎餅、雲丹　三九　〃　沖本　沖本新吉
度量衡器　一〇　〃　防長度量衡株式會社
綿手袋　七　防府町　中村　中村茂喜
蛇目傘　二　〃　岡本　岡本覺一
同　二　〃　淺村　淺村熊市
煉羊羹　一〇　〃　林　林庄一
梅ノ味羊羹　一九　〃　數井　數井彌三
改良焚口　七　〃　松村　松村勇
板鍬、裁縫定木　五　〃　長松　長松禎一
蒲鉾　一四　佐波郡　佐波郡蒲鉾製造組合
煉羊羹　三〇　〃　脇本　脇本幻
蒲鉾　一〇　〃　杉本　杉本利兵衞
味噌、醬油　一五六　〃　株式會社一馬本店
麻織物　一七　柳井町　山口縣染色試驗場

出品

陶器、漆器	二	山口市	山口縣工業試驗場
蒲燒鰮罐詰	二〇〇	仙崎町	山口縣水産試驗場
オレンヂマーマレード	七二	日良井村	井上金一
雲丹漬	六	神玉村	西尾喜八郎
鰯、雲丹、雲丹煎餅	一三	〃	納庄藏
橙酢、蜜柑シロップ	四八	蒲野村	一柳正衛
互光金製品	五四	長府町	互光商會研究所
ハンマー柄	九	山口市	江川新一郎
漆器	三九	〃	河合辰之進
漆器大内塗	三六三	〃	末田鉄雄
舌鼓	八三	〃	竹原二郎
漆器	三	〃	田原朔郎
蜂蜜	五六	〃	多田潔
漆器	五	宇部市	米藤龍之進
機械油	五	〃	日本發動機油株式會社

鳥取縣

出品人員　四六　出品點數　五四三

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
竹製品	三〇	鳥取市	虎尾雅夫
人形	八	〃	中島義明
同	二〇	〃	田中重利
同	三	岩井町	小椋幸治
同	一〇	倉吉町	三好岩次郎

窒素製品	五	〃	宇部窒素工業株式會社
ポトランドセメント	二	〃	宇部セメント製造株式會社
石炭	一	〃	宇部鑛業組合
味の美	二八	〃	味の美製造株式會社
味噌、甘酒	五三	富田町	米屋本店
砥石、ミガキ粉	六七	東厚保村	野村百合藏
赤間硯	二五〇	万倉村	須子昇進堂製硯所
陶器	四五	湯本町	高麗陶兵衛
同	五五	宮野村	大和松綠
稻刈機、下駄泥除、食卓履	七二	室積町	德永正雄
耐酸リング、煉瓦	一〇	小野田町	山口縣陶炻器工業組合
碎土器	一	小郡町	内田友二
農具	三	〃	原田幸一
山葵漬	五四	鹿野村	久保ミネ

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
木工品	一四	米子市	木村良助
同	一〇	〃	森脇業次郎
漆器	二〇	鳥取市	共榮商會
漆器	一〇	〃	田中治郎
同	一四	〃	木村宗春

出品

同	六	〃	山根穰
陶器	二	國中村	芦澤保親
同	三	法勝寺村	安藤斗一
同	五	〃	板哥充
菓子	二	米子市	古谷豐太郎
同	四	〃	藤丸鶴吉
同	一	鳥取市	小谷治郎平
同	一	〃	上村一次
同	二	〃	佐々木龜藏
同	一	〃	澤龜治
蜂蜜羊羹	一	〃	平尾澤治
玉スダレ	二	米子市	野澤屋商店
勝栗コーヒー	五	〃	音田乙次郎

島根縣

ワサビ餅	一	倉吉町	淡路常の
キザミ鰯	九	境町	角正一
スルメ	一〇	米子市	速水武
同	一〇	〃	中村光子
刻スルメ	三	〃	茅野治郎八
同	三	〃	矢野藤十郎
眞綿	四	〃	芦達豐治
同	四	〃	吉岡宗晴
安樂正座椅子	二	〃	田路信男
彫鐵火箸	一〇	〃	梅木先春齊
ゴム裏草履	五〇	〃	米子副業斡旋所
竹製花生	二	〃	籠谷市松
竹製品	三六	〃	内村丈夫

鳥取縣

出品

洋品雜貨	四七	鳥取市	たくみ工藝店
和紙	四二	〃	因幡紙同業組合
同	五	佐治村	佐治製紙所
飯櫃	九	鳥取市	山本熊藏
絹綿	二四	渡村	日本絹綿株式會社

島根縣

出品人員　四七　出品點數　五〇二

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
瑪瑙細工	二〇	松江市	長岡盛一
同	二五	〃	高麗商店
同	二〇	〃	長岡榮太郎
同	二五	〃	川島敎
同	二三	〃	野津猪三郎
陶器	一〇	〃	森脇乙松
同	五	〃	尾野岩次郎
同	一〇	玉湯村	船木淺太郎
同	八	〃	出雲陶器株式會社
同	六	大津村	日野義長
同	一〇	江津町	有田光之輔
同	四	〃	森脇繁之助
同	三	〃	森脇正
同	八	溫泉津町	澤福一郎
漆器	八	松江市	山本喜三郎

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
農具	二	米子市	妹原合資會社
同	一	〃	大正農工具株式會社
同	四	〃	谷川物產商會
農具	七	倉吉町	八島幸吉
石燈籠	三	境町	遠藤仁太郎

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
同	八	〃	倉石勸三郎
同	五	〃	兼本重一
同	一	〃	山根双葉
同	五	〃	石村春莊
同	二	〃	大谷忠次郎
尺八	五	〃	染次源
花器	五	〃	岩田熊太郎
雲州算盤	一	横田村	面曾善吉
同	一	〃	松浦龜三郎
同	一	〃	堀江爲右衞門
同	一	〃	上田倉藏
同	一	〃	上田忠藏
同	一	〃	渡部幸市
同	一	〃	岡田光信
同	一	〃	湯川新藏

出品

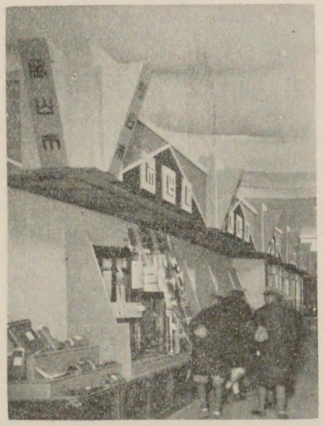
同	二	馬木村	藤原安太郎
同	一	〃	阿合常藏
算盤	二	龜嵩村	荒田久太郎
彫金製品	五	松江市	塩津正壽
同	三	〃	村田勝嘉
同	五	〃	遠所長太郎
同	三	安來町	金田正芳
菓子	一〇	松江市	內藤隆平
同	一〇	平田町	來間善重

岡山市

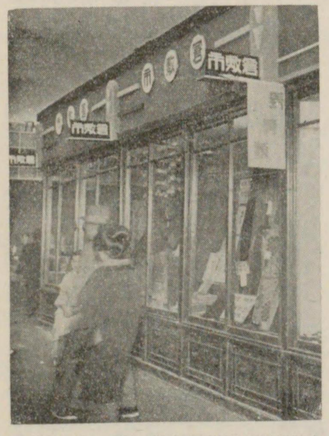
出品人員　一三　出品點數　四四〇

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
茶道具	二〇	岡山市	中川竹仙

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
魚貝罐詰	五〇	松江市	平野福次郎
同	三六	〃	三島由太郎
ワカメ	五	大社町	簸川郡水產會
同	一〇	宅野村	宅野漁業組合
紙製品	九九	岩坂村	島根民藝會 岩坂支部
和紙	二	木次町	木次製紙株式會社
同	二二	三隅町	石見紙業聯合會
複寫紙	一三	松江市	吉岡幹豐



岡山市



倉敷市

出品

小麥粉	一七ク	日清製粉株式會社岡山工場	
帆布、綿服地	一二ク	備前小倉織株式會社	
殺蟲劑	二二ク	太田芝山	
置物	四〇ク	森合資會社	
備前燒	四二ク	備前燒株式會社	
船舶用發動機	一ク	掛新一郎	

倉敷市

出品人員 七 出品點數 七五

發動機	一ク	土肥工業所	
ゴム加工品	一七ク	渡邊ゴム工業所	
噴霧器、貯藏器	三ク	藤井正治	
臺所用家具	三ク	玉井伊三郎	
和洋瓦	一〇ク	宇野洋瓦株式會社	

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
牛肉罐詰	一三〇	倉敷市	鴨井商行
木工品	一三ク	後藤喜美衛	
陶磁器	一三ク	岡本賢二	
綴通	二〇ク	日本莚業株式會社	
殺蟲劑、ハイトリ紙	一三ク	鴨井利郎	
菓子類	二六ク	木本政次郎	
同	一九ク	吉本誠一	

津山市

出品人員 六 出品點數 一、六五八

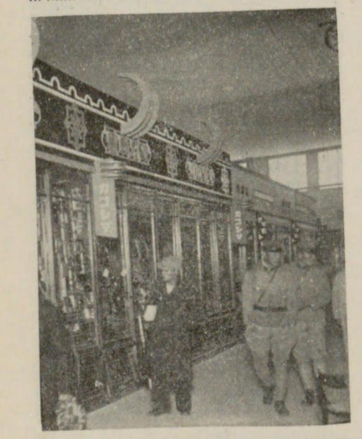
(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
袋物	一九ク	津山市	渡邊明商店
茶器、花瓶	一〇ク	小池寅治郎	
ステッキ、玩具	一六ク	須江新一	
玩具	一九ク	津山木竹工組合	
釣竿	一〇ク	稻垣金太郎	
菓子	一六ク	津山初雪製造株式會社	

奈良市

出品人員 九 出品點數 三、一九二

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
墨	六ク	奈良市	玄林堂中島伊太郎
同	一六ク	長島春太郎	
同	三〇ク	福井庄八	
同	一三ク	森竹次郎	
打刃物	七二ク	高田覺之助	
箸、角細工	一、一三九ク	金澤・奈良市	
墨	一、二一九ク	谷井友三郎	
同	七三ク	株式會社古梅園	
三笠塗	三三ク	小鍛冶宗一	

奈良市



鹿兒島縣

熊本縣

出品人員 三〇 出品點數 一、六四五

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
木蠟、晒粉	三三	熊本市	肥後製蠟株式會社
種子油、椿油	三ク	上田嘉平	
鐵、木工製品	三五ク	橋本工業研究所	
毒消丸	三〇ク	吉田順碩	
朝鮮飴	五五ク	園田勘吾	
同	一九ク	小早川慶八	

出品

同	一九	〃	松尾佐平
同	二一〇	〃	堀内雅二
庖丁	四〇	川尻町	松本正記
椿油、髪洗粉	九〇	熊本市	桑本加多脂堂
文旦漬	二〇	〃	石井商店
椎茸、青苔	二四三	〃	沖田商店
青ノリ、雲丹	九六	〃	高田嘉次郎
鮎佃煮	四八	八代町	頼藤清
素麺、茶ソバ	一二	熊本市	津留精神堂
白瀧素麺、茶ソバ	三	〃	澤井キマ
七瀧素麺	四	〃	日本貴喜一郎
素麺	三	〃	松田平八
干ソバ、汁子麺	三〇	〃	住尾善吉
五色素麺	五	〃	茂長繁雄
昭和箸ハンガー	一五〇	〃	巽卯之助
竹割箸、ミス	一二〇	〃	益富廣次
竹根ムチ、ステツキ	九一	〃	福島治平
竹機關銃	二〇五	日奈久町	潮谷廣吉
雨傘	三〇	熊本市	吉田徳次郎
野球用バット	二四	〃	瀬上市郎
スキー	六	〃	溜淵忠雄
木炭	二	人吉町	桝石隆介
同	五	〃	永見三郎
同	五	〃	末永武平治

鹿兒島縣

出品人員　二五　出品點數　九五一

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
陶器、竹製品	二六	鹿兒島市	副島己之助
陶器	三五	〃	染川清雲
同	一二	〃	有山長太郎
同	四一	〃	市來英吉
同	一四	〃	星山武治
錫器	二九	〃	大辻宇吉
竹製品	三〇	加治木町	野田與三郎
同	七六	鹿兒島市	手塚喜之助
竹製品	一六	〃	仁禮傳惠
同	一二七	〃	竹之内卯之助
同	二九	〃	八木齊
漆器	三六	〃	福田一郎
同	二〇	〃	染川ケン
文化物干	三〇	〃	川添金之助
椿油	五〇	〃	江夏實右衛門
同	三〇	〃	西村新次郎
同	二〇	〃	清園豐勝
同	三五	下甑村	東雲堅吉
ツゲ櫛	四四	鹿兒島市	大迫重義
同	六一	〃	是枝弘章

椿髪洗粉	五五	〃	上野泰秀
同	二五	〃	佐々木富喜
サツマ漬	一二	〃	中園久太郎
かごしま漬	三〇	〃	森愛之助
文旦漬	六八	〃	松野常男

和歌山縣

出品人員　一九　出品點數　四一九

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
書畫額	四	和歌山市	仁山富之助
額掛	七	海南市	岩崎榮樂堂
蚊取線香、除蟲粉	四七	保田村	山彦除蟲菊株式會社
同	八〇	宮原村	紀伊國屋除蟲菊株式會社
蚊取線香臺	一二	海南市	和歌重藏
凍豆腐	八五	山田村	葛城凍豆腐製造組合
漆器	三三	海南市	名手嘉吉
同	一八	〃	松谷榮次郎
同	二	〃	岡本禎介
同	一〇	〃	菱田德太郎
同	一二	〃	湊本彌一郎
同	三五	〃	岩井由兵衛
同	五	〃	松本豐吉
莨セット、菓子器	五	〃	清水猪太郎

出品

別府市

宮崎縣

出品

木地製品	四七	〃	吉本庫之助	同	二 〃 長谷榮藏
網代文庫	六	〃	石井元次郎	都形水屋	一 〃 和田萬太郎
建具	八	和歌山市	鳴神藤之助		

別府市

出品人員 一五　出品點數 三、六〇五

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)	(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
竹製品	一〇一	別府市	手嶋森太郎	帶止	八四	別府市	成美屋商店
同	一七五	〃	河村鉄治	百湯撰	八〇	〃	西川末雄
同	九八	〃	菅穀太郎	縫針	四〇〇	〃	免田直一
同	七〇	〃	阪東一郎	竹製品	八四九	〃	今富秀二
同	二二一	〃	諸賀彌十	玉下駄	二九八	〃	藤島市次郎
同	八三	〃	池田保	別府鑛泉	一五〇	〃	高山繁
別府絞	三〇〇	〃	別府絞商業組合	椎茸	四〇六	〃	大分縣椎茸同業組合
櫛、ツゲ細工	二八〇	〃	桂木萬太郎				

宮崎縣

出品人員 二七　出品點數 五、四二二

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)	(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
弓道具	一〇	宮崎市	日高龜太郎	同	一	〃	德永利吉
同	三	〃	大山寅一	椿油	三〇	〃	關本雅弘
陶器	七五	〃	金谷庄吉	椎茸羊羹	四二	〃	松本茂太郎
碁石	五	富高町	黒木正市	搗入餅	七五	〃	中山友三郎
同	一三	〃	黒木八百藏	豚肉加工品	六五	延岡市	山本藤市
榧碁盤	二	宮崎市	宮崎林業株式會社	食料品	一二一	宮崎市	奥野平吉

日向漬	五〇	〃	伊藤岩雄	竹製品	一〇九 宮崎市 櫻井仙太郎
オホツバラフジ	三〇	〃	阪本龍七	同	一、三九三 〃 猪野勇
椎茸	一六	延岡市	山積文雄	同	二二 〃 中尾直吉
同	一〇〇	〃	宮崎縣椎茸販賣購買組合	同	二、八四九 〃 岐部虎男
昇リ猿	二五	〃	池田トミ	同	一〇四 〃 岐部明商店
同	二五	〃	松井楢之進	欅材家具	六八 〃 宮崎木材工藝株式會社
樫製品	六三	〃	砂川九平	茶	一二八 〃 柿原政一郎
竹製洋服掛	二〇	〃	木谷新一		

沖繩縣

出品人員 一二　出品點數 九六一

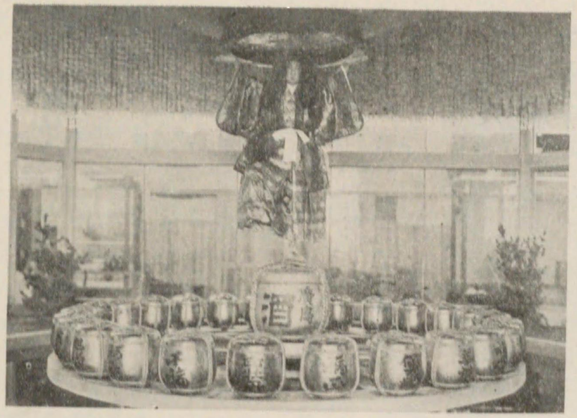
(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)	(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
漆器	三三	那覇市	米次源吉	同	一二	〃	長屋漆器店
同	三七	〃	那覇市漆器研究所	同	八二	〃	淺田漆器店
				同	四七	〃	大石昌
				花瓶、泡盛	一五〇	〃	沖繩縣物產館
				陶器	六五	〃	二宮藤吉
				同	七七	〃	黒田英氏
				琉球玩具	二五九	〃	矢賀宗友
				久葉團扇	三〇	〃	小渡行義
				豚肉罐詰、泡盛	六〇	眞和志村	沖繩貯藏食品株式會社
				豚肉デンプ	一五	那覇市	月光堂
				陶器、漆器、黒糖	九五	〃	沖繩縣物產館

出品

沖繩縣

廣島縣酒造組合（出品者）

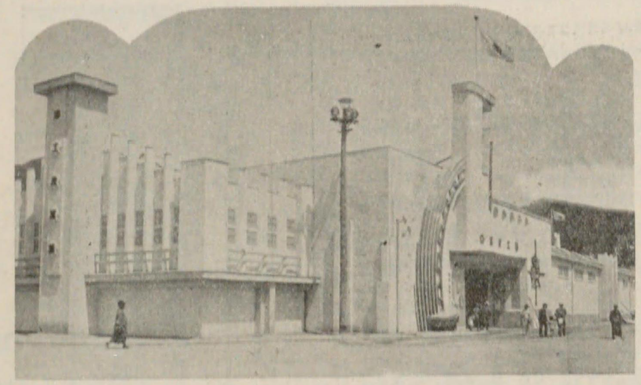
千福　合名會社三宅清兵衞商店
福正　合資會社遠藤傳右衞門商店
金獅子　石橋理一
紅葉の友　宮崎俊太郎
大内山　佐藤正人



一勝　合資會社河又商店
八代福　片岡憲三
水龍　中野光次郎
福千鳥　引地芳穂
千惠盛　水野卯之助
城基　脇源太郎
賀茂美人　山本滿衞
城乃峯　藤岡明治
華鳩　榎順藏
保万齡　佳岡八百藏
向鶴　向井佐歲
本洲一　合名會社梅田酒造場
賀茂鶴　賀茂鶴酒造株式會社
福美人　西條酒造株式會社
龜齡　石井峯吉
白牡丹　島博三
千代乃春　竹尾三郎平
旭菊水　大藤直平
醉心　山根薰
三吉正宗　三吉酒造株式會社
喜久牡丹　栗原省三

誠會（出品者）

福本銘仙店
標正商店
河野箪笥店
齋藤帶地店



鄉土産業館

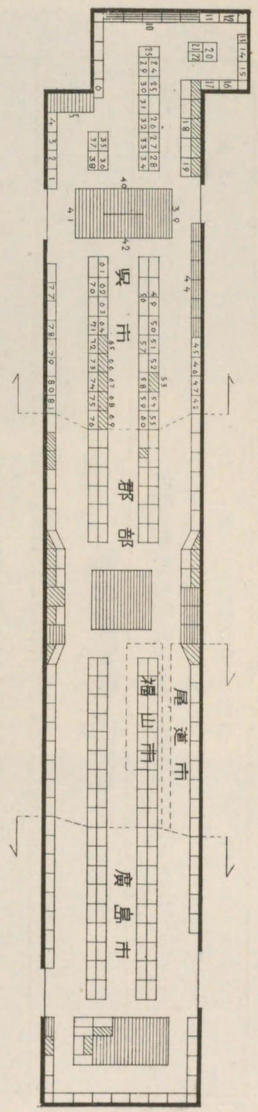
鄉土産業館

本縣は淸酒、金ペン、ゴム製品、疊表、綿織物、和洋家具、罐詰、洋針、筆、鐵工業品等々全國でも有數の大生産地として自他共に許してゐるが、各種試驗場其他の機關による科學的研究、指導は業者の自覺と相伴つて益々躍進の歩を運め、今や産業の大廣島縣は全國民羨望の的である。これら鄉土の誇る優良生産品を一堂に蒐め、全國民の淸鑑に訴へて、明日の躍進に資せんとするために設けたのが、鄉土産業館である。同館内の配置は別圖の如く最北端を廣島市、つゞいて福山、尾道市を配し、市部を除いた郡部陳列場を經て吳市を最南端に配置した。出品物はいづれも本縣を代表する地方色豐かな優良特産品であるから、衆目も亦期せずして同館内に集まり、各地業者との商談も盛んに行はれて、鄉土産業を謳歌するには、まことにふさはしい施設であつた。

鄉土産業館小間割當

尙鄉土産業館に於ける各市別小間割當は左表の如くであつた。

郷土産業館小間割圖



凡例
棚 2.5.2
台 2.6.5
土間 3.9

呉市出品配列說明

1. 藤井栄太郎（竹細工）
2. 藤井栄太郎（竹細工）
3. 國本徳次郎（竹細工）
4. 藤井栄太郎（竹細工）
5. 藤井栄太郎（竹細工）
6. 岡崎勇（竹細工）
7. 岡崎勇（竹細工）
8. 岡崎勇（竹細工）
9. 岡崎勇（竹細工）
10. 岡崎勇（竹細工）
11. 岡崎勇（竹細工）
12. 岡崎勇（竹細工）
13. 岸本商店（竹細工）
14. 岸本商店（竹細工）
15. 岡崎勇（竹細工）
16. 岡崎勇（竹細工）
17. 株式會社（呉鉄道局納入組合）
18. 株式會社（呉鉄道局納入組合）
19. 金澤ベンキ商會（呉鎮守府納入）
20. 金澤ベンキ商會（呉鎮守府納入）
21. 株式會社（呉鎮守府納入）
22. 株式會社（呉鎮守府納入）
23. 岡崎勇（竹細工）
24. 岡崎勇（竹細工）
25. 岡崎勇（竹細工）
26. 岡崎勇（竹細工）
27. 岡崎勇（竹細工）
28. 岡崎勇（竹細工）
29. 岡崎勇（竹細工）
30. 多賀幸吉（竹細工）
31. 多賀幸吉（竹細工）
32. 合名會社（印刷）
33. 株式會社（木工）
34. 株式會社（木工）
35. 株式會社（木工）
36. 株式會社（木工）
37. 岡崎勇（竹細工）
38. 株式會社（木工）
39. 株式會社（木工）
40. 株式會社（木工）
41. 呉市役所（作業所）
42. 株式會社（呉鉄道局納入組合）
43. 株式會社（呉鎮守府納入）
44. 株式會社（呉鎮守府納入）
45. 株式會社（呉鎮守府納入）
46. 株式會社（呉鎮守府納入）
47. 岡崎勇（竹細工）
48. 株式會社（呉鎮守府納入）
49. 岡崎勇（竹細工）
50. 岡崎勇（竹細工）
51. 岡崎勇（竹細工）
52. 株式會社（呉鎮守府納入）
53. 株式會社（呉鎮守府納入）
54. 岡崎勇（竹細工）
55. 岡崎勇（竹細工）
56. 株式會社（呉鎮守府納入）
57. 土産品組合（呉土産組合）
58. 三味線（呉三味線組合）
59. 株式會社（呉鎮守府納入）
60. 株式會社（呉鎮守府納入）
61. 株式會社（呉鎮守府納入）
62. 株式會社（呉鎮守府納入）
63. 株式會社（呉鎮守府納入）
64. 株式會社（呉鎮守府納入）
65. 株式會社（呉鎮守府納入）
66. 株式會社（呉鎮守府納入）
67. 株式會社（呉鎮守府納入）
68. 株式會社（呉鎮守府納入）
69. 株式會社（呉鎮守府納入）
70. 株式會社（呉鎮守府納入）
71. 株式會社（呉鎮守府納入）
72. 株式會社（呉鎮守府納入）
73. 株式會社（呉鎮守府納入）
74. 株式會社（呉鎮守府納入）
75. 株式會社（呉鎮守府納入）
76. 株式會社（呉鎮守府納入）
77. 株式會社（呉鎮守府納入）
78. 株式會社（呉鎮守府納入）
79. 株式會社（呉鎮守府納入）
80. 株式會社（呉鎮守府納入）
81. 株式會社（呉鎮守府納入）

郷土産業館小間割

縣市名	種別	臺等 特等	臺等 一等	臺等 特等	臺等 一等	土間 特別	土間 普通	合計
呉市	員數	一一	一〇	三	三	二 坪三三・五	二・〇 坪	九三・五 坪
廣島市	員數	八	一	—	—	一	九	〇・五 坪 七〇・九五
尾道市	員數	—	—	一	—	—	—	一〇・五
福山市	員數	二	—	—	—	—	—	一五・〇
廣島縣下	員數	六	八	—	—	—	四・〇	八一・五 坪 四・〇
合計	員數	二七	一九三・五	五六・五	一三	九	〇・五	二六九・〇 坪 三九・〇

出品

郷土産業館使用棚、臺、土間調

種類	特等 戸棚	一等 臺	特等 棚	一等 角	特等 臺	一等 角	土間	特設
小間數	八一	三五六	一〇	六六	一〇	三七	二	一一・五 坪 四五 坪 八三

出品

吳市

出品人員　一二二　出品點數　一〇、八四六

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
帽子、軍劍	七	吳市	廣澤國久
罐詰	一四一	〃	高須罐詰合資會社
醬油	三	〃	吳醬油株式會社
同	三	〃	森川彌一
同	三	〃	中冨靜一
同	三	〃	柳川聲香
同	三	〃	行友伊一
同	三	〃	藤本助一
同	三	〃	大本清一
同	三	〃	野鳥亀太郎
同	三	〃	野間正十郎
同	三	〃	久保一雄
同	三	〃	宮馬一男
同	三	〃	井原長四郎
同	三	〃	出來谷惣四郎
同	三	〃	小勝負菊次郎
同	三	〃	二井内重次郎
同	三	〃	水野對一郎
同	三	〃	宮田平三郎

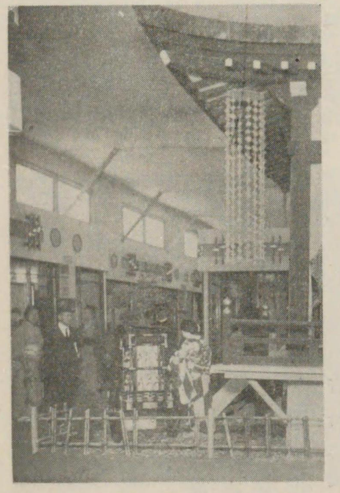
(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
同	三	吳市	藏本籔次郎
同	三	〃	橋本源吉
藥品	八三	〃	井上靜夫
錨ソース、飲食品料	六一	〃	土谷熊雄
軍服、軍帽	九	〃	高橋武雄
洋服、袴	五	〃	江草膳三郎
徽章、帽子	九九	〃	高橋武雄
洋服	四	〃	玉井繁夫
下駄、人形	四	〃	中原新作
草履	一	〃	藤田態次郎
下駄	二七	〃	城口新藏
履物	三〇	〃	畑田政人
瓦斯器具	九	〃	藤田幹一
骸炭	二〇	〃	阿賀骸炭製造所
眞綿、繭	一六	〃	島田理一
飲料品	五	〃	植田・三
同	五	〃	瀧口明一
同	五	〃	安藝飲料株式會社
同	六	〃	三好雄二

出品

同	五	〃	四谷サヨ
同	六	〃	邊渡淺右衛門
同	六	〃	森川直太郎
同	六	〃	三木染次郎
同	五	〃	河野儀三郎
同	六	〃	中本庸
眞田	二四	〃	眞田組合代表 流尾熊吉
印刷物見本	二〇	〃	二宮千穗見
金ペン額面	一	〃	金尾滿喜太
醬油	八六	〃	河又商店
綿、ガラス、ビン機械模型	二四	〃	大山盛幸堂代表 大山盛一
金ペン入額面	一	〃	藤井龜吉

鄉土產業館內

同	一	〃	碓井惟一
同	一	〃	土屋砬郎
同	一	〃	竹森義典
同	一	〃	山本吉之進
同	一	〃	佐々木俊一
同	一	〃	幸西敏人
同	一	〃	藤上正也
同	一	〃	保田清松
置物	三	〃	濱谷信行
トンビ	一	〃	香川盾吉
洋服	二	〃	武田正雄
同	二	〃	難波喜作



吳市の出品

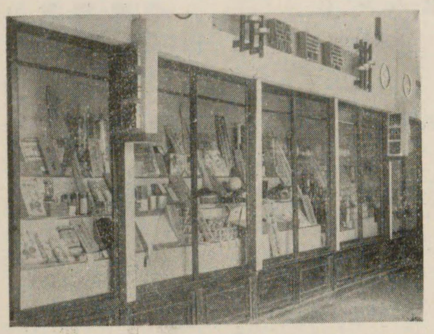
出品

同	二	呉市	村上瀧次郎
佛壇	一	村上	勇
洋服、人形	六	櫛部	儀之
机、五具足	五	吉見	鉄男
佛壇	八	同	
萬年筆、附屬器具	二九七	藤當	三二
双物類	八〇八	田坂	孝一
紐	七三四	正原	歡次郎
藥品、佛像	五	並川	豐
扇類	九九	松本	幾太郎
樂器	二七四	細田	春一
財布、手提	四八七	城本	仲吉
目藥	三〇	前田	安彦
大島紬	三五	桑原	實好
ミシン、手提金庫	三	古益	逸次郎
甚平、サックオーバ	七一	池田	令三
布團、蚊帳	一〇	森岡	若太郎
藥品	五三	十河	長次
紋美裝字	一	一二三	泰司
紋織、小紋着尺	一	棚橋	商店
琴、三味線	六	山田	正次郎
旅行之友	二六〇	田中	保太郎

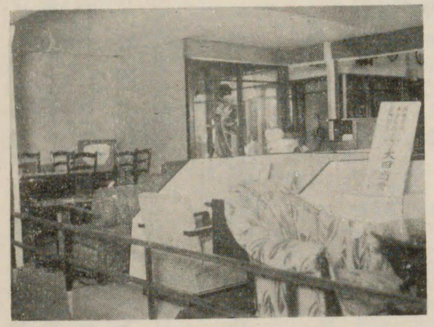
建具、家具	九三	呉市	椋田惠助
三味線	一二	谷本	竹一
エレクト、ブラツシュ	一〇〇	玉光	社
シンポ板	一五五	石本	信方
萬能オロシ、人形	七八四	山下	茂男
烹厨具掛器	四〇五	井上	淺次郎
履物	七	藤田	憲次郎
同	二八	下久保	若太郎
同	八	鈴田	豐太郎
同	八	古村	種太
同	二	石橋	嘉一郎
履物、傘	一八五	中原	新作
靴	八	葛山屋	製靴店
草履	一三	山室	久男
履物	二	畑田	政人
同	一三	山室	邦太郎
同	八	マスヤ	
同	九	宮首	憲一
同	八	欅本	林市
同	九	玉木	春一
同	一三	トミヤ	履物店
同	一〇	内海	常一

出品

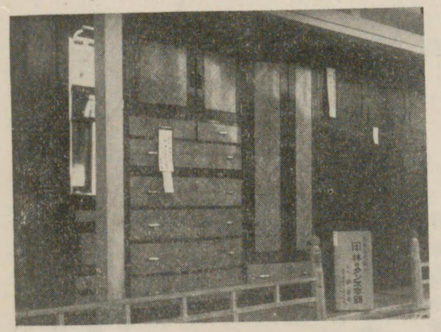
同	九	大内	康正
同	九	出野	繁人
洋服	三三	平友	四郎
コート、マント	九一	市岡	タキノ
洋家具	七	湊	琴一
簞笥	三	新藤家具	店
同	三	林	房吉
同	三	三好	富三郎
萬年筆	四六五	阪田	製作所



廣島縣の出品



家具の出品（その一）



家具の出品（その二）

ペン、インキ	二四五五	阪田	製作所
膏藥	一〇	富谷	正太郎
キンデル	五	丸岡	賓人
グリーシヨン	六	梅本	若之進
大將水	一〇	赤松	幾之助
小兒咳熱散	五	秋山	五三郎
アンチピリン散	五	小松	龜助
履物	三〇	西田	達雄
金ペン	八六八	小田	積

出品

ペン先	二六五	〃	小田積
靴形刻	四七	〃	藤國未吉
葉書繪	一二	〃	平田澤意
	四五〇	〃	二宮千穗見

廣島縣

出品人員　五〇　出品點數　二、三九一

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
織物	二	蘆品郡	備後織物第一工業組合
布地、染料	一六	福山市	福山工業試驗場
醬油	一〇六	廣島市	廣島縣醬油釀造同業組合
清酒	一七八	〃	廣島縣酒造組合
佛具	九	安佐郡	寄田靜一
造花、商標、標札	一〇	安藝郡	藤川工業會社
衡器	六	廣島市	朝日衡器製作所
同	六	〃	山陽度量衡廣島支店
同	二	〃	岩田度量衡器製作修覆所
同	四	〃	日本度量衡協會廣島縣支部
標本、清酒、清酢	五〇	〃	廣島縣釀造試驗場
疊表	一二六	安佐郡	安佐郡疊表同業組合
着物地	四〇	深安郡	備後織物工業組合

（出品物）	（點數）	（住所）	（出者品）
アートライト製品	五〇	御調郡	アートライト工場
麻織物、麻糸	四一	〃	東洋麻糸紡績會社
菓子	一二	〃	長井一郎
生糸、生糸製品	三三	〃	片倉製糸會社
饅頭	三	賀茂郡	新内仁吉
酒樽	二〇	〃	堀川保太郎
鑢	一八	〃	仁方鑢會社
織物	二	深安郡	深安織物工業組合
護謨製品	一八	廣島市	廣島縣護謨工業組合
炭酸カルシウム捣粉	二一	〃	日本炭酸カルシウム捣粉組合
眞田製品	五三	安藝郡	安藝眞田同業組合
カモジ、ネット類	七七	〃	矢野カモジ同業組合
罐詰	九〇	廣島市	廣島罐詰製造同業組合

双物	一六六	〃	小舟長治
綿折都セール袷	二	〃	江草膳三郎
子供服	四	〃	難波洋服店
鉛筆	五〇	〃	野村彌三松

出品

佛具	五	〃	三戸政太郎
醬油	九	沼隈郡	三木醬油株式會社
藥品	三〇	廣島市	廣島縣賣藥同業組合
宮島細工	二九	佐伯郡	宮島細工同業組合
茣蓙	一五	安佐郡	松本苧茣製造所
染料、壜詰罐詰、布地	四三	廣島市	廣島工業試驗場
味噌	四	蘆品郡	淺野次郎
同	六	〃	平地義雄
同	二七	〃	松岡丈市
花生籠	一	〃	山根一吉
布地	五九	沼隈郡	備南織物工業組合
醬油、清酒	四一	賀茂郡	竹原商工會

釘	四	沼隈郡	廣島縣船釘工業組合
毛筆	四一	賀茂郡	上野玉三
同	五九	〃	上野薫
同	三三	〃	中原德藏
同	三五	〃	菊谷三藏
同	三三	〃	橋本信惠
同	四九	〃	熊野筆組合
疊表	八四	沼隈郡	備後本口疊表組合
精米機、動力機	一八	賀茂郡	佐竹製作所
酢、牛肉、罐詰サイダー	八二	安佐郡	田中種市
清酒	八	賀茂郡	相原環
麵類	一六	深安郡	賀茂製麵同業組合

尾道市

出品人員　二四　出品點數　七三三

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
清酢	一八	尾道市	尾道造酢會社
米酢	三〇	〃	惠谷卯太郎
同	二四	〃	丸一酢店
柿澁	一五	〃	森甚藏
菓子	二七八	〃	尾道菓子組合

（出品物）	（點數）	（住所）	（出品者）
竹細工品	二九	〃	狼治郎
オサンド石鹼	一九七	〃	久保商店
疊表	一三	〃	小西利助
同	六	〃	青山精次郎
同	六	〃	藤井喜代造

出品		
同	八 〃	長原治郎平
同	六 〃	中前眞太郎
同	八 〃	瀧迫次作
同	五 〃	福田邦助
同	六 〃	砂卯商店
同	六 〃	黑飛數一
同	一八 〃	備後本場疊表販賣組合
清酢	一 〃	尾道造酢株式會社
同	一 〃	惠谷卯太郎
同	一 〃	丸一酢店
錨	八 〃	尾道錨製造株式會社
鯛ノ濱燒	三 〃	稻田常七
同	三 〃	島田正三郎
蒲鉾	一 〃	宗近万次郎
菓子	五 〃	金野萬一
スクリウ	一 〃	一八商會
斗壺	二 〃	丸一酢店
清酒、斗壺	三四 〃	廣島縣酢造同業組合
銀カツプ	一 〃	金野萬一

福山市

出品人員　一五　出品點數　一八七二

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
藍絣	二〇	福山市	備後藍絣株式會社
傘	二七五 〃		中島信夫
藺、麥稈細工	一、四三一 〃		貫井商店
痔療器	一〇 〃		箱田商店
ミヨシ正宗	四 〃		三吉酒造場
綿、糸	二六 〃		木村傳太郎
紙	二三 〃		福山製糸株式會社
板	一〇 〃		久德商會
絹糸	六	福山市	佐藤絹糸工場
木材	五 〃		日本木材工藝會社
藺繩	九 〃		堀章夫
石綿	四 〃		福山耐火工業所
噴霧器	一〇 〃		河村一郎
削鰹節	三五 〃		安部和助
綟網糸	一九 〃		西備綟網株式會社

廣島市

出品人員　三九　出品點數　八四八

(出品物)	(點數)	(住所)	(出品者)
琴、三味線	九	廣島市	山代熊吉
同	三 〃		山田金藏
家具	八 〃		須浦廣齊
ゴムパテ	一三 〃		立川理吉
劍道々具	一五 〃		堀田商店
ホルモン灸器	三 〃		近藤正三郎
衣裳行李	四 〃		高木繁三郎
金具	六六 〃		藏田兵次郎
砥石、バルブコムバウンド	八一 〃		水田豐之助
染色物	三二 〃		廣島染色研究會
同	一〇 〃		株式會社立石商店
洋品雜貨	三三 〃		辰上俊一
綿	一〇 〃		藤野製綿株式會社
足袋、紺絣、蚊帳	四三 〃		株式會社三宅商會
ラミー糸	一〇 〃		大正ラミー紡績株式會社
ガツト、バイオリン糸	二〇 〃		河崎源次郎
菓子	一九八 〃		廣島縣菓業研究會
製菓原料	三四 〃		小早川源平
アミノ酸、ヤマト味	五 〃		株式會社鈴木榮助商店
味噌	八 〃		楠原茂三郎
疊	五 〃		三戸孝作
釜、器具、腰掛	一八 〃		今西安兵衛
机、腰掛	一四 〃		藤野泰次
ペイント	一四 〃		長谷川船底塗料株式會社
建具雛型	六〇 〃		吉田勘左衛門
建具	一三 〃		花木國人
敷居	六 〃		西本信吉
柱、天井板	一五 〃		中本京一
徽章、金具	四六 〃		熊野秀吉
卓子、椅子	六 〃		大田誠一
家具	四 〃		川野靜一
同	五 〃		山本勘太郎
卓子、棚、椅子	六 〃		小泉慶吉
同	四 〃		久光巖
同	四 〃		山本久吉
同	五 〃		宮崎義武
同	八 〃		マルニ木工株式會社
蚊帳	八 〃		川手源市
人形着付錦紗小紋	二 〃		光永呉服店